

始



3-2

174

各砲兵聯隊長大中隊長殿校訂
陸軍砲兵大尉山本寅三郎編纂

野山砲兵須知

完

東京

軍友協會發行



勅諭

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にぞある昔神武天皇躬
 づから大伴物部の兵どもを率る中國のまつろはぬものどもを
 討ち平げ給ひ高御座に即かせられて天下しろしめし給ひしよ
 り二千五百有餘年を経ぬ此間世の様の移り換るに隨ひて兵制
 の沿革も亦屢なりき古は天皇躬から軍隊を率る給ふ御制にて
 時ありては皇后皇太子の代らせ給ふ事もありつれど大凡兵權
 を臣下に委ね給ふ事はなかりき中世に至りて文武の制度皆唐
 國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人など設け
 られしかば兵制は整ひたれども打續ける昇平に狃れて朝廷の
 政務も漸文弱に流れければ兵農たのづから二に分れ古の徴兵

大正
 4. 11. 12
 内交

もいつとなく壯兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は一向
に其武士どもの棟梁たる者に歸し世の亂と共に政治の大權も
亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治とはなりぬ世の様の移
り換りて斯くなれるは人力もて挽回すべきにあらずとはいひ
ながら且は我國體に戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間し
き次第なりき降りて弘化嘉永の頃より徳川の幕府其政衰へ剩
へ外國の事ども起りて其侮をも受けぬべき勢に迫りければ朕
が皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇痛く宸襟を惱し給ひしこそ忝く
も又惶けれ然るに朕幼くして天津日嗣を受けし初征夷大將軍
其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を経ずして海内一
統の世となり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を

輔翼せる功績なり歴世祖宗の専ら蒼生を憐み給ひし御遺澤な
りといへども併しながら我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義
の重きを知れるが故よこそあれされば此時よ於て兵制を更め
我國の光を輝かさと思ひ此十五年が程に陸海軍の制をば今
の様に建定めぬ夫兵馬の大權は朕が統ふる所なれば其司々を
こそ臣下には任すなれ其大綱は朕親ら之を攬り肯て臣下よ委
ぬべきものにあらず子子孫孫に至るまで篤く斯旨を傳へ天子
は文武の大權を掌握するの義を存して再中世以降の如き失體
なからんことを望むなり朕は汝等軍人の大元帥なるぞされば
朕は汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰ぎて其親は特に
深かるべき朕が國家を保護して上天の惠に應じ祖宗の恩に報

ひまらする事を得るも得ざるも汝等軍人が其職を盡す盡
さざるとに由るぞかし我國の稜威振はざることあらは汝等能
く朕と其憂を共にせよ我武維揚りて其榮を輝かさは朕汝等と
其譽を共にすへし汝等皆其職を守り朕と一心になりて力を國
家の保護に盡さは我國の蒼生は永く太平の福を受け我國の威
烈は大に世界の光華ともなりぬべし朕斯くも深く汝等軍人に
望むなれば猶訓諭すへき事こそあれいでや之を左に述べむ
一軍人は忠節を盡すを本分とすべし凡生を我國に稟くるもの
誰かは國に報ゆるの心なかるべき況して軍人たらんものは
此心の固からでは物の用に立ち得べしとも思はれず軍人に
して報國の心堅固ならざれば如何程技藝に熟し學術に長ず

四

るも猶偶人に等しかるべし其隊伍も整ひ節制も正しくとも
忠節を存せざる軍隊は事に臨みて烏合の衆に同かるべし抑
國家を保護し國權を維持するは兵力に在れば兵力の消長は
是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はず政治に拘らず只
只一途に己が本分の忠節を守り義は山嶽よりも重く死は鴻
毛よりも輕しと覺悟せよ其操を破り不覺を取り汚名を受く
るなかれ

一軍人は禮義を正しくすべし凡軍人には上元帥より下一卒に
至るまで其間に官職の階級ありて統屬するのみならず同列
同級ともに停年に新舊あれば新任の者は舊任の者に服従す
べきものを下級の者は上官の命を承ること實は直に朕が命

五

を承る義なりと心得よ已か隸屬する所にあらずとも上級の
 者は勿論停年の已より舊きものに對しては總て敬禮を盡す
 べし又上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あ
 るべからず公務の爲に威嚴を主とする時は格別なれども其
 外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一致して王
 事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬はず
 下を惠まらずして一致の和諧を失ひたらんには常に軍隊の蠹
 毒たるのみかは國家の爲にもゆるし難き罪人なるべし
 一軍人は武勇を尙ふべし夫武勇は我國にては古よりいとも尙
 べる所なれば我國の臣民たらんもの武勇なくては叶ふまじ
 況して軍人は戰に臨み敵に當るの職なれば片時も武勇を忘

れてよかるべきかさはある武勇には大勇あり小勇ありて同
 からず血氣にはやり粗暴の振舞なせせんは武勇とは謂ひ難
 し軍人たらむものは常に能く義理を辨へ能く膽力を練り思
 慮を盡して事を謀るべし小敵たりとも侮らず大敵たりとも
 懼れず己が武職を盡さむこそ誠の大勇にはあれざれば武勇
 を尙ぶ者は常常人に接するには温和を第一とし諸人の愛敬
 を得むと心掛けよ由なき勇を好みて猛威を振ひたらば果は
 世の人も忌嫌て豺狼なむの如く思ひなむ心すべき事にこそ
 一軍人は信義を重んずべし凡信義を守ること常の道にはあれ
 どわきて軍人は信義なくて是一日も隊伍の中に交りてあら
 んこと難かるべし信とは己が言を踐行ひ義とは己が分を盡

すをいふなりされば信義を盡さむと思はば始より其事の成
 し得べきか得べからざるかを審に思考すべし臆氣なる事を
 假初に諾ひてよしなき關係を結び後に至りて信義を立てん
 こそすれば進退谷りて身の措き所に苦むこそあり悔ゆとも其
 詮なし始に能事の順逆を辨へ理非を考へ其言は所詮踐む
 べからずと知り其義はとて守るべからずと悟りなば速に
 止るこそよけれ古より或は小節の信義を立てんとて大綱の
 順逆を誤り或は公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守りあ
 たら英雄豪傑ごもが禍に遭ひ身を滅し屍の上の汚名を後世
 まで遺せるこそ其例尠からぬものを深く警めでやはあるべ
 き軍人は質素を旨とすべし凡質素を旨とせされば文弱に流

れ輕薄に趨り驕奢華美の風を好み遂には貪汚に陥りて志も
 無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はじきせ
 らるる迄に至りぬべし其身生涯の不幸なりといふも中中愚
 なり此風一たび軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延
 し士風も兵氣も頓に衰へぬべきこそ明なり朕深く之を懼れ
 て曩に免黜條例を施行し略此事を誠め置つれど猶も其惡習
 の出でんことを憂ひて心安からねば故に又之を訓ふるぞか
 し汝等軍人ゆめ此訓誡を等閑にな思ひぞ
 右の五ヶ條は軍人たらんもの暫も忽にすべからずさて之を行
 はんには一の誠心こそ大切なれ抑此五ヶ條は我軍人の精神に
 して一の誠心は又五ヶ條の精神なり心誠ならされば如何なる

嘉言も善行も皆うはべの裝飾にて何の用にかは立つべき心た
 に誠あれば何事も成るものぞかし況してや此五ヶ條は天地の
 公道人倫の常經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕が訓に
 遵ひて此道を守り行ひ國に報ゆるの務を盡さば日本國の蒼生
 舉りて之を悦びなん朕一人の憚のみならんや

明治十五年一月四日

御名 御璽

山野砲兵須知目次

第一課	勅諭ノ講義	一
第一章	勅諭ノ五箇條	一
第二章	大正勅諭ノ解	五
第三章	勅諭ノ下賜日	九
第二課	讀法の義解	九
第三課	精神訓話	一四
第一章	日本帝國國體ト萬國ニ冠絶シタル所以	一四
第二章	我皇室	一六
第三章	皇室ト軍隊トノ關係	一八
第四章	協同一致ノ訓話	二〇
第五章	忍耐力ノ話	二一
第六章	名譽ノ話	二二
第七章	軍紀ノ話	二三

第八章	風紀ノ話	二四
第九章	攻撃精神ノ必要	二六
第十章	武器ノ愛護	二七
第十一章	公德心ノ話	二八
第十二章	軍旗ノ尊敬	二九
第十三章	上官ニ對スル心得	三二
第十四章	同僚ニ對スル心得	三三
第十五章	在營軍人以外ノ人ニ對スル心得	三四
第十六章	自己ノ心得	三四
第十七章	馬ニ對スル心得	三九
第四課	上官ノ官姓名	四一
第五課	各兵種ノ性能及識別	四三
第一章	各兵種ノ性能	四三
第二章	各兵科各部ノ識別	四六
第六課	團體編成ノ概要	四七

第七課	武官階級及服制	四八
第一章	陸軍々人階級表	四八
第二章	服制	四九
第八課	軍隊内務書ノ摘要	五五
第一章	上官ヲ尊稱シ他人ヲ稱呼スル爲シ方	五五
第二章	兵營内起居ノ容儀	五七
第三章	服從	六九
第四章	日課	七一
第五章	中隊ノ組織及事務	七二
第六章	診斷	七四
第七章	週番勤務	七五
第八章	檢査	七六
第九章	外出	八五
第十章	火災豫防、消防及非常呼集	九二
第十一章	酒保	九六
第十二章	兵營及室内裝置	九七

第十三章	馬ノ衛生及厩ノ心得	一〇〇
第九課	勳章徽章其他褒賞ニ關スル事項	一〇四
第一章	勳章	一〇四
第二章	記章	一〇四
第三章	徽章及褒賞	一一二
第十課	陸軍禮式摘要	一一三
第一章	通則	一一五
第二章	室内ノ敬禮	一一五
第三章	室外ノ敬禮	一一七
第四章	歩哨ノ敬禮	一一九
第十一課	刑罰ニ關スル事項	一二五
第一章	懲罰令ノ摘要	一二七
第二章	陸軍刑法及施行法ノ摘要	一二七
第十二課	被服ノ名稱手入及裝著法	一三八
第一章	被服ノ名稱	一三一
第二章	裝具ノ名稱	一三一

第三章	被服裝具ノ手入法	一三六
第四章	服裝法及著裝ノ注意	一四三
第十三課	馬事ニ關スル學科	一五〇
第一章	馬體ノ名稱馬匹ノ毛色	一五〇
第二章	飼養品	一五四
第三章	飼與	一五五
第四章	馬ノ取扱	一六〇
第五章	馬蹄及蹄鐵	一七一
第六章	馬匹ノ疾病及外傷	一七七
第七章	馬具ノ名稱	一八六
第八章	馬具ノ手入法	一九二
第九章	馬具ノ裝法	一九六
第十四課	火砲	二〇七
第一章	火砲ノ種類及効用	二〇七
第二章	三十八年式速射砲ノ名稱及大要	二〇八
第三章	火砲ノ取扱及手入法	二二二

第十五課 救急法大意.....二三四

第一章 創傷.....二三四

第二章 三角巾.....二三一

第三章 急病.....二三六

第四章 人工呼吸法.....二二九

第十六課 衛生法大意.....二四一

第十七課 勤務之大要.....二四四

第一章 衛戍勤務.....二四四

第二章 風紀衛兵.....二四七

第三章 諸當番從卒.....二四九

第十八課 陣中要務ノ大要.....二五三

第一章 方位ノ識別.....二五三

第二章 徵候.....二五七

第三章 傳令勤務.....二五九

第四章 行軍.....二六一

第五章 宿營.....二六八

第六章 警戒.....二七三

第七章 行李.....二七九

第八章 給養.....二八〇

第九章 陣中衛生.....二八一

第十章 彈藥補充.....二八三

第十一章 演習ノ注意.....二八四

第十九課 教練ニ關スル學科.....二八八

第一章 人體ノ名稱.....二八八

第二章 難路及障碍物通過.....二九〇

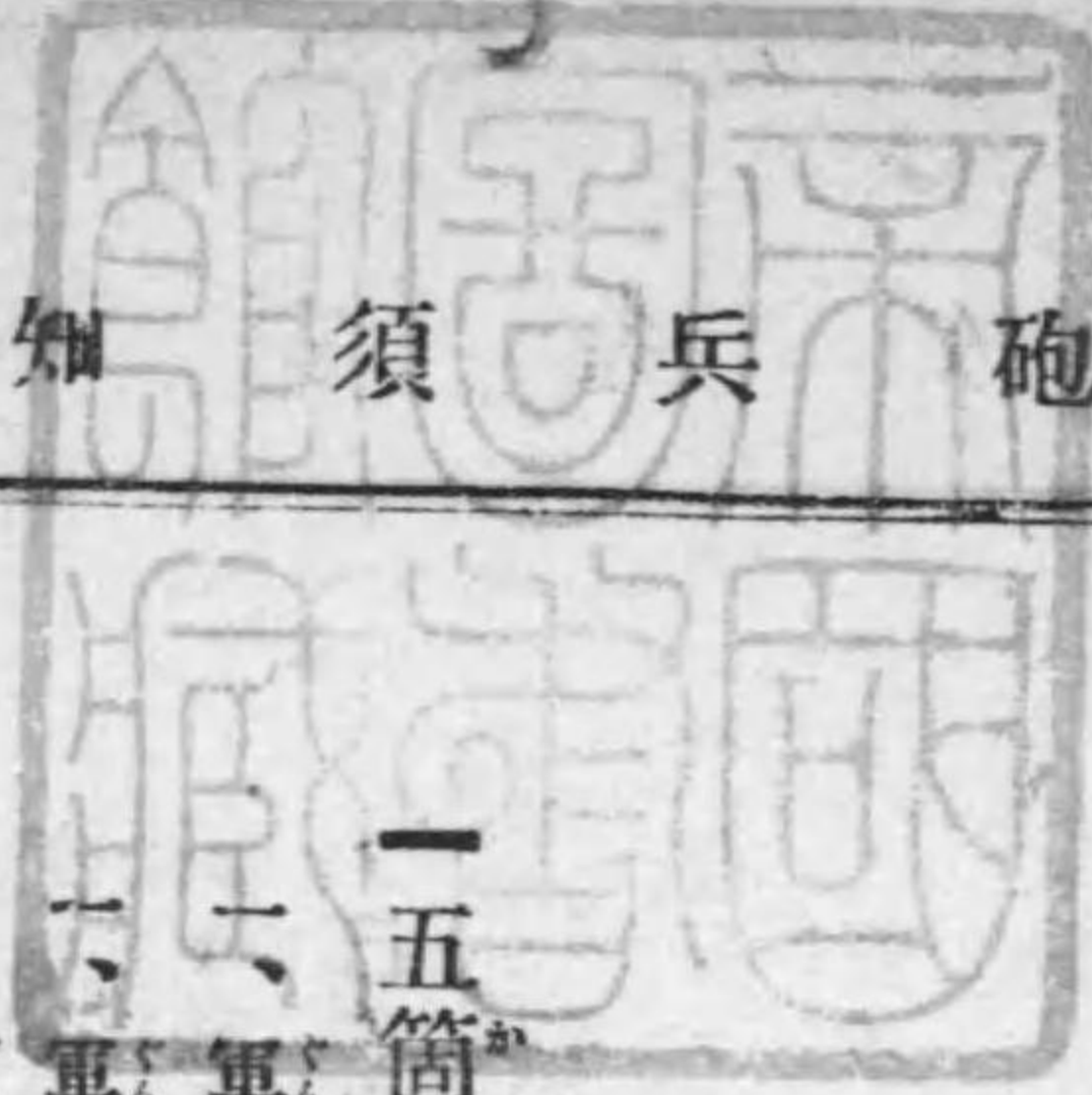
第三章 射擊.....二九七

第二十課 作業ニ關スル學科.....三〇二

第一章 野戰築城.....三〇二

第二章 道標.....三〇五

第三章 軍路幅員.....三〇六



山野砲兵須知

第一課 勅諭ノ講義

第一章 勅諭ノ五箇條

一 五箇條ノ御教訓

- 一、軍人ハ忠節ヲ盡スヲ本分トスベシ
- 一、軍人ハ禮義ヲ正シクスベシ
- 一、軍人ハ武勇ヲ尙フベシ
- 一、軍人ハ信義ヲ重ズベシ
- 一、軍人ハ質素ヲ旨トスベシ

目次

第四章 道路ノ補修及新築	三〇六
第二十一課 射撃ニ關スル學科	三〇七
第一章 學理	三〇七
第二章 照準法	三一四
第三章 照準手	三一六
第四章 射撃法	三一八
第五章 距離測法	三一九
第二十二課 赤十字ノ大要	三二四

二 忠節ヲ盡ス方法

忠節ヲ盡サントスル軍人ハ先ヅ平時ニアリテハ自分ノ職責ノ爲メ上官ヨリ教ヘラル學術ヲ覺ヘ命ゼラル業務ニ勉勵シ一朝事アリ戰場ニ臨ミテハ命ヲ惜マズ義ハ山嶽ヨリモ重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟シ彈丸雨ヤ霰ノ如ク飛ビ來ルモ事トモセズ天皇陛下ノ御爲メ我日本帝國ノ爲メ己ノ本分ヲ盡サネバナラヌ

三 禮義ヲ正クスル方法

禮義ヲ正クスルニハ上官先輩ヲ心カラ敬ヒ自分ヨリ後ニ入營シタル者ヲ愛スレバ禮義正シキ軍人トナルノデ有ル若シ軍人ガ禮義正シカラザル時ハ上ヲ敬フモノナク下ヲ惠ムモノナク上下一致ノ美ヲ失ヒ爲メニ軍紀風紀モ亂レルカラ此様ナ軍人ハ軍隊ノ毒蟲トナルノミナラス國家ノ爲罪人トナル

四 大勇ト小勇トノ區別

大勇トハ人ト喧嘩等ヲセズ温順デ有ルガ有事ノ際ハ如何ナル苦難ノ戰鬪ニモ耐ヘ小敵ヲ侮ラザルト云フ猛キ勇キ氣象ナレトモ小勇トハ血氣ノ元氣デ人ト争鬪口論ヲ好ミ常ニ空威張リナドスル者ヲ言フ

大勇ノ人ハ人々ニ平常如何ニシテ接スルヤ

大勇アル人ハ平素人ト交ルニ温和ヲ第一トシ他人ノ敬愛ヲ受クルコトヲ心掛ケツツアリ然レドモ一旦戰場ニ臨テハ百萬ノ敵モ懼レズ又小敵タリトモ侮ラザル者ナリ

五 信義ヲ重スル軍人

信義ヲ重スル軍人ハ人ト約束スル前ニ其約束ガ實行出來ルカ否ヤヲ考ヘ確ニ出來ルト認メタ時ニ約束ヲ爲スベシ
言フ事ト爲ス事ト異リ又ハ上官ノ前ト上官ノ居ラザル處トニテ仕事ノ

變ルハ信ナキ軍人ナリ

一旦事ヲ爲シ其事ガ悪キト知ラバ速カニ止マルベシ

上官ヨリ命ゼラレタル己ガ任務ハ何處マデモ遣リ通ス心掛ハ義ナリ

六軍人ハ何故質素ヲ重ゼザルベカラザルカ

若シモ軍人ガ驕リ高振リ虚榮心ニ流ル、ニ至テハ文弱ニ流レ其結果金財ヲ望ミ忠節モ武勇モ忘レテ其志モ賤クナル故ニ最モ儉約デナケレ

バナラヌ

七如何ニセバ兵卒ハ質素ノ軍人ト成ルヤ

兵卒ハ官給品ヲ以テ日常ノ身ノ廻リヲ足シ郷里ヨリ送金ヲ求メズ餘リヲ貯金ヲ爲シ得ル如キヲ質素ト云フ日曜日ニ外出シ多クノ金錢ヲ浪費シ又私物ノ服装ナド整ルハ質素ニ非ザルナリ

第二章 大正勅諭ノ解

朕茲ニ大統ヲ嗣キ朕(天子様が、ゴジブノコトヲオホセラレルオンコトバ

列聖ノ遺烈ヲ承ケダイダイノスグレタカタノ、オノコシ 萬世一

系ノムカシカラノチマデ、ダイ 帝祚ヲ踐ムニ膺リ天子ノクラヲ非ナ 特

ニ朕力親愛スルトクベツニ、朕ガシ 陸海軍人ニ告クリクダ

惟フニ皇考オモヘバ、ナキチチギ 曩ニ汝等ニマヘカ

軍人ノ精神五箇條ヲ訓諭シ軍人ノタマシヒトスベキ五箇條

一誠以テ之ヲ貫ク可キチヒトツソマコトノコ

示^シ給^{タマ}へリ オシメシ 汝^{ナン}等^ラ軍^{グン}人^{ジン}ハ オマヘタ 夙^{シユク}夜^ヤ此^{コノ}聖^{セイ}訓^{ケン}

ヲ奉^{ホウ}體^{タイ}シ ヨルモヒルモ、コノカシコキヲ 累^{ルキ}次^ジノ征^{セイ}戰^{セン}ヲ經^ヘ タビタビ

國^{コク}威^キヲ宣^{セン}揚^{ヤウ}シ ミクニノ、キクワウ 皇^{クワウ}基^キヲ恢^{クワイ}弘^{コウ}シ ミクニノドダ

以^{モツ}テ曠^{クワウ}古^コノ偉^キ績^{セキ}ヲ翼^{ヨク}成^{セイ}シタリ ソレデモツテ、ムカシカラナ

朕^{ナン}ハ朕^{ナン}力^{リキ}統^{トウ}率^{ソツ}スル所^{トコロ}ノ軍^{グン}隊^{タイ}ハ 朕ハ、朕ノ、スベヒキ 即^{スナハ}チ是^コ

レ皇^{クワウ}考^{カウ}ノ トリモナホサズ、コ 慈^ジ育^{イク}愛^{アイ}撫^ブシ給^{タマ}ヒタル所^{トコロ}ノ

軍^{グン}隊^{タイ}ナルチ念^{オモ}ヒ 軍隊アルコ 汝^{ナン}等^ラ軍^{グン}人^{ジン}ノ

忠^{チュウ}勇^{ユウ}ニ信^{シン}倚^イシ チ、シンジテ、タノミトシ 皇^{クワウ}考^{カウ}ノ偉^キ業^{ゲツ}ヲ

紹^{セウ}述^{ジュツ}シ ナキチチギミノ、オノコシニ 倍^{マス}々^ク皇^{クワウ}國^{コク}ノ光^{クワウ}威^キヲ顯^{ケン}彰^{シヤウ}シ

億^{オク}兆^{テウ}ノ福^{フク}祉^シヲ オホクノ、ジンミン 增^{ゾウ}進^{ジン}セムコ

トチ冀^{コヒチガ}フ マシ、ススメタ 汝^{ナン}等^ラ軍^{グン}人^{ジン}ハ オマヘタ 皇^{クワウ}考^{カウ}ノ遺^イ訓^{ケン}ニ

由^ヨリ ナキチチギミノ、オノコシ 以^{モツ}テ直^{チキ}ニ之^{コレ}ヲ朕^{ナン}力^{リキ}身^ミニ効^{イク}シ

愈^{イヨ}々^ク奉^{ホウ}公^{コウ}ノ志^シヲ鞏^{コウ}クシ マスマス、オホヤケノコ

思^シ索^{ソク}ノ選^{セン}ヲ慎^{シン}ミ カンガヘチ、ワルイハウニ、 宇^ウ内^{ナイ}ノ大^{ダイ}勢^{セイ}ニ

鑑^{カン}ミ セカイノ、イキホ 時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

時^ジ世^{セイ}ノ進^{シン}運^{ウン}ニ伴^{トモ}ヒ シダイノ、ススミユク 拮^{キツ}

据勵精キョレイセイ 各其本分オノノホンブン ヲ竭シツクシ 朕力股チンリキ

肱コウタルノ實ジツヲ舉アケ 朕朕ノ、テ、アノコトヲ、アシトナツテ、タヨリト 以モツテ皇ワウ謨ボ

ヲモツテ、ロガオモ 扶翼フヨクセムコトヲ期キセヨ タスケルヤウニ、

カクゴセヨ

第三章 勅諭ノ下賜日

勅諭ちよくゆヲ軍人ぐんじんニ賜たまはリタル日 明治十五年一月四日ナルコ

トヲ記臆きおくセヨ

大正勅諭たいしやうちよくゆヲ賜たまはリタル日 大正元年七月三十日

第二課 讀法の義解

讀法ドクホフ (義解)

兵隊へいたいハ皇威こういヲ發揚はつやうシ 國家こくがヲ保護ほご

スル爲ためメニ設たケ置おカル、モノナレハ 國くにヲモルタメ

此兵員こへいぎんニ加くル者ものハ宜よろク左ひだりノ條件じョウケンヲ守まもリ違ちが

背スヘカラス 日本ノ軍人ハ、カタクツギニ、カ、サテアル、カクツヨリノコトヲマモリ、ソムイテハナラヌ

第一條 誠心ヲ本トシ マゴ、ロチ、 忠節ヲ盡シ 天皇陛下ヘチユイギヲ

不信不忠ノ所爲アルヘカラサル事 マコトデナイコトヤ、フチニシテハナラナイ

第二條 長上ニ敬禮ヲ盡シ 自分ヨリメウヘノカタニケレチ、タツクツクシ 等輩

信義ヲ致シ トモダチドチハ、タガヒニマコトチモツテツキアヒ 粗暴倨傲ノ所爲

アルヘカラサル事 ランボチヤ、テアラコトヤ、ラゴリタカブルヨリナ、オコナヒガアツテハナラヌ

第三條 長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハス メウヘノヒトノイ

直チニ之ニ服從シ スグサマ、コレニ、シタガヒ 抗抵干犯

ノ所爲アルヘカラサル事 テイコトシタリ、ソムクヨリナ、サコナイガアツテハナラヌ

第四條 膽勇ヲ尙トヒ キモダマラ 軍務ニ勉勵シ タイノコトニ

胆怯柔懦ノ所爲アルヘカラサル事 オクビヨリヤヨラシ

第五條 血氣ノ小勇ニ誇リ ワカゲンキニ 争鬪ヲ好ミ コト

他人ヲ侮慢シ ミブンヨリ他人ヲ 世人ノ厭忌ヲ來

ス等ノ所爲アルヘカラサル事 ヨノナカソ人ニイミキラハレルヨリナ、オコナヒガアツテ

第六條 道德ヲ修メ トクギヲ 質素ヲ主トシ ケンヤクサダ

浮華文弱等ニ流ル、ノ所爲アルヘカラサル事 コト

ウハベノカザリヤ、ヨロヨロシキフルマイニナガレテハナラヌ

第七條

名譽ヲ尙トヒ

廉耻ヲ重シ

コトナシ

賤劣貪惡ノ所爲アルヘカラサル事

以上掲ル所ノ外

法律規則ニ違犯シ

罪ヲ國家ニ得ルニ至テハ

辱シメ

家聲ヲ汚シ

醜ヲ後世ニ

遺シ

ナリ

況ンヤ重罪ノ如キハ

各人天賦ノ公權ヲモ剝奪セラレ

世ニ立チ

人ニ接ルモ

總テ對等ノ權

利ヲ得サルニ至ルニ於テオヤ

名譽ヲ尙トヒ

廉耻ヲ重シ

在リテハ

就中陸軍刑法ハ軍隊ノ害ヲ爲ス者ヲ

殊ニ戒慎ヲ加ヘサルヘカラ

ス

頗ル嚴ナリ

害スルノミナラス

番ニ本分ヲ誤リ軍隊ノ安寧ヲ

人ノ信用ヲ損シ

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

名譽ヲ尙トヒ

廉耻ヲ重シ

在リテハ

就中陸軍刑法ハ軍隊ノ害ヲ爲ス者ヲ

殊ニ戒慎ヲ加ヘサルヘカラ

ス

頗ル嚴ナリ

害スルノミナラス

番ニ本分ヲ誤リ軍隊ノ安寧ヲ

人ノ信用ヲ損シ

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等

陸軍ノヒヨリバンマデ、
ヨゴスヨリニナリテ、
其責更ニ重シ
ラ戒飭シテ
ツネトシブンデ、
決シテ違犯スヘカラサル
モノナリ
オカシテハナラヌ

第三課 精神訓話

第一章 日本帝國々體と萬國に

冠絶したる所以

我日本帝國ハ今ヨリ二千五百有餘年前伊邪那伊邪美二尊君臨在シマ
シ天照皇大神ヲ生マシ大神ノ御統神武天皇ヲ初代トシ皇統連綿トシテ
萬世一系ノ皇室ヲ頭首ト仰ギ其國民ハ皆神代或ハ神武天皇以來ノ臣民若
シクハ皇室ヨリ分岐シタル朝臣ヲ祖先トシ今日ニ至レリ

神武天皇御即位ノ始メ國內ノ土賊ヲ平定シ給ヒ武ヲ以テ國ヲ建テラレ國
内ヲ統治シ其間治亂ノ小事ナキニ非ザルモ隋唐ト交通シ其文物ヲ移植シ
奈良平安ノ二朝文明ト成リ中古政權ノ武門ニ歸シテ尙武ノ氣旺ナル時偶
マ元ノ來寇アリテモ一指ヲ我國ニ加フル能ハズ又亂臣賊子有リト雖モ帝
位ヲ危クスルモノナク終ニ徳川氏ノ末世ニ至リ西洋諸國トノ交通ヲ啓キ
シ爲メ武門ノ政治ハ破壊セラレ維新ノ宏漢成リ、専心西洋文明ヲ輸入シ
長ヲ採リ短ヲ補ヒ勃興ノ氣運ヲ至シタリ
歴代ノ皇室ハ能ク民ヲ愛シ惠ミ人民能ク順逆ノ道ヲ辨ヘ英邁ナル高德
ノ帝少カラザリシモ就中近世ニ至リ明治天皇御位ニ即セ以來英姿雄壯清
國ト戦ヒ臺灣ヲ領シ露國ト戦ヒ遼東及樺太ヲ領シ朝鮮ヲ併合ス大正ノ御
代獨逸ト戦ヒ山東ノ地ヲ扼シ南洋ヲ占ム
嗚呼我帝國ハ山麗シク水清キノミナラズ君臣ノ分定マリ三千年ノ間皇

一六
統連綿トシテ然モ戰ヘバ必ズ勝ツ未ダ外國ノ侮リヲ受ケシ事莫シ今日已ニ世界ノ一等國ニ列スルノミナラズ此ノ如キ國體ヲ有スル國民果シテ宇内何處ニ有ル哉
此赫々ト美クシキ地勢ト歴史ヲ有スル帝國ノ軍人ハ以テ此國體ヲ辱シメラレザラン覺悟コソ必要ナリ

第二章 我皇室

- 天皇陛下 御名嘉 仁 明治十二年八月三十一日御降誕
- 皇后陛下 御名節 子 明治十七年六月二十五日御降誕
- 皇太子殿下 御名裕 仁 明治三十四年四月廿九日御降誕
- 皇子殿下 御名雍 仁 陸軍歩兵中尉海軍中尉 明治三十五年六月廿五日御降誕

皇子殿下 御名高松宮宣仁

明治三十八年一月三日御降誕

右方々之外軍人トシテ我陸海軍ニ御職ヲ採ラル皇族

- 陸軍大將大勳位功二級元帥 伏見宮貞愛親王殿下
- 陸軍大將大勳位功二級軍事參議官 閑院宮載仁親王殿下
- 陸軍少將大勳位功四級近衛歩兵第一旅團長 久邇宮邦彦王殿下
- 陸軍少將大勳位功四級歩兵第二十八旅團長 梨本宮守正王殿下
- 陸軍騎兵中佐大勳位功五級聯隊長 竹田宮恒久王殿下

陸軍砲兵大尉勳一等近衛砲兵聯隊中隊長

北白川宮成久王殿下

陸軍歩兵大尉勳一等中隊長

朝香宮鳩彦王殿下

陸軍歩兵大尉勳一等中隊長

東久邇宮稔彦王殿下

海軍中將大勳位功三級海軍軍令部出仕

東伏見宮依仁親王殿下

海軍少將大勳位功四級

伏見宮博泰王殿下

第三章 皇室ト軍隊トノ關係

我國ノ軍隊ハ直接ニ 皇室ニ隷屬シ寸時モ離ル可ラズ假令内閣ガ交更シ

政變アルトモ軍隊ハ憲法第十一條ニ即チ

天皇ハ陸海軍ヲ統治ス

昔ヨリ天皇陛下躬ヲ率ヒタマフ御制ニテ勅諭ニモ

朕ハ汝等軍人ノ大元帥ナルゾサレバ

朕ハ汝等ヲ股肱ト頼ミ汝等ハ 朕ヲ

頭首ト仰キテ其親ミハ特ニ深カルベ

キト仰セラル

是等ニ依テ見ルモ皇室ト軍隊ハ相離ル可ラザル身體ノ如ク此軍隊ニ列ス

ル兵員ノ光榮之ニ過ギザル可ク從テ皇室ヲ尊敬シ皇室ヲ守護シ以テ 大

元帥陛下ノ命ニ基キ國家ヲ保護シ國威ヲ輝カサザル可ラズ

第四章 協同一致ノ訓話

一 協同一致トハ如何

互ニ心ヲ協セ働キヲ共ニスルヲ云フ

二 協同一致ヲ尙ブ所以如何

寡ハ衆ニ敵スベカラズ小ハ大ニ抗スベカラスト雖寡ヲ以テ衆ヲ破リ小ヲ以テ大ヲ制シタル古今其例尠ナシトセズ一筋ノ毛髮ハ極メテ弱キモ千萬之ヲ合スレバ以テ重ヲ曳クベク一本ノ矢ハ之ヲ折ルコト易キモ十數本ヲ合セテ一束ト爲ストキハ亦折ルベカラズ又諸子ノ行フ綱引遊ビニ於ケル如キ氣合克ク一致スルモノハ不一致ノ組ニ勝ツニアラズヤ是レ集合ノ力ハ單獨ノ力ヨリ強キノ證ナリ軍隊モ亦其隊ヲ組織シテ居ル一同ノ者ガ舉リテ同一目的ニ向ヒ働クニアラザレバ効果ヲ收ムベカラ

一 忍耐トハ如何

困苦ヲ忍ビテ屈セズ缺乏ニ耐ヘテ撓マザルヲ云フ今ヤ勝敗將ニ岐レントスル時戰鬪ノ慘狀モ亦其極ニ達スルモノニシテ敵モ亦我ト同一ノ苦境ニアリ此際忍耐ヲ繼續シタルモノハ光輝アル勝利ヲ得ルモノナリ

二 耐力ハ軍人必須ノ性質ナリヤ

耐力ハ何人ニモ必要ノ性質ナリト雖殊ニ戰爭ヲ以テ職務トスル軍人ニ在リテ必要ナリ何トナレバ寒暑ヲ冒シ炎熱ニ耐エ苦痛ヲ忍ビ衣ノ破ル、毛補フナク食ノ不足モ給スルナク連日山野ヲ跋涉シ或ハ露營ヲ爲スガ如キハ地方人ノ克ク堪フ得ベキニアラズ又劔電彈雨ノ下危險ヲ

ズ是レ軍隊ガ常ニ協同一致ヲ尙ブ所以ナリ

第五章 忍耐力ノ話

胃シ悲惨ノ狀況ヲ目撃シツ、戦闘ニ従事スルカ如キハ堅忍不拔ノ氣象アルニアラザレバ到底其結果ヲ收ムベカラザレバナリ

第六章 名譽ノ話

一名譽トハ如何

自己ノ本分ヲ全フシ以テ良心ヲ満足サセ尙ホ他人ノ尊敬ヲ受クルヲ云フ例ヘバ勳功ヲ顯ハシ勳章ヲ賜リ品行ヲ正シクシ勤務演習ニ勉勵シテ褒賞休暇ヲ受クル等はレナリ

二軍人ノ最大ノ名譽ト最大ノ不名譽如何

軍人ノ最大ノ名譽トハ戰場ニ於テ死ヲ覺悟シ勇マシク戦ヒ戦死シタルヲ云ヒ之レニ反シ最大ノ不名譽トハ戰爭中敵ニ背ヲ見スルヲ云フ深ク注意セザルベカラズ

三名譽ノ感念如何

軍人精神ヲ維持シ能ク膽力ヲ助ケ怯懦ヲ掃蕩シ死生ノ地ニ從容タラシムルモノナリ然レドモ徒ラニ名譽心ニ驅ラレテ名譽ノ爲メニ使役セラレベカラズ名譽ハ唯身命ヲ顧ミズ義ヲ重シ節ヲ屈セズ以テ克ク自己ノ本分ヲ盡セバ自然ニ之ヲ得ルモノナリ念サルベカラズ名譽ノ死ヲ爲シタル者ハ即チ忠義ノ死ヲ爲シタル者ニシテ其名ハ廣ク天下ニ傳ハリ永ク後世ニ留マリテ朽ツルナシ彼ノ鳥居強右衛門谷村計介等ノ名聲噴々今日ニ傳ハルガ如キ是ナリ諺ニ曰ク「人ハ一代名ハ末代」ト又曰ク「豹ハ死シテ皮ヲ留メ人ハ死シテ名ヲ留ム」ト鑑ミ且勉メザルベカラズ

第七章 軍紀ノ話

一軍紀トハ如何

軍隊ノ法則即チ軍事上ノ規律ヲ嚴肅且確實ニ行フヲ云フ 二四

二軍紀確立セル軍隊トハ如何

軍人精神ニ富ミ讀法ノ趣旨ヲ守ル者ノミニテ成立チタル軍隊ニシテ即チ能ク上官ニ服從シ常ニ法則命令ニ違背スルコトナク誠實ニ其任務ヲ行フ軍隊ヲ云フ

三軍紀ノ整フト否ラサルトハ何ニ依リ判別セラル、ヤ

軍人精神ニ在ル者ハ眞ニ上官ニ服從シ法則命令ヲ遵奉スルコト誠心ニ出デザルベカラズ唯外形ニ於テノミ上官ニ服從シ法則命令ノ遵奉ヲ装フトキハ軍隊ノ精神全ク廢滅シ幾千萬ノ兵員アリトモ何ノ用ヲカ爲スベキサレバ軍人タル者各其心ヲ一ニシ益々軍紀ノ嚴肅ヲ期セザルベカラズ

第八章 風紀の話

一風紀トハ如何

軍人ノ態度竝ニ軍隊ノ面目ヲ保タシムル所ノ法則即チ軍人ノ行儀作法ヲ云フ

二風紀正シキ軍隊トハ如何

其隊ノ軍人ノ容儀品行何レモ嚴正ニシテ命令能ク行ハレ秩序整ヒアル軍隊ヲ云フ

三風紀ノ正シキト否ラサルトハ軍隊ニ如何ナル關係ヲ

及スカ

軍紀ノ弛張ニ關ス何トナレバ風紀正シケレバ從ツテ軍紀張り實ニ善美ナル軍隊ト云フベキモ若シ風紀正シカラザレバ從テ軍紀弛ミ遂ニ己ガ威嚴ヲ失フハ勿論軍隊ノ價值ヲ損フモノナリ故ニ風紀ハ軍紀ト相俟テ最モ嚴正ナラザルベカラズ

サレバ軍人ハ禮儀ヲ重シ品行ヲ慎ミ常ニ能ク風紀ヲ守ラザルベカラズ而已ナラズ軍人ハ社會ノ上流ニ位シ人民ノ模範トナルベキモノナレバ無作法ノ動作ハ一ニ之ヲ慎マザルベカラズ

第九章 攻撃精神ノ必要

凡ソ戦闘ヲ爲スニ當リテ必ず兩者ノ一方ハ防禦ヲ取リ一方ハ攻撃ニ立モノナリ戦闘ノミナラズ力士カ角カヲ爲ス時商人ガ商業ヲ爲スニモ何事ヲ爲スニモ他働的ト自働的トアリ自働力ノ方ガ得策デ且ツ勝算多シ競争モ同様デ有ル攻撃ヲ爲ス方ガ必ず有利ニシテ止ヲ得ズ防禦ヲ爲スモ最後ニ於テハ防禦ヲ爲スモノト雖モ攻撃ニ轉セザレバ勝ヲ占メ得サルモノナリ日露戰役ニ於テ我國ガ露西亞ニ勝利ヲ得シハ蓋シ攻撃ヲ取リシ故デアル獨リ我日本兵ハ忠君愛國ノ至誠ト獻身殉國ノ大節トニヨリ發スル軍人精

神ノ精華ニ依リ最後ノ勝利ヲ博セシナリ
攻撃精神ニ卓越セントセバ我國ノ兵員ニ連ルモノハ精神ノ修養ト武技ノ成熟ヲ計ラザル可カラズ上官ノ命スル所水火モ辭セザルノ決心ナカル可ラス

第十章 武器ノ愛護

往古ノ武士ハ大小即チ刀ヲ己ガ生命ヨリ貴重トシタリ今日モ又同ジ殊ニ歩兵ハ小銃ヲ以テ戦闘シ劍ヲ以テ敵ヲ斃シ我進路ヲ開キ以テ我生命ヲ守護スルモノナレバ銃ト銃劍ハ最モ大切ナリ
入營スルヤ諸種ノ支給品多々有レドモ多クハ戰時用ト平時用トノ區別アリト雖モ獨リ武器ニ至リテハ此區別ナシ以テ日本帝國ヲ愛スルノ士ハ誰トシテ武器ヲ大切ニ保存セザル可ラス

當今射撃術ハ諸種ノ方法ニ依リ獎勵セラレツ、アリ若シ銃器ヲ大切ニセズシテ不良ト爲サンカ射業成績ハ不良ニ陥リ滿期除隊ノ際唯一ノ土産物タル射撃賞狀等ノ獲得ヲ得ザルニ至ル

第十一章 公德心ノ必要

多數ノ人ノ間ニハ箇人ノ利益ト爲リテモ多クノ人ノ迷惑ヲ感ズルコトハ爲ス可ラザルモノナリ之ヲ公德心ト言フ文明國ノ人ハ此德ヲ重ンズルコト最モ甚シ況ンヤ文明國ノ軍人ニ於テヲヤ故ニ軍隊ニ生活スルト營外ニ出ルトモ

- 一 水ノ使用ヲ節約スルコト
- 一 班内備附物品ヲ汚損セザルコト
- 一 便所ヲ汚損セザル事

以上ノ外總テ他人ノ迷惑ニ感スルコトヲ爲サザルハ之ヲ公德心アル軍人ト稱スベシ

第十二章 軍旗ノ尊嚴

其竿頭ニ菊花ノ御紋章ヲ戴キ旭日章ト共ニ皇室ノ威靈ヲ備ヘタルモノニシテ優涯ナル勅語ト共ニ畏クモ 陛下御手ツカラ授ケ賜ヒタルヲ以テ陛下ノ御身代リト稱ス可ク滿腔ノ熱誠ヲ以テ尊崇シ之ヲ敬禮シ死力ヲ以テ之ヲ守護シ戰場ニ在テ軍旗ノ向フ所必ズ共ニ進ミ敵手ニ奪ハレザル覺悟ナカル可ラズ

勅語(聯隊ニ依リ)

今般歩兵第

聯隊(編成成立ヲ皆ク仍テ)軍旗一旒ヲ授ク汝

軍人等協力同心シ益益武威ヲ宣揚シ以テ（帝國）ヲ保護

奉答

敬テ明勅ヲ奉ス 死力ヲ竭シ誓テ國家ヲ保護セン

第十三章 上官ニ對スル心得

- 一 上官ハ自分等ヲ教エ且ツ指揮シ又監督シ以テ常ニ善良ノ兵卒タリ國民タラシメンコトニノミ日夜苦心セラレ實ニ兵卒ノ父母ナリ故ニ上官ニ事アルコト恰モ父母ニ事フル如クナラザルベカラズ
- 二 以上ノ精神ヲ以テ敬禮ハ己ノ内心ノ敬意ヲ表スモノナレバ決シテ粗略ナラザル様ト寧ト嚴格ニ行フベシ

- 三 上官ニ對シテハ殊ニ其言語ヲ慎ミ決シテ心ニモ無キ虚飾ノ言語ヲ發スベカラズ
- 四 上官不在ノ時ト雖尙ホ上官其面前ニ在ルガ如ク尊敬シ上官ノ名譽ヲ損スルガ如キ談話ハ之ヲ避ケ他人ノ之ヲ爲ス者アルモ決シテ同意スルガ如キコトアルベカラズ
- 五 店頭ニ於テ物品ヲ買フトキ切符ヲ求ムル時等上官又ハ古參ノ自分ヨリ後ヨリ來ルモ上官ニ先エ買シムル等總テ上官古參者ニ先ヲ讓ルベシ 狭路又ハ階段等ニ於テ上官ニ行遇フトキハ己レ一側ニ寄リテ上官ニ途ヲ讓ルベシ
- 六 上官ノ危難ニ際シテハ心身ヲ竭シ危險ヲ顧ミス之ヲ救護スルヲ勉

- 七 罰セラレ又ハ叱責セララルコトアリトモ毫モ上官ヲ怨ムコトアルベカラズ又之ヲ心配シテ事ヲ誤ルガ如キコトアルベカラズ上官ハ決シテ惡ミテ罰スルモノニアラズ再ビ不正ノ事或ハ過チノナカラシメント欲シテ罰スルモノト心得ザルベカラズ 又假令其罰ガ不當ト念フコトアリトモ決シテ申譯ラセズ直ニ之ニ服従スベシ
- 八 上官ヲ補佐シ身自ラ其勞ヲ分タントスルハ禮アルモノニアラザレバ能ハズ
- 九 上官ノ心ヲ慰藉スルハ禮ノ大ナルモノナリ
- 一〇 上官ノ乗馬下馬及被服ノ着脱等ヲ援助スルハ上ヲ敬フノ道ナリ
- 一一 上官ノ居室ニ入ルニ際シテハ室外ニテ着裝ヲ正スベシ

第十四章 同僚ニ對スル心得

- 一 凡ソ軍人ハ協同一致セザルベカラザルモノナレバ同隊ノ者ハ勿論我帝國軍人ハ他隊他兵科ノ者ト雖モ互ニ親睦スベシ
- 二 互ニ親睦シ協同一致勞苦ヲ共ニスル キハ氣力甚ダ盛ナルモノナリ故ニ常ニ誠心ヲ以テ相交リ苟クモ心ニ隔リアルベカラズ
- 三 同隊殊ニ同中隊ノ者ハ戰時ニ於テ同シ軍旗ノ下ニ死生ヲ共ニスルモノナレバ常ニ一家族ノ如ク相親ミ其危難ニ際シテハ互ニ相救フベシ
- 四 不良ノ者アラバ善ヲ勸メテ其不良ノ心ヲ改メシメ良心ニ復ラシムル如ク導クベシ

第十五章 在營軍人以外ノ人ニ

對スル心得

一 在營軍人外ノ人ニ對シテハ懇切丁寧ニ取扱ヒ決シテ粗暴傲慢ノコトヲ爲スベカラズ殊ニ老人婦女小兒杯ニハ最モ言葉柔和カニ懇切ニ接スベシ

三四

二 單獨ニテ行進スルトキハ道路ノ左側ヲ取り車馬ノ通行ヲ妨ゲヌ老幼者婦女等ニハ道ヲ譲リ又車馬其他ノ困難スル者アレバ之ニ助力ヲ與ヘ電車等ニテ席ヲ讓ル如クスベシ之等ノコトハ世人ニ愛敬セラル、ノ基ナリ外國人ニ對シテハ殊ニ然リ

三 敵地ノ人民ト雖モ抗戰者ニアラザレバ害ヲ加ヘズ愛撫スベシ

第十六章 自己ノ心得

一 其身ノ容儀品行ヲ正シクシ勤務ニ勉勵シ他人ノ模範トナリ世人ノ愛敬ヲ受クルコトヲ心懸クベシ

二 容儀品行ヲ正シクセザルベカラザル理由ハ其身軍人タルノ重キ職分ヲ擔ヒ畏クモ大元帥陛下ト同一ノ徽章アル服装ニ其名譽アル聯隊ノ記號ヲ戴キ社會ノ上流ニ位スルニ恥ヂザランガタメナリ

三 容儀品行ヲ正シクスルトハ身體ヲ清潔ニシ服装ヲ亂サズ言語起居動作ヲ高尚ニシ毫モ他人ヨリ輕侮セラレザル様ニスルヲ云フ

四 何事ニヨラズ言フコト爲スコトハ必ズ先ヅ其善シ惡シヲ考ヘ惡シ、ト考フルコトハ言ハズ爲サルベシ

五 何事ヲ爲スニモ上下ノ區別ヲ立テ先後ヲ辨ヘ決シテ粗暴ナラズ確實迅速ニ之ヲ行フベシ

六 常ニ友ヲ選ミテ交ルベシ友ハ性質善良品行方正ニシテ勤務ニ勉勵シ能ク軍紀風紀ヲ守ル者ナラザルベカラズ

七 他人ノ善ヲ見バ自分モ亦斯クセンコトヲ勉メ決シテ他人ノ善ヲ猜ム

三五

ガ如キコトアルベカラズ

八、歡樂ハ高尚ナルコトヲ爲シ猥褻ナル言行ヲ慎ミ體力ヲ損シ徳義ヲ破ルノ所爲ナスベカラズ

九、日給外ノ金錢ヲ所有シ一身ノ快樂ヲ買フトキハ自然遊惰ノ風ニ感染

シ遂ニハ不良ノ徒ト交ルニ至ルサレバ支給セラレタル金品ヲ以テ満足スベシ然ラザレバ戰時艱苦缺乏ニ堪フルコト能ハズ

一、金錢ハ意志ノ薄弱ナルモノヲシテ酒色ノ巷ニ誘フノ媒介ヲナシ或ハ身分不相應ノ驕奢ニ流レシムルモノナリ

二、分ニ過ギタル金錢ノ消費ハ往々罪惡ヲ構成スルハ其ノ例ニ乏シカラザル所ナリ

三、克己及質素ノ美風ヲ養成スルノ手段種々アリト雖モ先ツ金錢ノ節用ヨリ始ムヘシ

四、金錢ヲ浪費スル時ハ其ノ結果父兄ノ心ヲ痛マシムルモノナリ

五、自己ノ家庭富有ナリトテ日給ヲ僅少ナリト感スルハ心己ニ驕レルナリ困苦缺乏ニ堪ヘ克ツノ精神ヲ養フニハ絶對的ニ家郷ヨリ送金ヲ拒絶スルニ在リ

六、金錢ヲ使用スルニハ先ツ自己ノ收入ヲ考フベシ

七、需用品ハ必要缺クヘカラサルモノニ止ムベシ

八、靴下、洗濯石鹼其ノ他手入用ノ諸材料ハ其ノ使用宜シキヲ得ハ官給品ニテ不足ヲ生スルコト殆ントナカルヘキヲ以テ是等ノ爲ニ給料ヲ充ツルノ要ナカルヘシ

九、紙類、齒刷毛、齒磨粉、手拭、石鹼等ノ日用品ヲ購ヒテ尙給料ニ餘裕アラハ其ノ他ノ嗜好品ヲ購フハ可ナリト雖モ煙草ヲ吸ヒ菓子ヲ食フノ習慣ヲ作ラサルヲ要ス

- 一〇、毎旬ノ終ニ於テ翌旬ニ要スヘキ日用品ノ使用計畫ヲ立テ給料受領ノ日ニ於テ必ス計畫ノ物品ヲ購フヘシ
 - 一一、金錢ノ受拂ニ關スル帳簿ヲ備ヘ之カ出入ヲ明カナラシムル時ハ毎日消耗スル日用品ノ額ヲ知リ爾後ノ出費ニ關シ大ナル參考ヲ與ヘ且經濟思想ヲ養成スルノ端緒トモナルヘシ
 - 一二、金錢受拂簿ハ旬日毎ニ内務班長ニ出シ之カ検査ヲ受クル時ハ金錢ノ浪費ヲ防クト互ニ惡心ヲ生セシメサル豫防トモナリ利益多カルヘシ
 - 一三、兵卒ノ最モ愼ムヘキコトハ遊蕩ト賭博トス之ヲ犯ストキハ引キテ惡意ヲ起シ遂ニ其身ヲ誤ルノミナラズ同隊ハ勿論他隊ノ兵卒ニマデ害ヲ及ボスベシ深ク戒シメザルベカラズ
- 軍人ノ面目ヲ完フスルコトヲ瞬時モ懈ルベカラズ之ガ爲左ノ件ニ注意スベシ

- (一) 一意専心上官ノ教訓ヲ迎ヘ
- (二) 勅諭ノ御趣意ヲ遵奉スヘシ
- (三) 命令規則ヲ嚴守スヘシ
- (四) 諸勤務演習ニ勉勵スヘシ
- (五) 官物ノ取扱ヲ丁寧ニスヘシ
- (六) 新參者ヲ慈ミ古參者ヲ敬フヘシ
- (七) 陰日向ナク内務ノ規定ヲ守ルヘシ
- (八) 衛生ヲ重ンスヘシ
- (九) 筋骨ヲ鍛ヒ困苦缺乏ニ耐ヘ百折不撓ノ心ヲ養フヘシ

第十七章 馬ニ對スル心得

砲兵須知

馬ハ活兵器ナリ又軍ノ原動力ナリ古來戰事ヲ稱シテ兵馬ト云ヒ其ノ之ヲ
 總ブル者ヲ司馬ト云フ以テ重キヲ馬ニ置キタルヲ知ルベシ方今學藝日ニ
 進ミ器械月ニ精ク戰鬪ノ方式亦從テ改變スルト雖モ馬ノ戰ニ欠クベカ
 ラサルハ今モ昔日ト異ルコトナシ加フルニ列強國フテ大軍ヲ養ヒ平戰兩
 時ニ要スル軍馬ノ數著シク多數ニ上レリ其將來ニ於ケル亦推知スベキ
 ナリ夫レ騎兵ヲシテ搜索警戒ノ要務ヲ遂ゲシメ且敵ヲ襲撃シテ戰鬪ノ目
 的ヲ達セシムルモノハ馬ナリ砲兵ヲシテ大砲彈藥ヲ戰場ニ致シ能ク射擊
 ノ威力ヲ逞フスルヲ得セシムルモノハ馬ナリ輜重行李ヲシテ彈藥糧食
 軍需品ヲ搬送シ能ク軍ノ戰鬪力ヲ保持セシムルモノハ馬ナリ其他戰鬪ノ
 事馬力ニ俟ツモノ多シ馬ノ戰ニ必要ナル所以實ニ茲ニ存ス故ニ馬ヲ愛
 シ馬ノ保全ヲ努メザル可ラズ夫レ愛馬心ヲ充實シ以テ調教保育ヲ完成シ
 然ル後始テ用ユベシ古今名將勇士ノ馬ヲ愛スルヤ其ノ身ヲ愛スルガ如ク
 之ヲ養フヤ其子ヲ養フガ如キモノ豈偶然ナランヤ我國ノ民俗往々馬ニ親
 マス馬事思想頗ル幼稚ニシテ其ノ軍隊ニ於ケル進歩モ亦一般ノ軍事ト相

砲兵須知

副ハサルモノ少カラズ馬事益々之ガ改善ヲ圖ラザル可ラス馬術及馭法ハ
 益々之ガ進歩ヲ講セサル可ラス而シテ其ノ第一ノ要義ハ愛馬心ノ完全ナ
 ル發現ニ在リ衷心教ヲ守リテ能ク之ニ則リ以テ軍馬ノ能力ヲ遺憾ナク發
 揮セシムルコトヲ圖ラサル可ラス

第四課 上官ノ官姓名

職名	官	姓	名	尊稱
師團長	陸軍中將			閣下
旅團長	陸軍少將			閣下
聯隊長	陸軍砲兵大佐			閣下
大隊長	陸軍砲兵少佐			閣下
中隊長	陸軍砲兵大尉			閣下
初年兵係士官	陸軍砲兵尉			殿
	陸軍砲兵尉			殿
	陸軍砲兵尉			殿

一步兵ノ性能 徒歩ニテ輕裝ヲ爲シ小銃ト銃劔ヲ以テ戰鬪ヲ爲ス兵

種ニシテ苟モ人ノ歩メル土地ハ何處ニテモ戰鬪ノ出來ル兵種ナリ

歩兵ノ中機關銃ヲ使用シテ戰鬪シ得ル者アリ之ヲ機關銃隊ト云フ

二騎兵ノ性能 騎兵ハ乘馬ヲ爲シ騎銃又ハ槍軍刀ヲ有シ馬ノ速力ヲ

利用シ敵ノ所在地形等ヲ搜索シ又ハ傳令等ノ勤務ニ服シ時トシテハ徒

歩シテ戰鬪スルコトアリ騎兵ノ中ニモ機關銃ヲ使用シ戰鬪シ得ル者ア

リ之ヲ騎兵機關銃隊ト云フ

三砲兵ノ性能 歩兵ト同シク砲兵トハ砲ヲ以テ戰鬪フル兵種ニシテ

砲ノ種類ニ依リ野砲兵山砲兵重砲兵ノ區別アリ

野砲兵ハ馬六頭位ニテ引キ得ル大砲ヲ用ユル砲兵

山砲兵ハ馬一頭ガ牽キ又ハ馬ノ背ニ載セ得ル砲ヲ用ユル砲兵

重砲兵ハ重量重ク馬八頭位ニテ牽キ野戰重砲ト要塞砲兵即チ砲臺ニ据

置キ運搬ノ出來ザル砲ヲ用ユル兵種ナリ

四工兵ノ性能 工兵ハ歩兵ト略ボ同シ武裝ヲ爲シ土工器具等ヲ有シ

堡壘ヲ築キ道路橋梁ヲ修築又ハ破壊ヲ爲ス兵種ナリ

電信隊鐵道隊航空隊ハ工兵ノ一部ナレド交通兵ト稱ス

電信隊ハ電信ノ架設及通信ヲ爲ス無線電信隊ハ無線電信通信ヲ爲ス

鐵道隊ハ鐵道ノ架設及運輸ヲ爲ス

航空隊ハ遊動氣球又ハ飛行機飛行船ヲ以テ偵察及通信ヲ爲シ又爆彈等

ヲ投下ス

五憲兵ノ性能 軍人ノ非違ヲ取締ル警察官ナリ

六經理部ノ性能 金錢ノ出納物品ノ買入ヲ爲シ軍隊ノ給養上ノ事

ヲ取扱ヒ又被服ノ修理製作等ヲ爲ス

七衛生部ハ 軍醫及藥劑官ヨリ成リ傷者病者ノ取扱及衛生事務

ヲ爲ス

八獸醫部ハ 馬匹ノ衛生事務馬ノ治療等ヲ爲ス者ナリ
九軍樂部ハ 軍樂ヲ吹奏ス軍人ノ志氣ヲ鼓舞ス

第二章 各兵科各部ノ識別

一 各兵科各部ノ見分ケハ服ノ襟色ニ依テ識別ス
兵種 歩兵ハ定色(緋)騎兵ハ(綠)砲兵ハ(黃)工兵ハ(烏)輜重兵ハ(藍)
憲兵ハ(黑)經理部ハ(銀茶)衛生部ハ(深綠)獸醫部ハ(紫)軍樂部ハ(紺)
青トス

二 各兵科ト各部ハ肩ノ星章及腮紐留ノ釦上衣ノ釦又ハ肩章ノ星章ニ
依リ區別スルコトヲ得各兵科ノ金色各部ハ銀色トス

三 近衛師團 ニ屬スルモノハ各兵科各部共星章ト同色ノ櫻枝ヲ帽ノ

星章ノ下部ニ附着ス

四 樂劑官ハ醫官ト同シ服裝ニテ左ノ腕ニ(分銅形)ノ徽章ヲ附ス
五 輜重兵ハ長靴ヲ用ユレドモ輜重輪卒ハ短靴ナリ

第六課 團體編成ノ概要

一 日本全國ニハ近衛師團及第一師團ヨリ第十八師團マデアリ
右ノ外臺灣及樺太天津南滿洲山東洲等ニ守備隊ヲ有ス

二 平時一師團ノ編成次ノ通り

三 師團司令部 歩兵二旅團 騎兵一聯隊(近衛第二第八第十五師團ハ
一旅團)歩兵旅團ハ四ケ聯隊 野砲兵一聯隊(第一師團ハ二旅團近衛
師團ハ一旅團而シテ一旅團ハ三ケ聯隊)工兵一大隊 輜重兵一大隊
近衛及第三第四師團ニハ軍樂隊各一隊アリ

砲兵須知

右ノ外交通兵團及重砲兵隊アリ

- 四 平時砲兵旅團ハ司令部及砲兵三箇聯隊ヨリ成ル
- 五 平時砲兵聯隊ハ本部及二箇大隊ヨリ成ル
- 六 平時大隊ハ本部及四箇中隊ヨリ成ル
- 七 聯隊ハ左ノ中隊號ヲ附ス
 - 第一大隊(第一中隊 第二中隊 第三中隊)
 - 第二大隊(第四中隊 第五中隊 第六中隊)

第七課 武官階級及服制
第一章 武官ノ階級

經理官准士官	經理官	下士官	經理官
上等計手	陸軍一等計手 陸軍二等計手 陸軍三等計手	陸軍一等計手 陸軍二等計手 陸軍三等計手	上等縫工卒 一等縫工卒 二等縫工卒
衛生部下士	陸軍一等看護長 陸軍二等看護長 陸軍三等看護長	陸軍一等看護長 陸軍二等看護長 陸軍三等看護長	衛生部兵卒
獸醫部下士	陸軍一等蹄鐵工長 陸軍二等蹄鐵工長 陸軍三等蹄鐵工長	陸軍一等蹄鐵工長 陸軍二等蹄鐵工長 陸軍三等蹄鐵工長	
軍樂部准士官	軍樂部	下士官	軍樂部兵卒
陸軍樂長補陸軍一等樂手	陸軍二等樂手	陸軍三等樂手	樂手補

- 元帥ハ大將ニシテ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜ハリシモノ
- 上等兵ナレド下士ノ勤務ヲ掌ルモノ伍長勤務上等兵ト云フ
- 見習士官(見習醫官、見習主計、見習獸醫)ハ曹長ノ階級ニテ士官(將校當官)ノ見習ヲ成スモノナリ

第二章 服制

一 階級ノ識別

凡テ軍人各階級ノ識別ハ肩章デ爲スモノナリ

二 將校ト下士以下ノ服裝ノ異ル點次ノ如シ

將校ノ帽子ノ臙紐留ノ釦圓形ニ櫻アリ上衣ノ釦ハ艶消シヲ用ヒ各兵科各部トモ將校ハ刀ヲ用ユ又雨天ノ時雨覆ヲ用ユ

三 佐官ノ刀帶裏ヲ緋絨トス而シテ將校雨具ヲ著セシトキハ折襟ノ星章

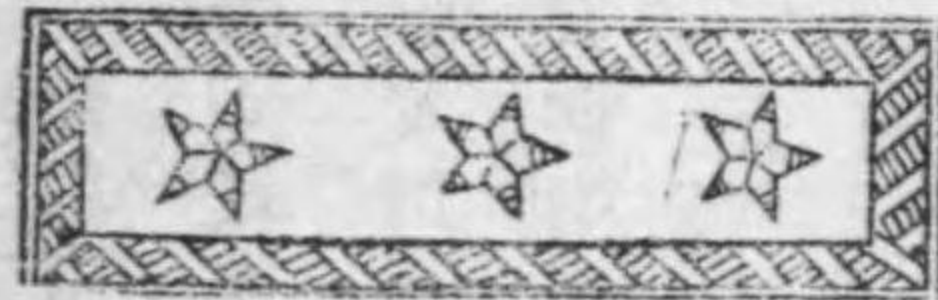
ニテ識別ス尉官ハ星章一個佐官ハ二個將官ハ三個附着ス准士官ハ星章ナシ

四 近衛師團ト他師團ニ屬スル將校以下一般ニ帽ノ星章ノ下ニ櫻ノ枝交

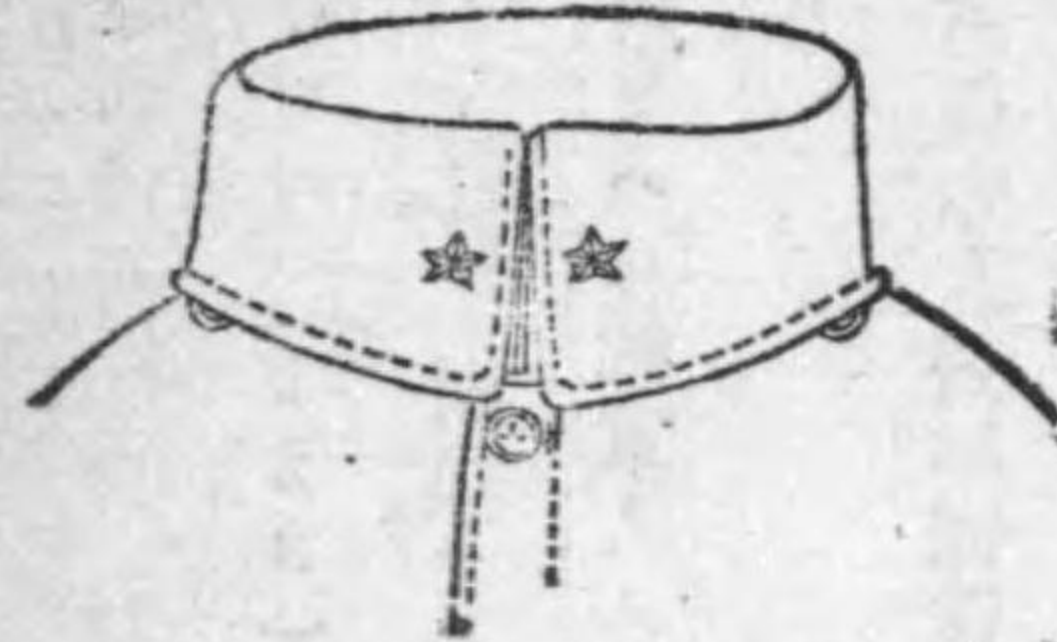
又シタルモノアルヲ以テ識別ス

知 須 兵 砲

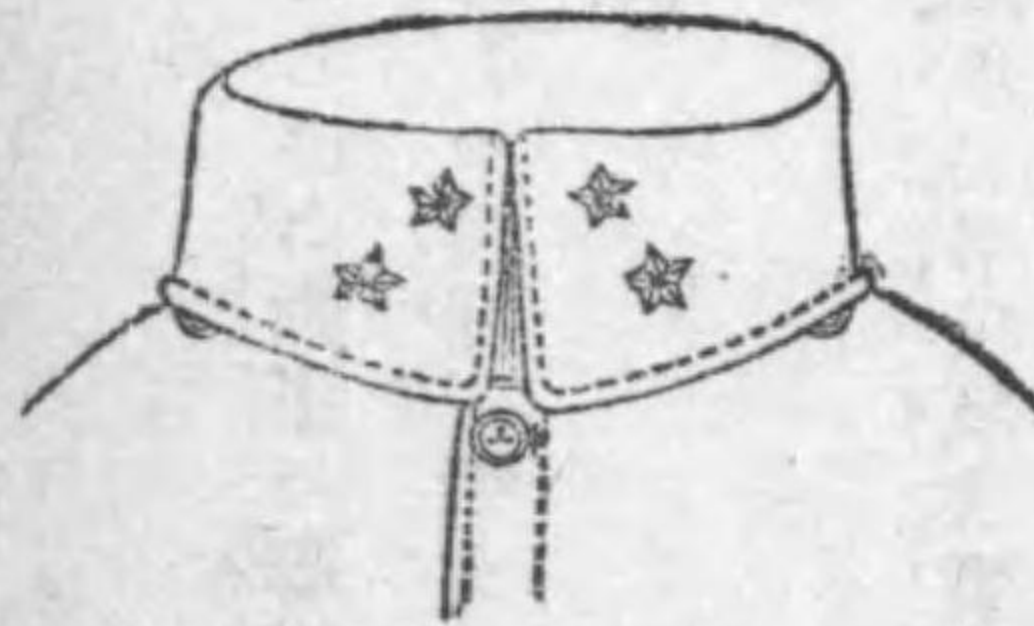
兵 願 志 年 一



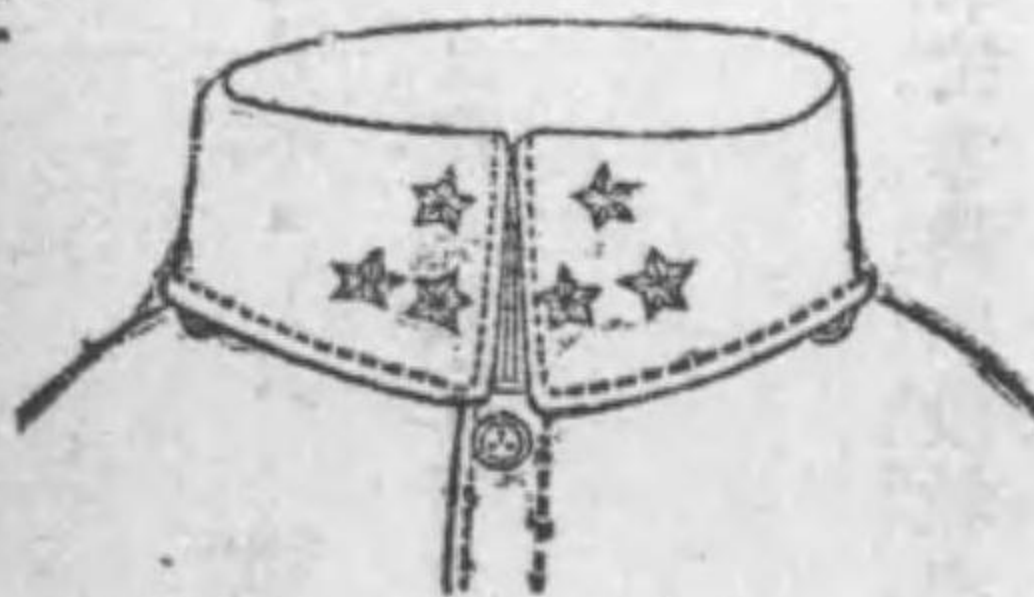
官 尉



官 佐

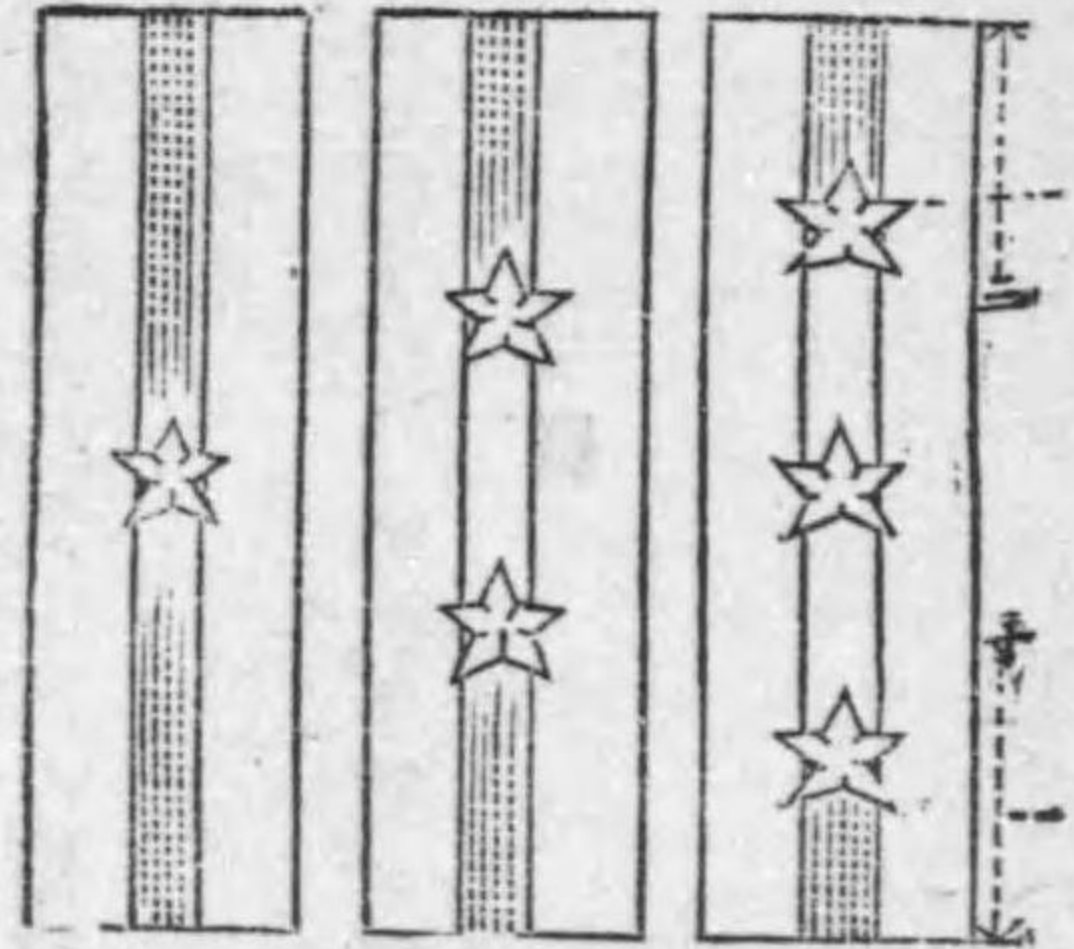


官 將



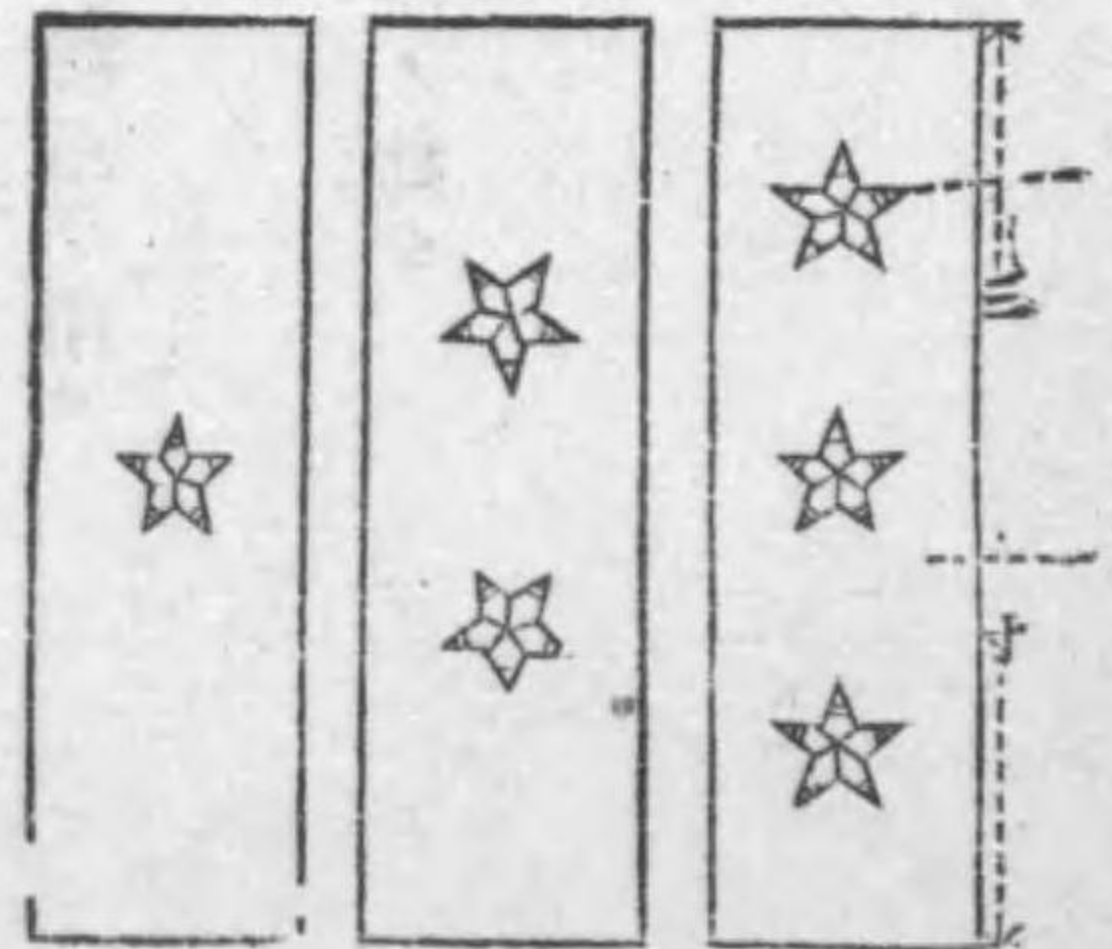
章 肩

長 伍 曹 軍 長 曹
官 當 相 同 官 當 相 同 官 當 相 同



銀 八 星 及 線 八 官 當 相

卒 等 二 卒 等 一 兵 等 上
者 當 相 同 者 當 相 同 者 當 相 同

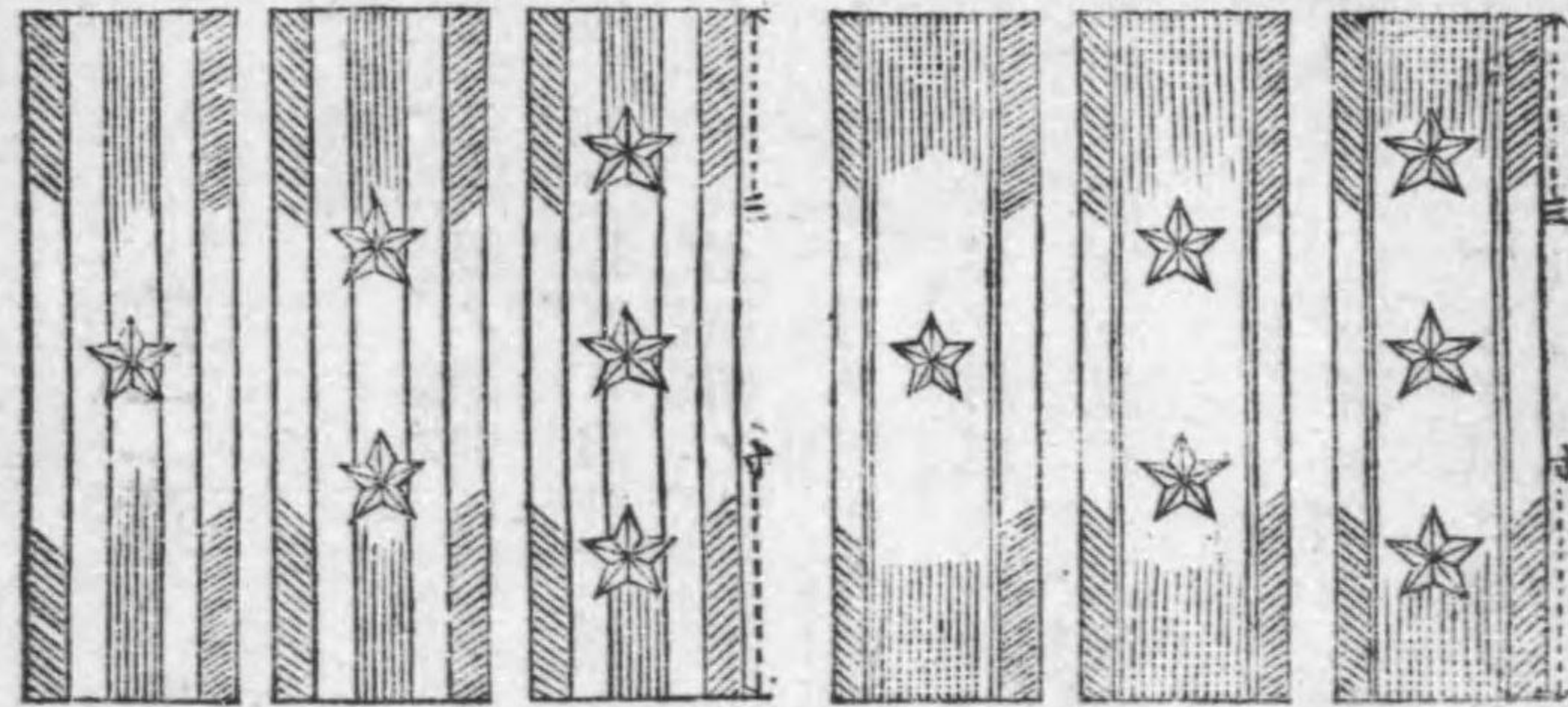


白 八 星 八 部 生 衛 部 理 經

知 須 兵 砲

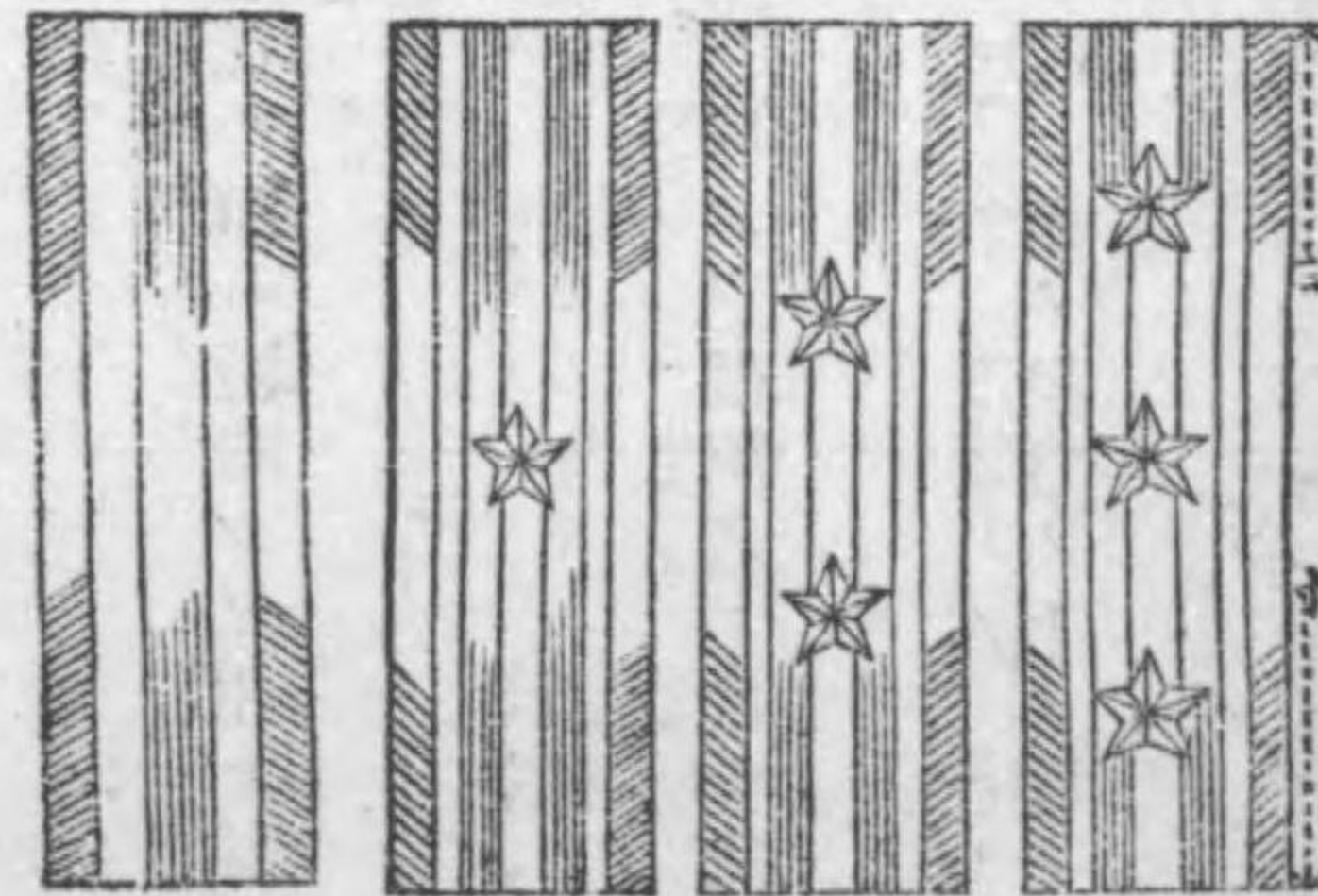
章 肩

佐 少 佐 中 佐 大 將 少 將 中 將 大
官 當 相 同 官 當 相 同 官 當 相 同 官 當 相 同 官 當 相 同 官 當 相 同



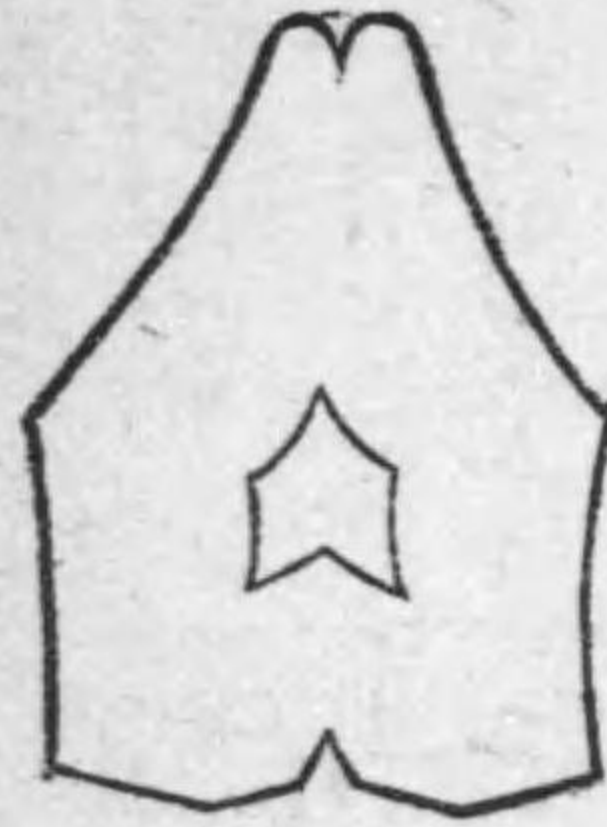
銀 = 共 線 及 星 八 官 當 相 同 他 金 八 星 及 線

官 士 准 尉 少 尉 中 尉 大
官 當 相 同 官 當 相 同 官 當 相 同



砲兵須知

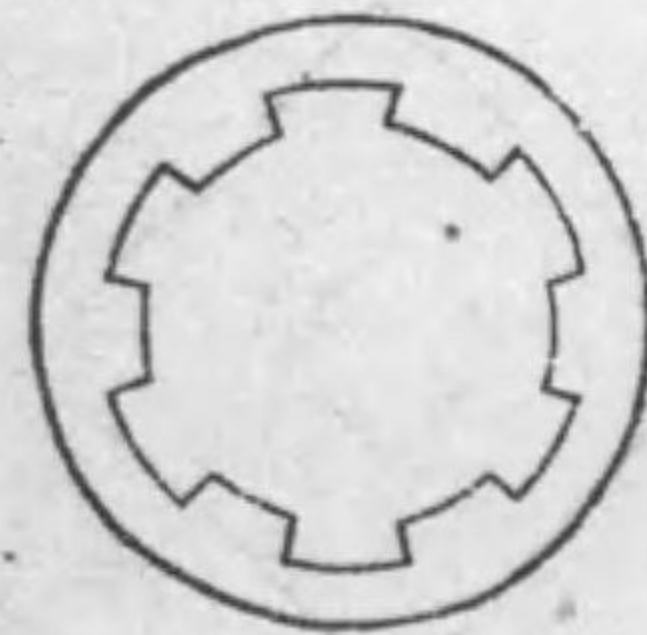
經理部靴工長
卒工靴部理經



鞍工長



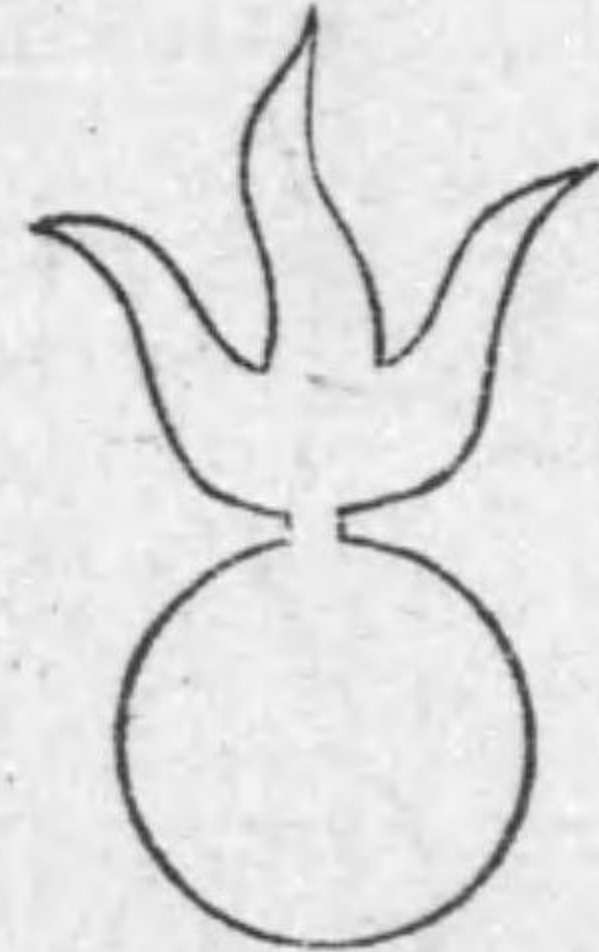
銃工



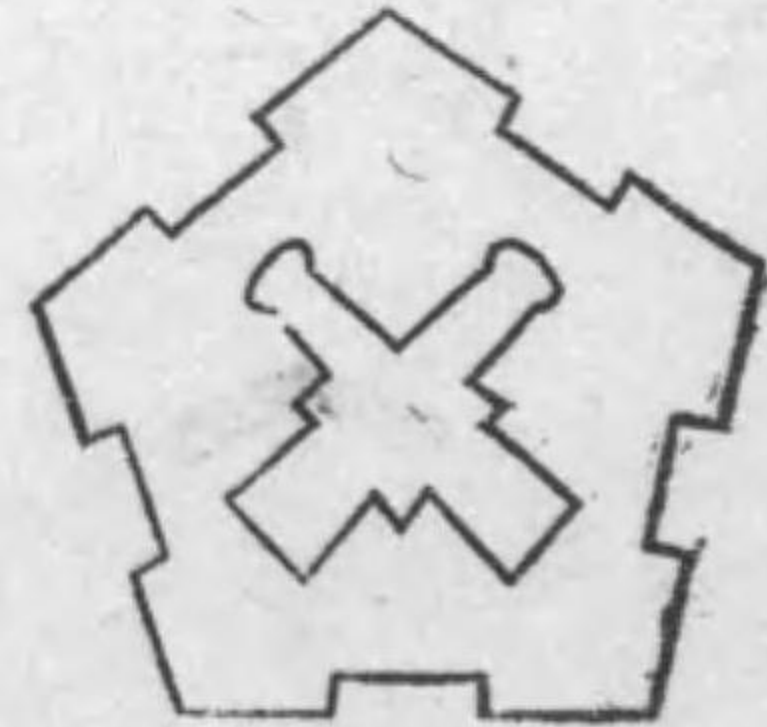
喇叭手
喇叭長



下士掛火工



下士守監砲



砲兵須知

五 聯隊號ノ識別

聯隊號ヲ見分ルニハ(123)ノあらび数字ハ聯隊號ヲ示ス1ハ一聯隊又羅馬数字(時計ト同様ナル文字)ハ後備隊徽章ナリ又襟ニ数字ナキハ官衙學校附又ハ在郷軍人ノ者也

六 諸種ノ襟章

隊號ノ外鐵道聯隊臺灣聯隊電信隊歩兵學校騎兵實施學校等諸學校教導隊及士官候補生見習士官ノ襟章ニ特別徽章ヲ附ス


七 諸種ノ臂章

縫工長、靴工長、喇叭手等ノ徽章ハ左ノ如シ


臂章

八 諸種ノ肩章

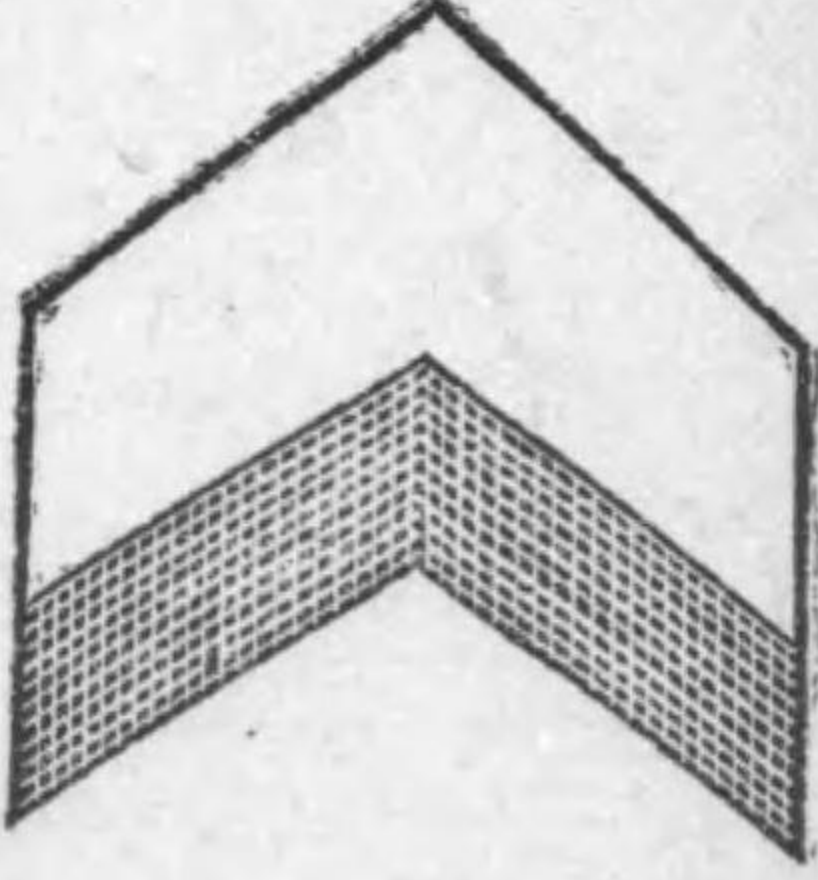
長護看務勤工磨同
卒護看




長工木




兵等上務勤長任
卒護看勤長護看



長工縫
卒工縫部理經

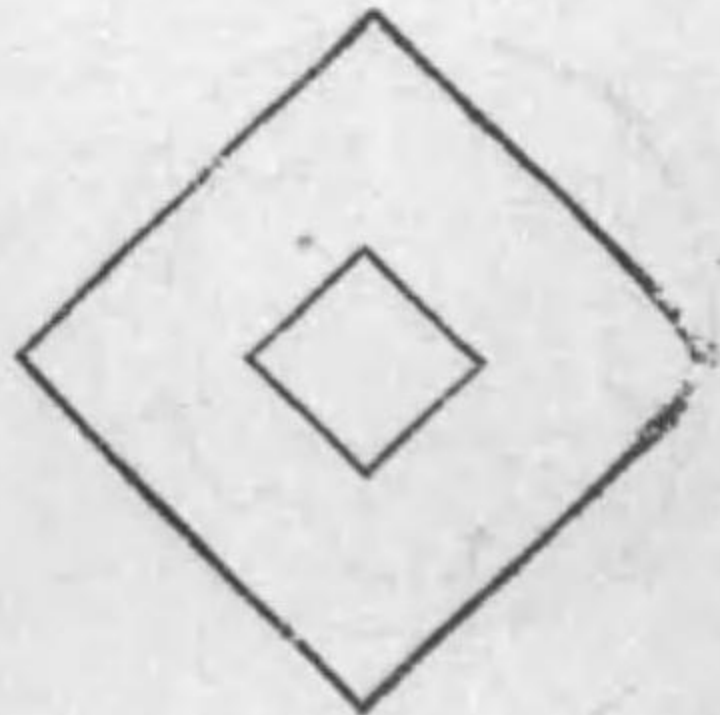


章行營



金色ノ飾緒(繩ノ如キ形)ヲ肩ニ掛ケアルハ參謀將校ニシテ黃色肩章

營工銃



九 正装ノ識別

三大節其他ノ儀式ニハ將校ハ正装ヲ爲ス

正装ノ階級ヲ見分ルニハ臂ノ金線ノ筋(少尉一本中尉二本大尉三本少佐四本中佐五本大佐六本)軍帽ノ金線(筋ハ臂ノ筋ト同シ)各兵科ハ袴ノ側章(軍衣ノ襟章ト同シ)ニテ識別ズベシ

ハ旅團以上高級官衙ノ副官ナリ又赤色ノ肩章ヲ懸タルハ巡察又ハ遇番士官ニテ勤務ノ章ナリ

第八課 軍隊内務書ノ摘要

第一章 上官ヲ尊稱シ他人ヲ稱呼

スル爲シ方

- 一 下タル者上タル人ニ對シ敬意ヲ稱スル爲メ上官ノ姓名ヲ呼ビシ時ハ敬稱ヲ附スルコト恰モ地方ニ在テ「君」又ハ「さん」ト稱スルガ如シ軍隊ニテハ陛下殿下閣下殿ノ四種ノ敬稱アリ
- 二 陛下ト申上奉ルモノハ天皇皇后
- 三 殿下ト申上奉ルモノハ皇太子皇太子妃皇孫其他ノ皇族
- 四 閣下ト稱スルハ將官同相當官
- 五 殿ト稱スルハ上等兵以上下士准士官佐官
- 六 直接ニ其人ニ向テ呼フトキニハ皇族ニハ殿下將官ニハ大(中)少將閣下上長官以下
- 七 他人ト某上官ノ事ヲ談話シ其上官ノ名ヲ呼ブ時ハ皇族ニハ某親王殿下(例へバ貞愛親王殿下ノ御臨場ガアリマシタ)將官ニハ某何官閣下(例へバ大山大將閣下ガ來ラレマシタ)上長官以下ニハ某大佐殿某

第二章 兵營内起居ノ容儀

- 一 軍曹殿ト云フ又上官ニ對シ其人ヨリ下級者ヲ呼ブ時ハ敬稱ヲ略ス又勤務上ニ於テハ敬稱ヲ省クヲ常トス例へバ中隊長職務上ニ於テ大隊長ノ命令ヲ達スル時ハ大隊長殿命令ト言ハス大隊長命令ト云フガ如シ
 - 八 職名ヲ呼ブ時ハ將官ノ職(師團長旅團長)ニハ閣下
 - 九 師團長閣下ト稱ス上長官以下ノ職(聯隊長、大隊長、班長殿等)
 - 九 上級者ニ對シテ多クノ場合ニ於テ自己ヲ呼ブニハ自分、又ハ私ト言ハス氏ヲ稱ス(川村カ云々)
- 一 毎朝起床ノ號音ニテ速カニ起キ服裝ヲ整ヘ寢臺ノ前ニ立チ週番士官監視ノ許ニ内務班長ヨリ點呼ヲ受ケ此前病氣ノ者ハ班長ニ届出テ班長ハ週番下士ニ申シ出診斷ヲ受クル手續ヲナス

二 日朝點呼了レバ直ニ規定ノ如ク窓ヲ開キ毛布敷布ヲ叮嚀ニ疊ミ枕ヲ

蒲團ト寢臺トノ間ニ插ミ洗面ノ後武器被服ノ手入ヲ爲ス

○毎朝起床後ニハ顔面ヲ洗ヒ口腔ノ清潔ヲ計ルヘシ

○洗面盥ハ其數少ナキヲ以テ互ニ相讓ルヘシ場所狹キ時モ亦同シ

○「トラホウム」疥癬、痲病等ヲ患ラヘル者ハ患者用ノ洗面盥ヲ使用ス

ヘシ

○洗面盥ハ使用後清潔ニシ他人ニ渡スカ或ハ舊位ニ俯セ置クヘシ

○水道ヲ用フル時ハ排水栓ニ注意シ「ポンプ」ヲ使用スル時ハ丁寧ニ取

扱フヘシ

○所定外ノ場所ニ於テ洗面スヘカラス

○清水ノ使用ヲ節約スルノ習慣ヲ養フヘシ

三 衣服ハ正シク著装シ勤務演習ノ外ハ脚絆ヲ用ヒサルモノトス

四 晝食後ハ寢具ヲノベ臥床ノ準備ヲナシ置クベシ

五 起床ヨリ日夕點呼マデハ寢臺ニ就キ又ハ腰ヲ掛ケルコト能ハズ 但

特ニ其隊ニテ規定セラレシ休暇日又ハ夜間勤務者患者等ハ此限ニ非ズ

六 舍内ハ勿論廊下ニ於テ痰ヲ吐キ煙草ノ吸殻其他ノ塵ヲ棄ツベカラス

物品ハ所定ノ位置ニ整頓シ之ヲ取亂スコトヲ禁ス

七 室内ニ在リテハ靜肅ヲ旨トシ粗野ノ言行ヲ慎ミ高聲ニ談話スルコトヲ

禁ス

八 煙草ハ所定ノ位置ニテ吸ヒ火藥庫、其他炊事場、浴室、諸倉庫ノ近

傍ニテハ嚴禁ナリ又特ニ炊事場浴室ニ許サレタル飲食物ノ外室内ニテ

飲食用可ラス

九 室内ニ入ル時ハ先ツ靴ノ泥土ヲ叮嚀ニ拭ヒテ入ルヘシ

一〇 窓ヨリ湯水其他ノ物品ヲ投ケ捨ルハ嚴禁ナリ又窓ノ椽ニテ物ヲ切

ルコト物ヲ干ス等ヲ爲スヘカラス

一 濕氣アル被服ハ物干ニ出シ乾カスヘシ

二 窓及備付物品ハ鄭重ニ保存シ之ヲ汚シ又ハ傷ケ、落書シ又ハ妄

ニ釘ヲ打付ク可ラス

三 兵器其他被服等諸物品ノ掃除ハ必ス所定ノ處ニテ爲ス可シ

四 官給ノ物品ニ自己ノ氏名符號等ヲ記入彫刻シ又私ニ革條ニ孔ヲ穿

ツヘカラス

五 定メラレタル時間外又ハ場所外ニ於テ妄ニ食事スルヲ許サス食事

中ハ特ニ他人ノ感情ヲ害シ若シクハ鄙陋ニ涉ル言行ヲ慎ムヘシ

一六 食事ノ心得

○軍人ハ喫食ノ速カナルヲ要スル場合アリト雖モ平時ニ於テハ頓食急

飲ハ消化ヲ害スルヲ以テ完全ニ咀嚼シ適當ノ速度ニテ執食スルヲ良

シトス

○飯モ菜モ口ノ内ナルヲ拂ヒテ後含ムヘシ口中ニアル上ニ復タ食フコ

ト勿レ

○何レノ場合ニ於テモ先ツ飯ヨリ食ヒ始ムルヲ禮トス

○口音高キハ下司ノ性ナリ慎ムヘシ

○食匙又ハ箸ヲ強ク食器ニ衝突シテ高キ音ヲ發セシムヘカラス

○一器中ヨリ各自食物ヲ取ル場合ニ於テハ互ニ相譲リ競争スルカ如キ

粗野ナル行爲アルヘカラス

一七 楮子段ノ昇降及戸ノ開閉ハ靜カニスヘシ

一八 金錢ハ聯隊長ノ制限セシ以上ヲ所持スヘカラス且互ニ之ヲ貸借ス

ルヲ禁ス

一九 新聞雜誌ハ聯隊長ノ許可シタルモノニアラサレハ讀ムコトヲ許サ

ス又許可ナク自己又ハ他人ノ依頼シタル印刷物ヲ配布スルコトヲ得ス

二〇 痰ハ必ス痰壺ニ爲シ室内又ハ廊下ニ爲ス可カラス

二一 紙屑ハ必ス紙屑籠ニ投スヘシ

二三 團圓ノ清潔

〇大小便ハ團以外ノ土地ニ於テナスヘカラス

〇小便ヲ爲ストキハ袴ノ前明釦ヲ下方ヨリ三個脱シ袴ヲ稍下方ニ下ケ

テ然ル後放尿セヨ然ラサレハ放尿後袴及袴下ヲ汚スコトアリ

〇小便ハ必ス石段ニ上リテ之ヲ爲シ前方ノ壁ヲ汚ササルコトニ注意スヘシ

〇痰ヲ壁ニ吐キ掛ケ煙草ノ吸殻或ハ紙片等ヲ尿壺内ヘ放棄スヘカラス

〇放尿後ハ股釦ヲ正シク掛クヘシ

〇上廁ノ際帶革ハ之ヲ戶外ノ釘ニ掛ケ置クヘシ

〇大便ハ袴及袴下ヲ膝部マテ下ケテ之ヲ行フモノトス袴下ノ紐ヲ盡

中ニ垂下セサルコトニ注意スヘシ

〇上廁後ハ扉ヲ確實ニ閉チ置クヘシ去ル時モ同シ

〇上廁中烟草ヲ吸ヒ或ハ齒刷毛ヲ使ヒ或ハ隣廁ト通語スヘカラス

〇便通後ハ必ス紙ヲ使用シ袴下ヲ汚ササルコトニ注意スヘシ

〇上廁後ハ必ス手水ヲ使フヘキモノトス

〇下痢患者ハ必ス定メラレタル廁ニ上ルヘシ又健康者ハ患者用ノ廁ヲ

使用スヘカラス

二三 中隊長ノ許可ナキ物品ヲ決シテ班内ニ持入ル可カラス

二四 衣服ハ清潔ニ洗濯シ襦袢袴下襟布ハ殊ニ然リトス小修理ハ戦地ニ

於ケル豫習ナレバ巧ニ自ラ補綴スベシ

二五 身體ノ清潔

○身體ヲ清潔ニセシムルハ屢々入浴ヲ取ルヘシ浴ハ皮膚面ニ附着セル有害物ヲ除去シ以テ病ヲ除キ兼テ皮膚ノ機能ヲ良好ナラシムルノ効アルモノトス

○頭髮ノ長キハ不潔トナリ易ク且軍人ノ容儀ニ關スルモノナレバ少クモ三週間ニハ必ス一回短ク剪リ且屢々洗フヘシ

○爪ノ長キハ汚垢ヲ堆積シ易キカ故ニ一週一回之ヲ剪ルヘシ

二六 私物ハ風紀ヲ害セサル限リハ中隊長ノ許可ヲ受ケ所持ス然ル時ハ手箱内ニ納メ置クモノトス但シ私服ヲ所持スルヲ許サス入營ノ際ノ下着類ハ此限リニ非ス

二七 貴重品ハ自ラ仕末ヲ良クシ其保持ヲ嚴重ニスヘシ

二八 兵器、器具、材料、建物其他諸物品ヲ自己ノ不注意等ニ依リ毀損若クハ遺失シタルトキハ相當ノ處罰ヲ受クルノミナラズ其代價ノ全部

若クハ一部ヲ給料中ヨリ辨償セシムルコトアリ

二九 聯隊長ヨリ脱靴ヲ命セラレタル場所ニ於テハ下士以下ハ其入口ニ於テ靴ヲ脱ギ定メラレタル場所ニ置クヘシ但シ脱靴ノ場合ニハ草履ヲ用フルコトヲ得

檢閱其他廉アル場合ニ在リテハ脱靴セシメサルヲ例トス

三〇 世論政治ニ關スル演說會ニ臨ミ又ハ之ニ關スル論說記事ヲ新聞雜誌等ニ投書スルヲ禁ス

學術講演會ニ臨席シ又ハ學術ニ關スル論說記事ヲ投書セントスル者ハ豫メ隊長ノ許可ヲ受クベシ

三一 娛樂ノ爲ト雖モ金錢物品ヲ賭シ勝負ヲ爭フ行爲ハ總テ嚴禁ス

三二 物品ヲ遺失又ハ紛失シタルトキハ直ニ内務班長ニ届出ヘシ其之ヲ發見シ又ハ拾ヒタルトキ亦同ジ

三三 犯罪ノ嫌疑者ヲ互選投票シ又ハ私ニ懲戒糾問スル等ノ行爲ヲ嚴禁ス

三四 服装ハ斷ヘス軍人ヲ監視スルモノニシテ其不正、不締ナルハ心性ノ不確實ナル反應ナレハ服装ニ付上官ヨリ注意ヲ受クルハ軍人ノ一耻辱ナリト心得ヘシ其注意スヘキ事項概ネ左ノ如シ

○帽ヲ冠ルニハ左右ニ歪ミ又ハ仰向ニセス其徽章ヲ正シク鼻ノ線ニ一致セシムヘシ若シ願紐ヲ用フルトキハ適度ニ之ヲ緊ムヘシ

○釦「ホック」「ピジョウ」ハ之ヲ脱シ置クヘカラス袴ニ在リテハ特ニ注意スヘシ

○襟布ハ上衣ノ襟ヨリ適度ニ現ハスヘシ其他ノ物ヲ頸ニ巻クヘカラス又襦袢ノ袖口ハ上衣ノ袖口ヨリ多ク出スヘカラス

○上衣ハ釦ノ線ヲ正シク體ノ中央ニ置キ袴ハ下ラザル様著スベシ脚絆

ヲ用フルトキハ袴ノ皺ヲ外側ニ正シク集ムベシ

○衣服ノ表面ニハ鎖紐其他布片等ヲ現ハスベカラス

○靴ノ踵ヲ踏ミ歪メサルコトニ注意スベシ

三五 浴室ニ於テ守ルヘキ規定概ネ左ノ如シ

○入浴ハ成ルベク之ヲ多クシ各自ノ入浴時間ハ概ネ十五分間トス

○「トラホーム」皮膚病、花柳病患者等ハ最後ニ入浴スベシ

○被服ノ著脱ハ浴室内ニ於テシ他人ノモノト混同セザル様取纏メ置ク

ヘシ金錢、時計等貴重品ハ浴室ニ持チ行クベカラス

○入浴中ハ靜肅ヲ旨トスベシ吟歌、高聲其他他人ノ妨ケトナルベキ行爲アル可カラズ浴槽内ニ於テ石鹼ヲ使用シ又ハ被服等ノ洗濯ヲ爲スベカラス

○妄ニ湯温ノ調度ヲナスヘカラス必ス衆人ノ合意ニ依ルヘキモノトス

○自己ノ身體ハ自ラ之ヲ拭掃スヘシ敢テ他人ノ助力ヲ俟ツヘカラス

○湯水ノ量ハ限リアルヲ以テ其ノ使用ヲ節約スヘシ

○浴場内ニテ妄ニ痰ヲ吐クヘカラス

○『トラホーム』疥癬痲病等ヲ患フルモノハ規定ノ時間ニ入浴シ患者用

ノ小桶ヲ使用スヘシ

○脱衣場ノ床面ヲ濕潤セシムヘカラス

○浴槽ニ入ルニ先チ不潔ナル部分ヲ能ク洗フヘシ

○浴槽中ニテ身體ヲ洗フヘカラス

○頭髮、耳頸、腋下、陰部、手足(殊ニ足指ノ間)等ニ注意シテ洗フヘ

シ石鹼ヲ用フレハ効更ニ大ナリ

○石鹼ヲ使用シタル時ハ其ノ後ヲ能ク洗滌スヘシ然ラサレハ之カ爲却

テ身體ヲ不潔ニシ襦袢、袴下ヲ速カニ汚漬スルノ害アリ

○浴後ハ急且密ニ身體ヲ乾拭シテ後被服ヲ著スヘシ

第三章 服 從

一 命令報告トハ如何

命令トハ上官ノ言ヒ付ケナリ報告トハ下ノ者ヨリ上ノ者ニ申上ゲル

事ヲ言フ

二 服從トハ如何

上官ノ命令ハ誠心ヲ以テ從フヲ服從ト云フ

三 同級ニテモ故參ノ者(同シニ等卒デモ初年兵ハ二年兵ニ)服從スベシ

四 歩哨其他勤務中ノ者ニハ假令上官デモ其職掌ノ權ニ服從ス故ニ營

門ノ歩哨之ニ對シテハ將校デモ其歩哨ノ命令ニ從フガ正當デアル

五 命令ハ其善シ惡シ又ハ理ガ有ルカ無ヒカ其命令ノ理由(命令ヲ受ケ

夕者ハ其命令ヲ下シタ人ニ詰問ス可ラス
然レトモ命令ノ文句ガ不分明ノ時ハ謹テ何回ニテモ尋問シテ明瞭ナラ
シムベシ

六 新ニ受ケタ命令ト以前ノ命令ノ相違スルトキハ謹テ前ニ此ノ命令ヲ
受ケツ、アルコトヲ新ニ上官ニ申述テ之ヲ行フベシ

七 上官ノ取扱ヒ不條理ト考フル時ハ下タルモノハ一旦夫ニ服從シ總
テ能ク考テ順序ヲ經テ申出ルコトヲ得ルナリ

八 犯行アリ處分ヲ受クルモ假令不當ト思フテ決シテ之ヲ辯解スルコトヲ
得ズ

九 各師團ノ軍隊連合スル時ハ其ノ上官ニ對シテモ同ジク我隊ノ上官ニ
同様服從スベキモノナリ

第四章 日課

一 起床 時候ニ依リ時間ヲ異ニス營内居住者一同床ヲ離ル時ヲ言フ

二 人員點呼 起床後及消燈前人員ノ過不足ヲ調査スル爲メ點呼セラル

三 食事 食事ヲ開始ス

四 命令 隊長ノ日日ノ命令出ス爲メ各大中隊等ノ命令受領者集ル時
ヲ言フ

五 診斷 醫務室ニテ各中隊患者診斷治療開始セララル

六 衛兵支度 衛兵集合時間三拾分前ニ各衛兵勤務者舍外ニ整列ス

七 衛兵集合 交代時間ニ衛兵ヲ集合シ週番大尉服裝檢査ヲ爲ス

八 消燈 營内必要ノ部分ヲ殘シ悉ク燈火ヲ消ス時ヲ言フ

第五章 中隊ノ組織及事務

- 一 中隊長ハ如何ナル事ヲ爲スカ
出テハ中隊ヲ率ヒル隊長ニシテ隊内ニ在テハ中隊内内務衛生經理其他ヲ統轄シ兵卒ノ慈父ナリ聯隊附將校ハ中隊長ノ分身者ナリ
- 二 特務曹長ハ何ヲスル役ナルカ
特務曹長ハ中隊下士兵卒ノ慈母タリ
命令及諸定則ノ履行ヲ監視ス又中隊ノ編成ヲ掌リ下士以下ノ性質行狀技能家庭狀況兵舎内ノ起居動作ヲ注意シ之ヲ矯正ス
又兵卒ノ父兄及村長等ト中隊トノ連繫ヲ圖リ日日數回兵舎内外ヲ巡視シ諸規定ノ實行ヲ監視シ諸支給品ノ整頓手入保存ノ行届クコトニ注意シ又勤務割ヲ爲ス

- 二 曹長ハ何ヲスル人ナルカ
中隊ノ文書報告ヲ司リ經理ノ事務ヲ掌リ兵卒ニ俸給等ノ金錢ヲ支給シ又諸被服等ヲ支給シ中隊ノ倉庫等ヲ看守シ物品金錢ノ出納ヲ掌ル
上官ヨリ命令ヲ受領シ之ヲ下士以下ニ傳達ス
下士以下ノ軍隊手帳ヲ預リ置キ内務班長ノ所要ニ應ジ之ヲ交付ス
- 三 内務班長トハ何ヲスル人ナルカ
班内ノ儀表ト成リ班内ノ和睦一致ヲ計リ班内兵卒ヲシテ諸規定ヲ嚴守セシメ給養支給品等ノ事ヲ注意シ大小トナク直接兵卒ヲ世話スル人ナリ
- 四 班附上等兵ハ何ナル人ナルカ
班長ノ分身者ニシテ内務班長ヲ補佐シ常ニ兵卒ト同室ニ起居シ萬般ノ世話ヲ爲スモノトス

第六章 診斷

毎朝日朝點呼ノ際病氣ノ者ハ内務班長ニ申出診斷時刻ニ至ラバ週番下士ハ醫務室診斷所ニ引率シ患者ノ診斷ヲ受クルモノトス但シ不時ノ病氣ハ何時タリトモ受診シ得患者ハ病症ニ依リ左ニ區別ス

- 一 等症 (傷疾疾病公務ニ依ルモノ) 二等症 (自然ニ起リシ疾病)
- 三等症 (自己ノ不攝生ヨリ起ルモノ)

又各患者ハ左ノ如ク區分ス

- 一 就業トハ服藥ノミシテ業務ハ平生ノ通り行フモノトス
- 二 練兵休トハ室外ノ操練勤務ヲ休ムモノトス
- 三 入室トハ休養室(隊内ノ病室)ニ入り療養ヲ受クルモノ
- 四 入院トハ衛戍病院ニ入院スルヲ言フ

入院(一 等症ヲ除ク)スルモノハ給料半減セラル右ノ外外套手袋ヲ用ユルヲ脱靴ヲ許サズ

第七章 週番勤務

一 週番勤務トハ衛内ノ軍紀風紀ヲ維持シ一般ノ定則ヲ正格ニ履行セシムル爲メ一週間内隊内ニ在テ取締ニ任スルモノナリ故ニ週番ハ通常ハ土曜日ヨリ次ノ土曜日マデ一週間服務シ(時ニヨリ一日宛爲ス)アリ之ヲ日直ト云フ

二 週番ヲ別テニトス

(聯隊週番勤務)(中隊週番勤務)之ナリ

三 聯隊週番勤務ニ當ルモノ左ノ如シ

週番大尉(大尉一名)ト週番特務曹長(特務曹長一名)

- 四 中隊週番勤務ニ當ルモノ次ノ如シ
 - 週番士官(中隊毎ニ中少尉一名)
 - 週番下士(中隊毎ニ下士又ハ伍長勤務上等兵一名)
 - 週番上等兵(中隊毎ニ上等兵二名一名ハ雜務ヲ司リ一名ハ厩ノ事ヲ司ル)

第八章 檢 査

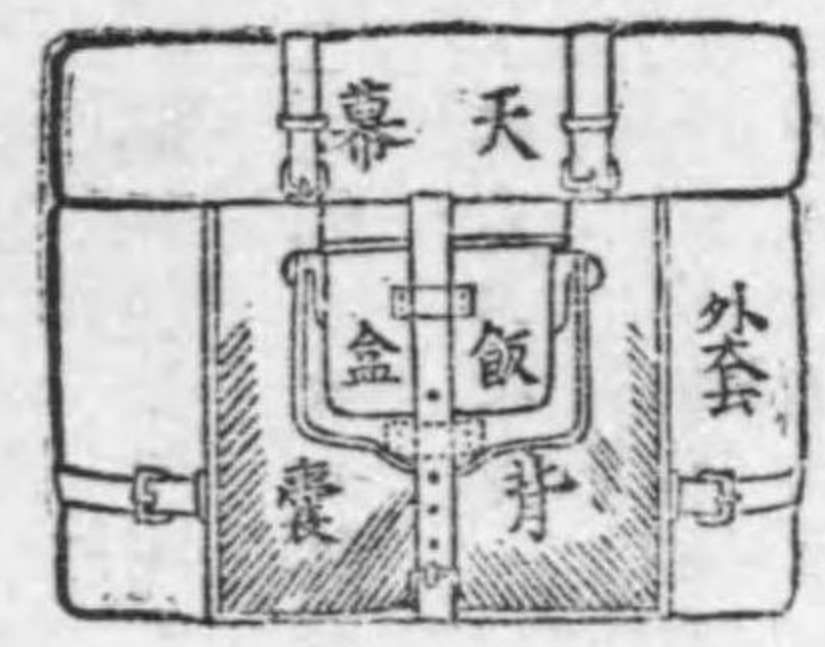
- 一 檢査トハ隊内ノ諸内務ノ實行ヲ齊一確實ナラシムル爲メ行フモノニシテ次ノ三種トス
 - 一 軍裝檢査
 - 二 細密檢査
 - 三 清潔檢査
- 二 軍裝檢査 トハ隊中ノ武裝ヲ齊一ナラシメ且ツ兵器被服ヲ整フルヤ否ヤ又各自支給品ノ保存ガ良シキヤ否ヤヲ檢スル爲メ戰時(演習)ニ要ナル武裝ヲ爲シ隊長ノ時々檢査セラル、ヲ言フ

- 1 軍裝ハ實用ト齊一ト美觀トヲ具備スル如ク著裝スルヲ要ス
 - (一) 外套ハ之ヲ背囊ニ附著セシ時其ノ兩端末ハ背囊ノ下端ヨリ約一珊知短キヲ可トス
 - (二) 卷キタル外套ハ片布ノ露出セサル如ク又中央ノ凸起セサル如ク注意スベシ
 - (三) 其ノ他尙細部ニ細心留意シ實用ニ適セシムルト共ニ美觀ヲ添ヘシムル如クスベシ
- 2 背囊ノ重量ハ之ヲ兩肩ニ平均ニ分配スルコト必要ナリ之ガ爲内容品ノ收容ニ注意シ又背部ニ接著スル部分ハ襦袢ノ如キ柔軟ナルモノヲ平等ニ置キ成ルヘク凸起セシメサル如ク注意スベシ
- 3 背囊ハ之ヲ左右ニ傾カザル如ク負フヘシ之ガ爲負革ノ長サヲ同一ニシ脇革モ亦其ノ長サヲ同一ニスル爲尾錠ヲ止ムヘシ穴ヲ同位置ニ

シ常ニ背囊ヲ同一高度ニ保タシムル如ク尾錠ヲ掛クヘキ位置ヲ記憶シ置クヘシ

4 背囊釦卸ノ位置ハ背囊ヲ正シク負ヒタル時上衣ノ第二釦ト略同高ナルヲ適度トス

5 雜囊ハ之ヲ裝著セサル以前ニ於テ外觀ヲ害セサル如ク内容品ヲ



整へ内部ノ止革ヲ掛ケテ兩側面ノ「ホツク」ヲ裝シ蓋ノ止革ハ内容

品ノ有無ニ關セス其ノ最端末ノ穴ニテ止ムルヲ可トス

6 雜囊ハ之ヲ肩ニ掛ケタル時其ノ紐ハ中間ノ吊紐ト一致スル如ク雜囊ノ後端ハ臀部ノ中央ニアラシムルヲ適度トス

7 水筒ハ其ノ口ヲ雜囊ノ上縁ト同高ニシ其ノ位置ヲ雜囊前半部ノ中央ニ其ノ前縁ト略平行スル如ク吊垂スルヲ可トス

8 水筒雜囊ハ其ノ紐ヲ竝ヘ水筒ノ紐ハ之ヲ上方ニシ上衣第二釦ノ附近ヲ通過セシメ帶革ヲ其ノ上ニ帶フ

9 銃ノ帶革ハ整列セシ時之ヲ銃床ニ沿フテ垂下セシムルヲ可トス前方ニ彎曲シタル儘放置スルハ外觀ヲ害ス

(一)手旗ハ旗ヲ柄ニ卷キ飯盒ノ上部紐革ヲ以テ得著ス

(二)外套ヲ背囊ニ附著スル爲ニハ伏姿ヲ爲シテ遠路離射撃ヲ爲ス際ニ外套ノ爲頭ノ後部ニ支ヘラルコト尠キ様卷方ニ注意スルヲ要ス

- (三) 携帶天幕ハ飯盒ノ上部ニテ其ノ上面ヲ外套上面ト略同シ高サニナル如ク上部紐革ヲ以テ外套ト共ニ締ムルモノトス但シ支柱及控杭ハ幕布内ニ包ミ置クモノトス
- (二) 天幕外縁又ハ其ノ一方ヲ除キタル場合ノ裝著モ之ニ準ス
- 二 細密検査 トハ舍内ニ於テ武器被服其他支給品ハ一切保存修理清潔ノ良シ惡シヲ検査セラルルモノトス但シ配置ハ附圖中ノ如シ
- 1 細密検査ハ兵器、被服、器具、兵舍内外、陣營具、其ノ他諸物品ノ整備及各部分ノ手入ノ良否ヲ檢スル爲時々行ハルモノトス
- 2 細密検査ノ時ハ勤務其他ノ用ニテ一時不在者ノ物品モ裝置スルモノトス
- 3 前項不在者ノ物品ハ上官ノ指示ヲ待ツコトナク互ニ協力シテ自己ノ物ヨリ一層完全ニ手入ヲナシ内務班内一ノ缺點ナキコトニ注意ス

スベシ

- 4 修理交換洗濯等ヲ要スルモノハ検査ニ切迫セサルニ先テ之ヲ完了スル如ク當日相成ルベク配置スヘシ
- 5 若シ止ヲ得ス修理洗濯等ニテ缺ケタル物品ハ内務班長ノ承認ヲ受ケ紙片ニ其ノ旨ヲ記シ其ノ位置ニ置クヘシ
- 6 検査前日マテニ準備ヲ完了シ置クヘキモノ左ノ如シ
 - (一) 被服類ノ修理手入ノ完成セルモノヲ正シク疊ミ外套絨衣袴夏衣袴各作業衣袴襦袢袴下作業衣袴背囊ノ順序ニ棚ニ整頓シ置クヘシ
 - (二) 蕨金、負革、鼓鉦、背囊釣金、洗矢、藥室掃除器、轉螺器、油壺等ノ手入ヲナシ一纏トナシ置クヘシ
 - (三) 燕口袋及其ノ内容品ノ手入ヲナシ袋ハ皺ニナラサル如ク内容品ヲ收メ置キ又糸卷ノ糸ハ各色ノモノヲ定メラレタル順序ニ一

様ニナシ縫針モ定數ニ不足ナキコトニ留意スベシ
 (四) 卷脚絆ハ除塵ヲ行ヒ之ヲ正シク卷キ麻脚絆ハ釦ノ附著堅固ナル
 ヤ修理ヲ加フベキ點ナキヤ記名明瞭ナルヤ等ヲ點檢シ一定ノ方式
 ニ依リテ折疊ミ置クヘシ

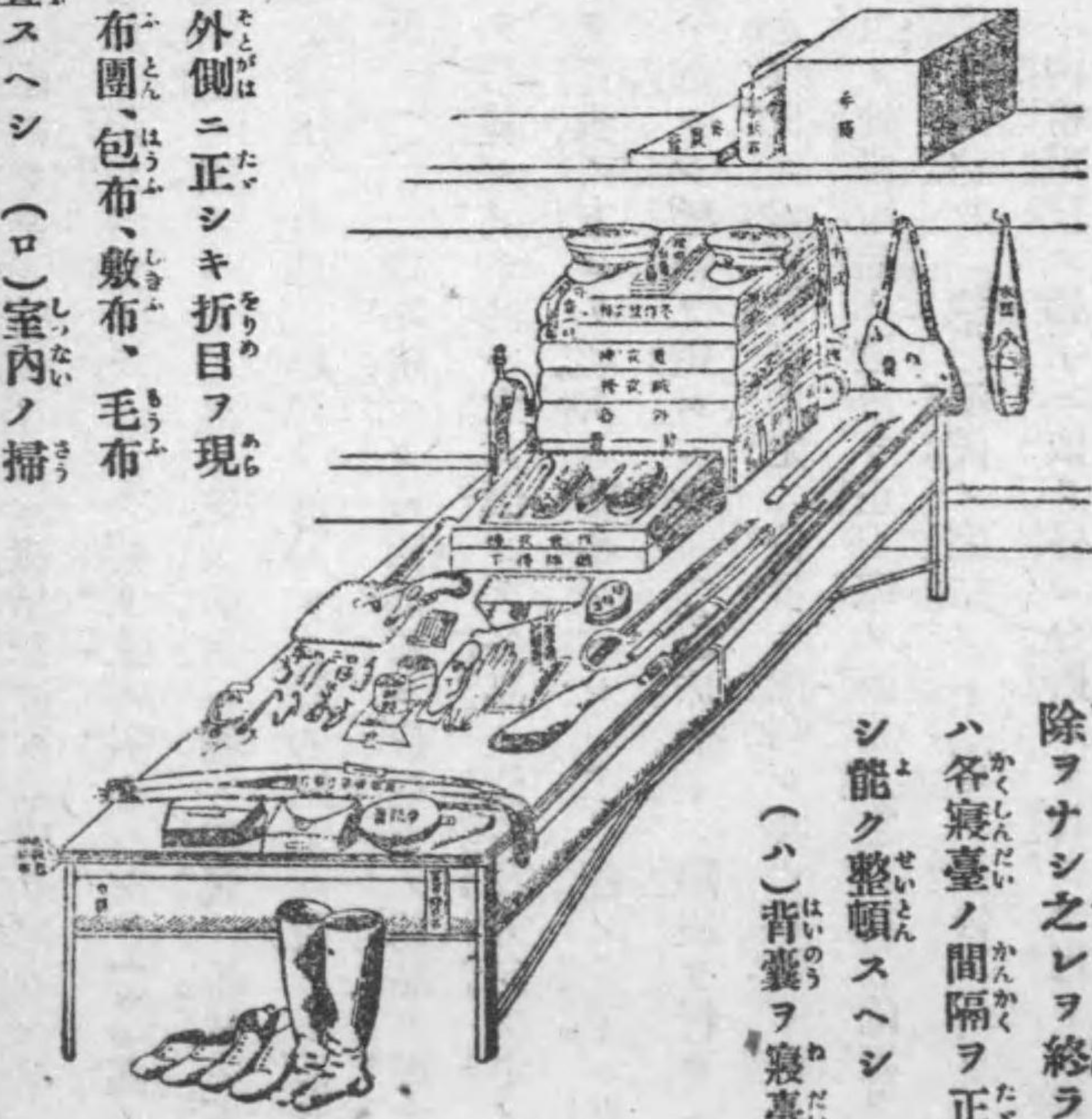
(五) 刷毛類及擬製彈ノ手入ヲナシ各種毎ニ一括シ置キ又麻袋ハ皺ヲ
 伸ハシ一定ニ疊ミ置クヘシ

(六) 凡テ麻布製ノモノハ洗濯ヲナシ其ノ全ク乾カサル時機ニ於テ皺
 ヲ伸ハシ折疊ミヲナスヲ可トス全ク乾キタル時ハ少量ノ霧ヲ含マ
 シムルトキハ其ノ取扱容易ニシテ意ノ如ク折疊ムコトヲ得ヘシ

(七) 手箱内容品ノ整頓及飯盒、水筒、雜囊、食器等細部ニ至ルマテ手
 入ヲ完了シ遺漏ナキコトニ注意スベシ

7 検査當日ナスヘキコト及其ノ順序概ネ左ノ如シ

(イ) 寢具ノ
 除塵ヲ行ヒ
 毛布ハ其ノ
 兩端ヲ内方
 ニスル如ク
 四折シ包布
 ハ之ヲ三折
 シ共ニ藁蒲
 團ノ幅ト同
 幅ニシ敷布ハ外側ニ正シキ折目ヲ現
 ハス如ク疊ミ布團、包布、敷布、毛布
 ノ順序ニ重疊スヘシ (ロ) 室内ノ掃



除ヲナシ之レヲ終ラ
 ハ各寢臺ノ間隔ヲ正
 シ能ク整頓スヘシ
 (ハ) 背囊ヲ寢臺

上所定ノ位置ニ配列シ其ノ整頓ヲ正シ諸品配置シ基礎ヲ定ムヘシ
 (ニ) 棚上ノ被服ヲ原形ヲ變セラル如ク背囊上ニ置クヘシ (ホ) 其ノ
 他ノ諸品ヲ寢臺上ニ出スヘシ、但手箱及飯盒ハ棚ニ雜囊、手拭ハ下
 棚ノ釘ニ在來ノ儘トシ全部ノ配列ヲ終ルマテ銃ハ銃架ニ靴ハ寢臺下
 ニ置クヲ可トス (ヘ) 一内務班少クモ四箇所ニ寢臺上ノ諸品ヲ規定
 ノ如ク配置シテ示範シ其ノ他ハ之ニ倣フテ各品ノ位置及方向ヲ定メ
 配列終ラハ之ヲ背囊ノ方ヨリ順次ニ整頓スヘシ (ト) 棚ノ上下ニ在
 ル諸品ヲ規定ノ如クシ整頓ヲ正スヘシ (チ) 床面上ノ除塵ヲ行フヘシ
 (リ) 靴ヲ定位置ニ正シ銃ヲ所定ノ位置ニ配列シ其ノ整頓ヲ正ス
 ヘシ (ヌ) 机其ノ他備附品ノ位置ヲ正シ窓ノ開閉及窓日覆ノ位置ヲ
 一定シ検査ノ準備ヲ終ル (ル) 準備ノ完結ヲ上官ヲ報告スヘシ
 8 以上ノ諸件ハ内務班長ノ指示ニ依リ各々分擔シテ行フヲ可トス若

第九章 外出

シ各自隨意ニ諸品ノ配列ヲナス時ハ之カ齊一ヲ缺キ却テ準備ノ進捗
 ヲ害スルモノトス
 三 清潔検査 トハ舍内ニ於テ武器被服其他ノ諸物品ノ清潔良否並ニ舍
 内ノ清潔ヲ検査セラル、モノニシテ毎週土曜日午後中隊長若クハ中隊
 附士官之ヲ行ハル時ニヨリ武器又ハ被服ノ一部ヲ施行セラル、トアリ
 兵器ヲ分解シ其細部ヲ検査スルヲ兵器分解検査ト云フ
 一 日曜日大祭祝日年末年始靖國神社、祭日陸軍始陸軍記念日等其他定
 メラレタル休暇日ニハ勤務ニ當ル者ノ外ハ演習ヲ休ミ營内ニテ休養ス
 本人ノ希望ニ依リ朝食後ヨリ夕食前マテ外出ヲ許サル下士ハ日夕點
 呼迄許サルト雖モ成ル可ク外出ヲ致サ、ルヲ可トス

- 二 已ムヲ得サル事情アリテ臨時外出ヲ願出ル時ハ各隊長ハ四十八時間ノ外出ヲ許サル、トアリ届書ニ事情ヲ詳記シ出願スベシ
- 三 外出ノ服装ハ所定ノ服ヲ著ケ軍隊手牒ヲ内務班長ヨリ受領シ特ニ許可ヲ受ケテ外出スルトキハ外出證ヲ所持スベシ若シ外套ヲ携ヘル時ハ巻キテ左肩ヨリ右腋下ニ掛ケ又雨天泥濘ノ時ハ脚絆ヲ袴上ニ穿ツモノトス
- 旅行又ハ歸省ヲ許サレタルモノハ外套ヲ携ヘ脚絆ヲ着スベシ
- 四 聯隊長ハ休業日數日ニ亘ル場合ニハ勤務ニ差支ナキトキハ品行方正ニシテ勤務勉勵シ技藝ニ熟達シ且旅費其他家計上差支ナキ者ハ外泊歸省ヲ許ス
- 五 總テ外出セントスル者ハ兵舎ニ歸リ食事スルヤ否ヤ豫定シ炊事準備ニ間ニ合フ如ク内務班長ニ届出ベシ是無益ノ準備ヲ避ケ一般ノ食物

- ヲ善良ナラシムル公德心ナリ夕食時限マデ外出スル下士以下ニシテ止ムヲ得ズ兵營ニ歸リ晝食シ能ハザルモノニ前日夕食迄ニ内務班長ニ届出デ辨當ヲ請求スベシ
- 六 公用ノ外出者ハ脚絆ヲ穿テ中隊長又ハ週番士官ヨリ受領シ公用證ヲ携フベシ但シ内務班長及週番下士ニ届出テ外出シ歸營シタレバ公用證ヲ受領シタル人ニ返納シ班長及週番下士ニ報告ス
- 七 物品ヲ携ヘ外出スル者ハ週番士官其他准士官以上ノ所有品ナレバ其所有者ニ届出物品持出ノ證ヲ受ケ出門ノ際之ヲ風紀衛兵ニ渡スベシ許可ナキ物品ハ營外ニ持出又ハ營内ニ持入ル可ラズ
- 八 中隊ノ一般休日ニアラザル日ニ外出セントスルモノ日夕點呼後ニ歸營セントスルモノ若シクハ日夕點呼後外出セントスルモノハ内務班長ニ届出中隊長ニ願出外出證ヲ受ケ週番士官ニ届出デ外出スベシ

シ歸營シタルトキハ外出證ヲ受ケシ人ニ返納シ週番下士ニ届出ヅベシ

九 外出先ニ於テ守ルベキ規定概ネ左ノ如シ

- 一 外出ノ際ハ特ニ服装ヲ正シクシ姿勢動作ヲ嚴確ニシ活潑ナル歩法ヲ用ヒ凜乎侵スヘカラサル威儀ヲ備フルヲ要ス
- 二 凡ソ聯隊ニ於ケル軍紀ノ張弛教育ノ精神ヲ觀察セント欲スルモノハ兵卒ノ營外ニ於ケル舉動ニ注意スルモノナレハ外出先ニ於ケル各自ノ一舉一動ハ聯隊ノ名譽ヲ代表スルモノト心得常ニ軍人ノ名譽ヲ發揚スルコトヲ心掛クヘシ
- 三 公衆ニ對シテハ穩和謙讓ヲ旨トスヘシ決シテ粗暴野鄙ノ言行アルヘカラス
- 四 老幼婦人ニ對シテハ道ヲ避ケ座席ヲ讓リ諸事親切ヲ旨トスヘシ

- 五 總テ公園劇場其ノ他群衆ノ場所ニ在リテハ特ニ容儀ヲ慎ムヘシ
- 六 停車場或ハ勸工場ニ用事ナキトキ立寄り公衆ノ妨ケヲナスヘカラス
- 七 街路ハ左側ヲ通行シ人道車馬道ノ別アル所ニ於テハ其ノ區別ヲ守ルヘシ
- 八 數人同行スルトキ狭キ道路ニ在リテハ二人以上廣キ道路ニ在リテハ三人以上並列スヘカラス
- 九 街路ニ於テ高聲談話スヘカラス
- 一〇 行進中ハ上級古參者ノ步調ニ倣フヘシ
- 一一 雨雪天ニアラスシテ外套ノ頭巾ヲ冠リ又ハ衣服ノ「カクシ」ニ手ヲ入レ居ル等懦弱ノ行爲アルヘカラス
- 一二 凡ソ活潑ナル動作ハ軍人精神ノ充實ヲ表スルモノナレハ假令用

事ナキトキト雖モ放心徐行スヘカラス況ンヤ醉步蹣跚ハ心術ノ野鄙ヲ表スルモノナレハ酒氣ヲ帶フルトキハ一層軍人ノ容儀ヲ正フスルコトニ注意スヘシ

二三 禁止セラレタル飲食店、遊戯場等ニ立入ルヘカラス

一四 軍人ノ品位ヲ害スルカ如キ不體裁ノ物品ヲ携フヘカラス又外ヨリ見ユル所ニテ飲食スヘカラス

一五 外出中非常其ノ他兵營近傍ニ火災アルコトヲ知リタルトキハ直ニ歸營スヘシ

一六 外出先ニ於テ事故アリシトキハ歸營後直ニ報告スヘシ

一七 差支アリテ定メラレタル時日ニ歸營スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ニ從ヒ市(町)(村)長、憲兵、警察官、驛長、船長等ノ證明書若クハ醫師ノ診斷書ヲ受ケ歸營後届出ツヘシ

一八 入隊日淺クシテ軍人ノ容儀敬禮及市内ノ景況等ニ慣レサル間ハ引率者付添ヒ外出スルモノトス

一九 事由ナクシテ歸營時限ニ遅刻スヘカラス之カ爲用事終ラハ速ニ歸營シ常ニ時間ニ餘裕アル如ク注意スヘシ

二〇 時計ヲ所持スル者ハ外出ノ際風紀衛兵ノ時計ニ合ハシ置クヘシ然レトモ故障ノ起ルコトアルヲ以テ常ニ之ニノミ依頼スヘカラス
二一 時計ヲ所持セサル者ハ市中數軒ニ掛ケアル時計ヲ比較シ其ノ平均ヲ求メ時刻ニ餘裕アル様判斷ヲナスヘシ決シテ一家ノ時計ヲ見テ其ノ時間ヲ定ムヘカラス

二二 他ニ所要ナケレハ散步ハ市中雜踏ノ地ヲ避ケ公園或ハ野外ヲ選ヒ清涼ノ空氣ヲ呼吸スヘシ

二三 市中ニ下宿ヲ求メ蟄居スルハ精神ヲ懦弱ナラシムルノ虞アルヲ

以テ之ヲ避クルヲ可トス

第十章 火災豫防、消防及非常

呼集

一 凡ソ火災ハ人畜ニ危害ヲ及ボシ國財ヲ費シ軍隊ノ教育及衛生ヲ害スル等多シ而テ多ク不虞ヨリ生スルモノトス上下一致全幅ノ注意ヲ以テ其危害ヲ未然ニ豫防セザルベカラズ之ガ爲兵卒ノ嚴守スベキ規定概ネ左ノ如シ

一 喫烟ハ舍内ニ在リテハ所定ノ場所外ニ於テスルヲ禁ズ舍外ト雖モ彈藥庫、火藥庫、兵器庫、被服庫、厩、馬糧庫、薪炭庫等ノ近傍ニ於テスルヲ禁ズ

- 二 「マツチ」ノ燃殻煙草ノ吸殻ニハ火ノ氣ノ殘ラザルコトニ注意シ火鉢其他火災ノ恐ナキ場所ニアラザレバ之ヲ棄ツベカラズ
- 三 蠟マツチノ如キ發火ノ早キモノヲ所持スヘカラズ普通ノ「マツチ」ト雖モ成ルベク一箱ヨリ多ク所持スベカラズ酒保等ニ於テモ餘分ニ貯藏スベカラス
- 四 擅ニ火ヲ點スヘカラズ裸燈火ヲ使用スヘカラズ燈火ヲ所定ノ場所外ニ持行クベカラズ提燈ヲ使用セザルコトヲ勉ムベシ
- 五 不完全ナル火取ニテ火ヲ運ブベカラズ舍外ニテ火ヲ運ブニハ蓋ノアル火取ヲ用フベシ
- 六 彈藥其他爆發ノ恐アル物品ヲ舍内ニ置クベカラズ
- 七 暖爐、火鉢等ニ接近シテ薪炭、紙屑籠類ヲ置クベカラズ
- 八 暖爐ノ蓋ヲ取り又ハ焚火口ヲ開ケ放スベカラズ又暖爐、火鉢等ハ

九 室ノ壁ヨリ相當ノ距離ヲ隔テ要スレバ金屬板ブリキ鐵板等ヲ以テ壁ヲ被フベシ

九 暖爐ヲ過度ニ焚クベカラズ又暖爐ニテ紙屑類ヲ焚クベカラズ火鉢ニ多クノ火ヲ入ルベカラズ演習出場、諸官退營及消燈後ハ火ヲ消シ餘燼ヲ止ムベカラズ

一〇 火鉢ハ消火後其定數ヲ表記シアル場所ニ集メ併ベ置クベシ火鉢ノ灰ハ七分目ナルヲ度トス

三 出火ノ際ハ大事ニ至ラザル前之ヲ消止ムルヲ以テ第一ノ目的トス故ニ火元若クハ其近傍ニ居合セタルモノハ服裝等ノ如何ヲ顧ミズ速ニ之ニ駆付ケ諸種ノ手段ヲ盡シテ消防ニ勉ムベシ
出火ノ際ニ於ケル處置ハ其地ニ現在スル者ノ臨機ノ

取計ニ任ジ遺策ナキコトヲ期スルヲ本旨トス然レドモ一般ノ場合ニ於ケル動作ヲ示スコト左ノ如シ

一 消防隊ハ現時ノ衣袴ノ儘所定ノ場所ニ集合シ消防隊司令ノ指揮ヲ受クベシ委員附下士、工卒、當番卒ハ各受持ノ場所ニ至ルベシ其他ノ下士以下ハ兵器ヲ携ヘ所定ノ位置ニ集合シ高級古參者ノ指揮ヲ受クベシ

二 其舎室ヨリ出火ノトキハ集合スルコトナク各自兵器、非常持出書類、公用書類、被服等ノ順序ニ之ヲ舎外安全ノ地ニ持出スベシ

三 軍旗、御眞影、勅諭等ニ延焼スルノ虞アリテ上官ノ指圖ヲ待ツノ違ナキトキハ當該歩哨ハ勿論其附近ニ居合ス者ハ之ヲ他ニ奉移スベシ

四 水災、風災、震災等ノ場合ニハ概ネ此規定ニ準ジ適宜處置スベキモ

ノトス

- 五 非常ノ際ハ現在スル高級古參者ノ機宜ノ處置ニ任シ遺策ナキヲ期スルコト勿論ナリト雖モ概ネ火災ノ爲定メタル諸件ヲ適用スベシ
- 六 非常召集ヲ要スルトキハ非常召集ノ號音ヲ吹ク此號音ニテ軍裝ヲ爲シ兵卒ハ舍前ニ整列シ風紀衛兵及其控兵ハ衛舍前ニ整列スベシ
- 七 非常召集ノ際兵舍ニ殘置シタル監守者ハ特ニ火元取締ニ注意スベシ

第十一章 酒保

- 一 酒保ハ良質ニテ價ノ安キ日用品及飲食物ヲ下士以下ニ購求セシムル爲メ設ケラレタルモノナリ
- 二 酒保ニ就ク時ハ靜肅ヲ旨トシ禮讓ヲ重シ風紀ヲ亂シ他人ノ妨ケトナルベキ言行アル可カラズ又武裝ノ儘飲食スベカラズ

- 三 左ノ者ハ酒保ニ就ク能ヘス
 - (一) 罰人及犯行取調中ノ者
 - (二) 軍醫ノ診斷中ノ者
 - (三) 衛兵勤務中ノ者
 - (四) 其他上官ヨリ禁止セラレシモノ
- 四 酒保ハ毎日書食後ヨリ日夕點呼マデ開クモノト一般休日ハ朝食後ヨリ開クルモノトス
- 五 間食ハ消化機能ヲ害スルノミナラス濫費ノ惡習ヲ誘致スルヲ以テ番ニ軍人トシテノミナラズ國民トシテモ大ニ警戒セサルヘカラス

第十二章 兵營及室内裝置

- 一 兵營内ハ編制ノ順序ニ從ヒ通常之ヲ本部、兵舍、倉庫、工場、炊事場等ニ分チ浴室、洗面所、洗濯所、風紀衛兵所、營倉、面會所、酒保、集會所等ニ附屬ス

- 二 本部ハ聯、大隊本部員ノ事務ニ服シ及本部附下士ノ居所ニシテ之ヲ事務室、下士室、週番士官室ニ區別ス
- 三 兵舎ハ下士兵卒ノ居所ニシテ中隊毎ニ區分シ下士室、兵室ヲ分チ中隊事務室、將校室及若干ノ物置ヲ置ク
- 四 中隊事務室ハ中隊長、特務曹長及曹長ノ事務ヲ取扱フ所トス
- 五 將校室ハ中隊附士官及見習士官ノ詰所ナリ
- 六 下士室ハ下士ノ居ル室ナリ
- 七 兵室及其備付物品ノ清潔保存ハ室内全員ノ負擔スル所ナリ總テ共同ニ使用スル場所及物件ハ特ニ清潔保存ニ注意スヘシ其良否ハ該隊協同一致ノ觀念如何ヲトスルニ足ルモノトス
- 八 寢臺ニハ使用者ノ官等級、氏名ヲ記シタル紙札ヲ掲ゲ手箱、銃架、被服棚及外套掛等ニハ氏名ヲ記シタル紙札ヲ貼り置クヘシ



- ナル箱ニ入レ其出シ入レニ當リ近傍ヲ汚サザルコトニ注意スヘシ
- 一 各室及廊下ニ備付ケタル痰壺ニハ約四分ノ一ノ水ヲ容レ毎朝取換ヘ汚水ハ廁ニ棄ツヘシ
- 二 窓ノ開閉其度合竝ニ窓掛ノ垂レ方ハ季節ニ依リ聯隊長之ヲ定ム

第十三章 馬ノ衛生及厩ノ心得

- 一 病馬ノ診斷ハ定時限ニ於テ(急病馬ハ此限ニアラズ)厩週番上等兵引率ノ下ニ受クルモノトス
- 二 病馬ハ就業(當日ノ業ニ就)、休業(厩ニ於テ休業)、入厩(病馬厩ニ入ラ)ノ三種ニ區別ス
- 三 厩ハ屢々其内外ヲ掃除シ常ニ乾燥シ、特ニ秣棚、飼槽臺ヲ清潔ニシ寢糞ヲ散ラサズ、空氣ノ流通ニ注意シ、尿水ヲ留メズ糞便ハ直ニ之ヲ

- 取除ケ臭氣ヲ留メザルコトニ注意スベシ、是レ馬ハ多量ノ空氣ヲ要シ且不潔ノ空氣ニ堪ヘ難キモノナレバナリ
- 厩内ニ於テ妄ニ水ヲ使用スルコトヲ禁ズ、馬若シ厩内ニ在ラザルトキハ窓戸ヲ開キ乾燥セシムベシ
- 四 馬具、厩具等ハ使用後直ニ垢ヲ拭ヒ或ハ洗ヒ要スレバ油ヲ塗り丁寧ニ手入ヲ爲シ所定ノ位置ニ整頓シ置クベシ、鞍下毛布ハ日光ニ曝シ塵ヲ拂ヒ疊ミ置クベシ、又手入具ハ成ルベク馬毎ニ分チ置クベシ是レ傳染病豫防ニ便ナレバナリ
- 五 厩ニ於テハ特ニ火災ノ豫防ニ注意スベシ、厩及其周圍ニ於テハ裸火ヲ用フベカラズ、又喫煙ヲ禁ズ、切物ハ寢張網ヲ切ル爲見易キ所ニ置クベシ
- 六 厩當番卒ハ、馬ノ保護、厩内外ノ清潔、馬具、厩具ノ監視及雜役ニ

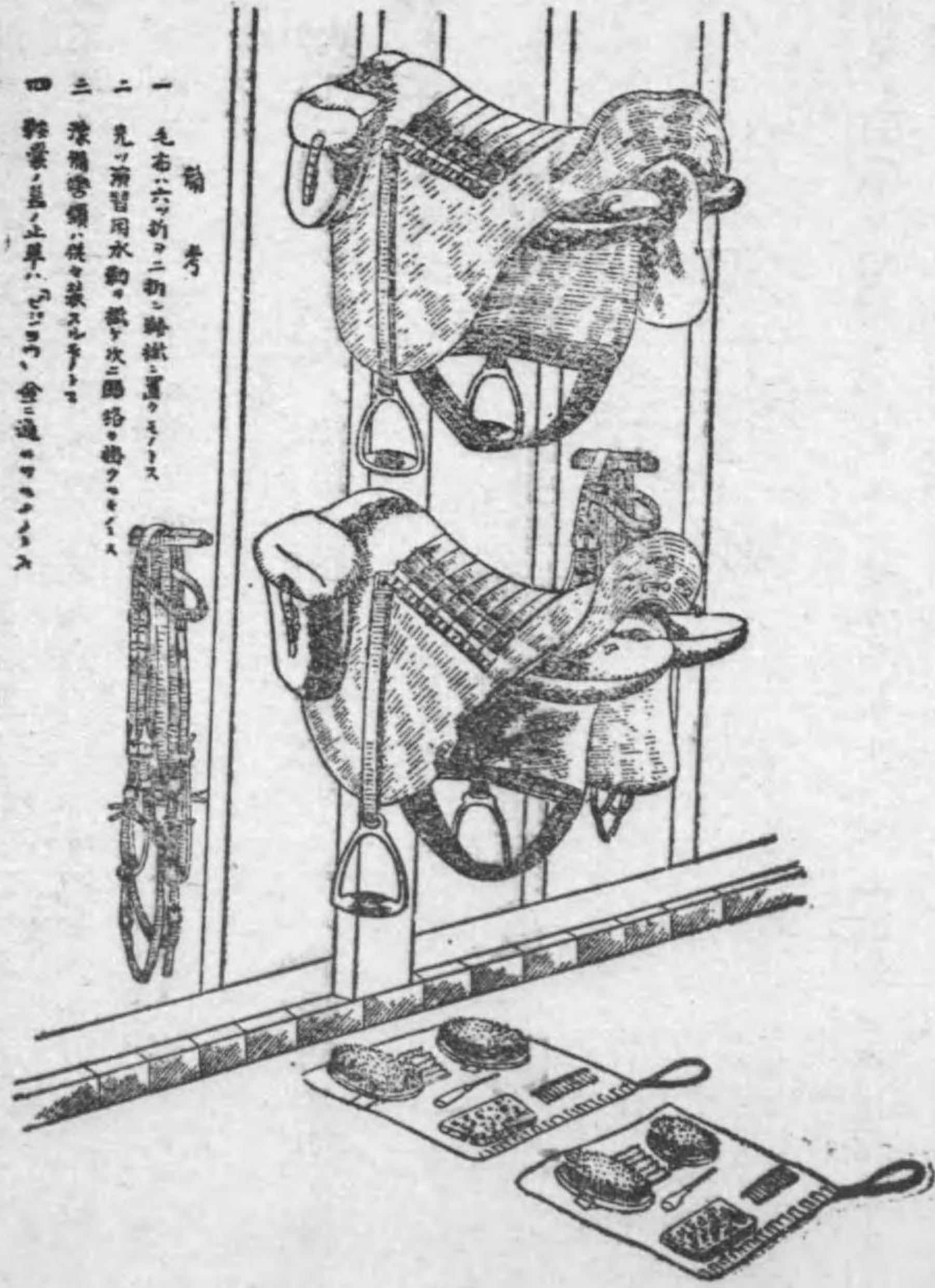
服スルモノトス

厩當番卒ハ厩週番上等兵ノ指揮ニ屬シ、二十四時間毎ニ交代シ厩ニ詰切ルモノトス、但シ夜間ハ半數宛假眠スルコトヲ得

七 厩ニ於テ守ルベキ規定左ノ如シ

- (一) 厩内ニテ高聲ヲ發スベカラズ、馬ニ接スルニハ温和ノ態度ト音聲トヲ以テスベシ
- (二) 斷ヘズ厩ヲ巡リ馬ノ繫方、四肢ニ綱ヲ懸ケザルコト、寢藁ヲ蹴出サバルコトニ注意シ放馬ヲ警ムベシ
- (三) 病馬アルトキハ厩週番上等兵ニ届出ベシ
- (四) 厩ノ内外ヲ掃除シ糞尿ヲ留ムベカラズ馬糞、塵芥等ハ所定ノ場所外ニ捨ツベカラズ
- (五) 乾カシアル寢藁ハ時々攪廻シテ充分ニ乾カスベシ

細密検査教置略圖



- 一 毛布ハ右ノ如クニ新ニ洗滌シ置クベシ
- 二 乳ノ所用水動。概テ水ニ腸結。腸ヲモキス
- 三 漆桶等類ハ洗々スベシ
- 四 鞍袋。土草ハ。シヨク。金。通。カ。サ。シ

- (六) 所定ノ時刻ニ於テ水槽ニ水ヲ汲入レ又馬糧ノ分配ヲ受ケ飼付ノ準備ヲ爲スベシ
- (七) 命令ナクシテ妄リニ馬ヲ牽出サシメ、又ハ外來ノ人馬ヲ入ラシムベカラズ
- (八) 火元ニ注意シ火災ノ節馬ヲ牽出ス逸ナキトキハ寢張綱ヲ切り馬ヲ救ヒ出スベシ

第九課 勳章徽章其他褒賞ニ關ス

ル事項

第一章 勳章

- 一 勳章ハ國家ニ功績アル人ノ名譽ヲ賞表センガ爲制定シタルモノナリ
- 二 功績アルモノハ勳章及勳位ヲ賜ハルモノナリ

- 三 勳位ニ叙セラル可キモノ左ノ三種トス
 - 一 殊勳 二勳功 三勳勞トシ大勳位勳一等ヨリ勳八等又功一級ヨリ功七級ニ至ルモノナリ
- 四 殊勳トハ軍人ニ限り戰爭中特殊ノ勳功アリシ者ヲ云フ例令左ノ如シ
 - (一) 敵ノ隊旗ヲ奪ヒタル者(我軍旗ニ同ジキモノ)
 - (二) 上官ノ危急ヲ救ヒタル者
 - (三) 敵將ヲ倒シ或ハ之ヲ捕獲シタル者
 - (四) 敵中ヲ通過シ使令ヲ至フシタル者
 - (五) 勇敢忠烈ノ所爲ニヨリ全軍ノ利益ヲ得ル者
- 五 勳功トハ平時戰時ニ拘ラヌ國家ノ爲メ功績ヲ擧ゲルモノヲ云フ例令左ノ如シ
 - (一) 勇烈忠貞ノ所爲ニ依リ軍人ノ模範トナリシ者
 - (二) 内外ヲ論ゼズ四回ノ戰役ニ從軍シ又ハ滿三年以上戰地ニ在ル者
 - (三) 要衝ノ敵ニ當

リ先登シテ功ヲ立テタル者 (四) 敵數人ヲ殲シ其功大ナル者
六 勳勞トハ平時戰時ニ拘ラス國家ノ爲メ勳勞アリシ者ヲ云フ
七 勳章ノ種類左ノ如シ

一 菊花章 二 金鷄章 三 旭日章 四 瑞寶章 五 寶冠章

八 菊花章ハ偉勳アル者ニ賜フ左ノ二種ニ分ツ

一 大勳位菊花章頸飾 大勳位菊花大綬章

九 金鷄章

金鷄章ハ軍人ニ限り賜ルモノニシテ殊勳アル者ニ賜フ功一級ヨリ功七

級ニ至リ年金ヲ附加セラル

一〇 旭日章

旭日章ハ勳功アル者ニ賜フ左ノ九種アリ

勳一等旭日桐花大綬章 勳一等旭日大綬章 勳二等旭日重光章

勳三等旭日中綬章 勳四等旭日小綬章 勳五等雙光旭日章 勳

六等單光旭日章 勳七等青色桐葉章 勳八等白色桐葉章

一一 瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等マデアリ勳勞アル者ニ賜フ

一二 寶冠章

婦人ノ勳功アル者ニ賜フ勳一等ヨリ勳七等マデアリ

一三 勳章ノ起因

明治八年二月 勳章賞牌ノ典ヲ定ム

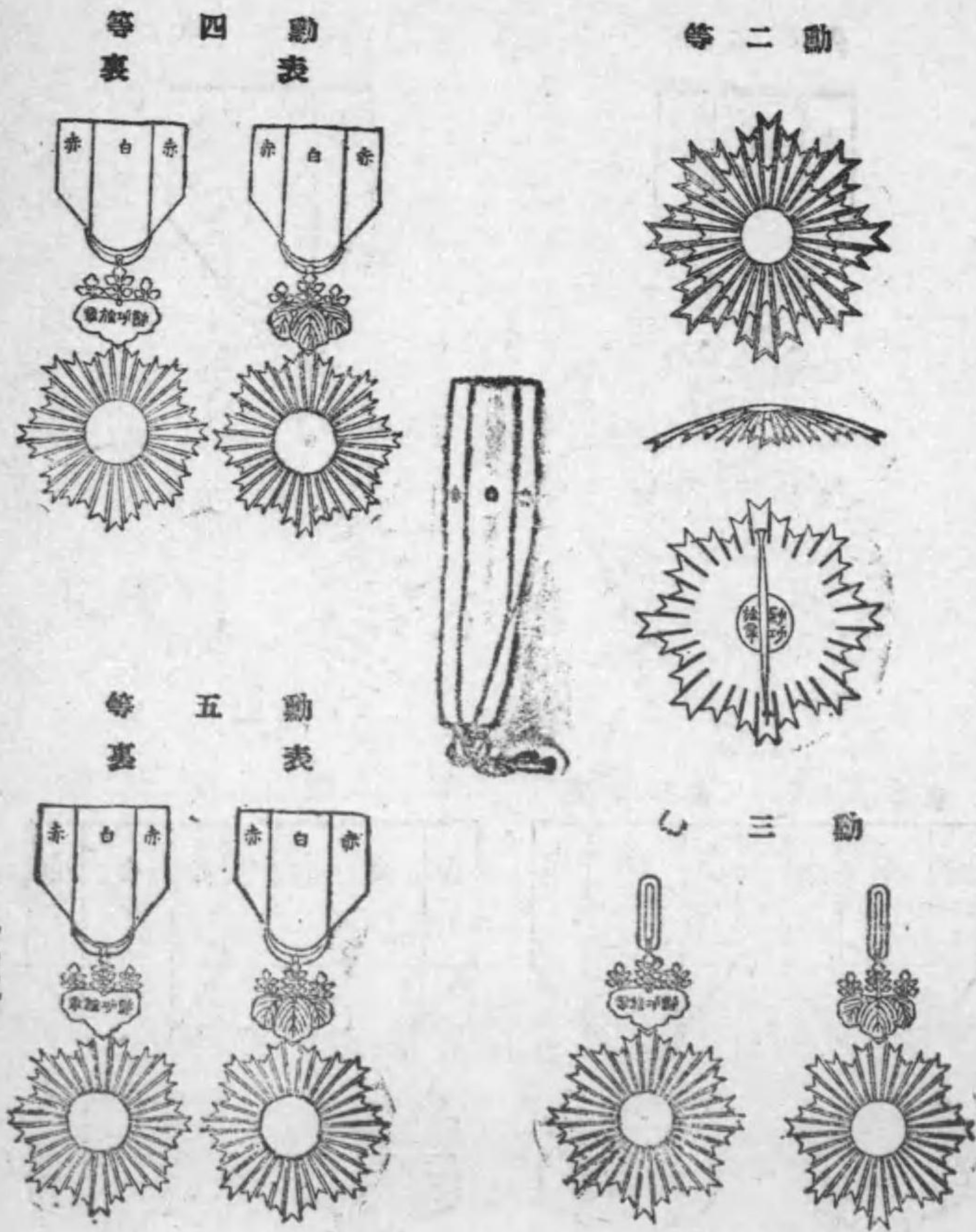
明治三十一年一月更ニ瑞寶章ヲ設ラル

金鷄章ハ明治二十三年二月十一日左ノ 詔ト共ニ制定セラレタリ

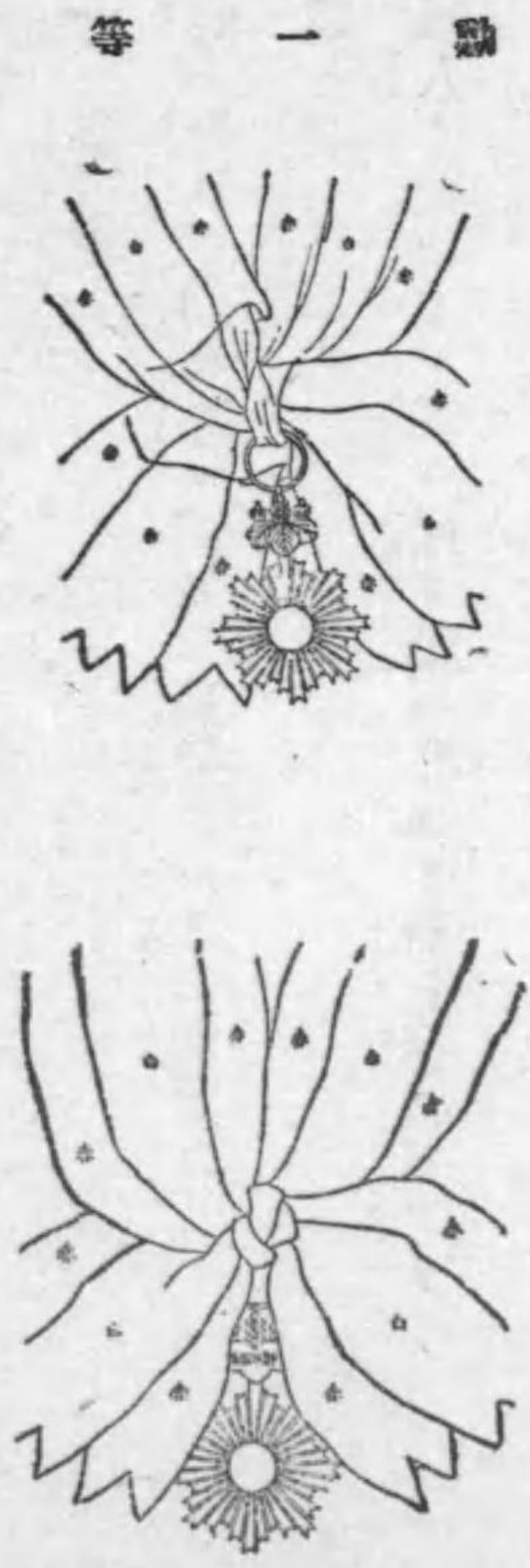
朕 惟ムルニ神武天皇皇業ヲ恢弘シ繼承シテ朕ニ及ヘリ今ヤ寔ニ登

極紀元ヲ算スレハ二千五百五十年ニ及ヘリ朕 此期ニ際シテ天皇敕定

知 須 兵 砲



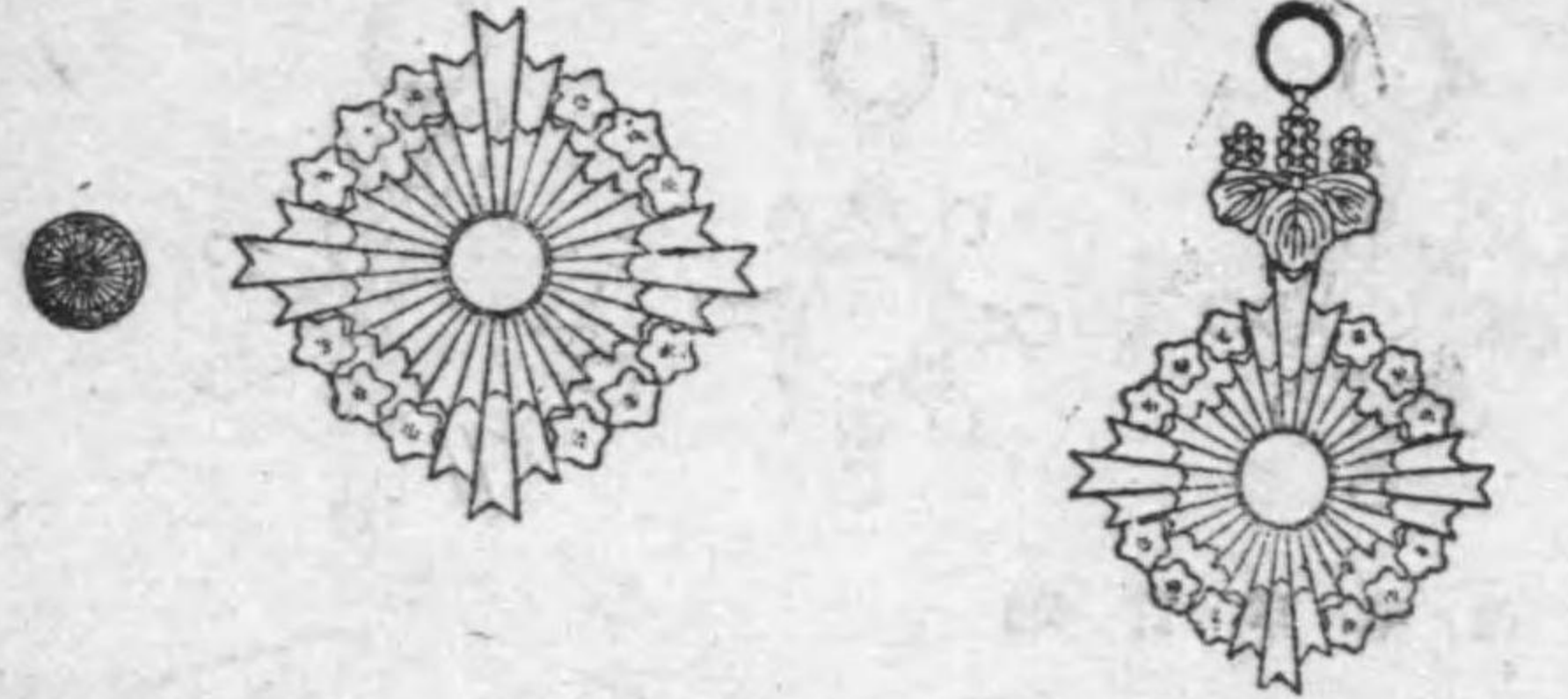
知 須 兵 砲



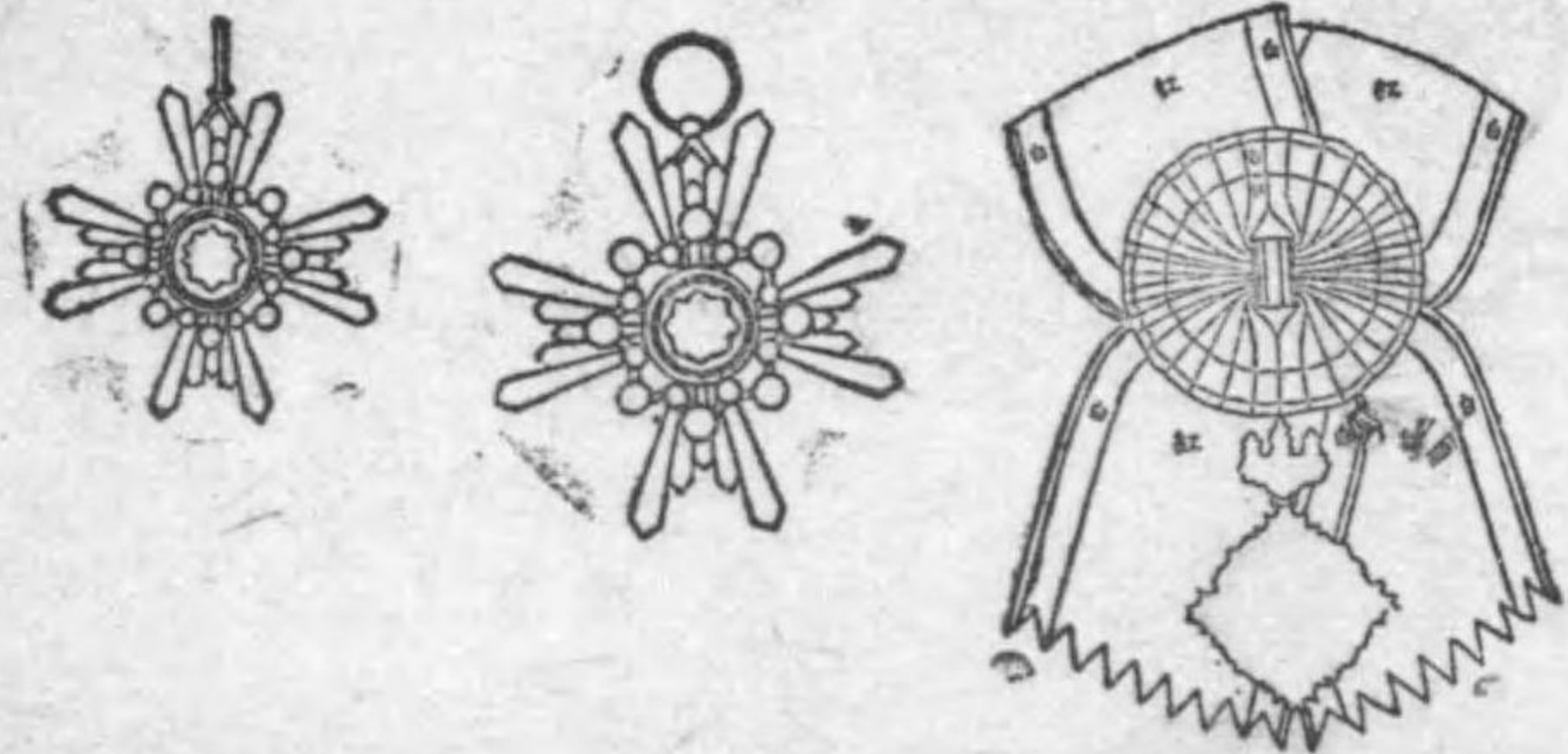
ノ古事ニ徴シ金鷄勳章ヲ設置シ將來武功拔群ノ者ニ授與シ永ク天皇ノ
 威烈ヲ輝シ其忠勇ヲ獎勵セントス汝衆庶此旨ヲ體セヨ
 (即神武天皇御即位ノ初メ諸所ニ賊起リ金鷄飛來リ道ヲ照シ皇軍ノ利
 ヲ計リタルニ因タルモノナリ)

知 須 兵 砲

綬略同 章副同 綬大花菊章日旭等一勳

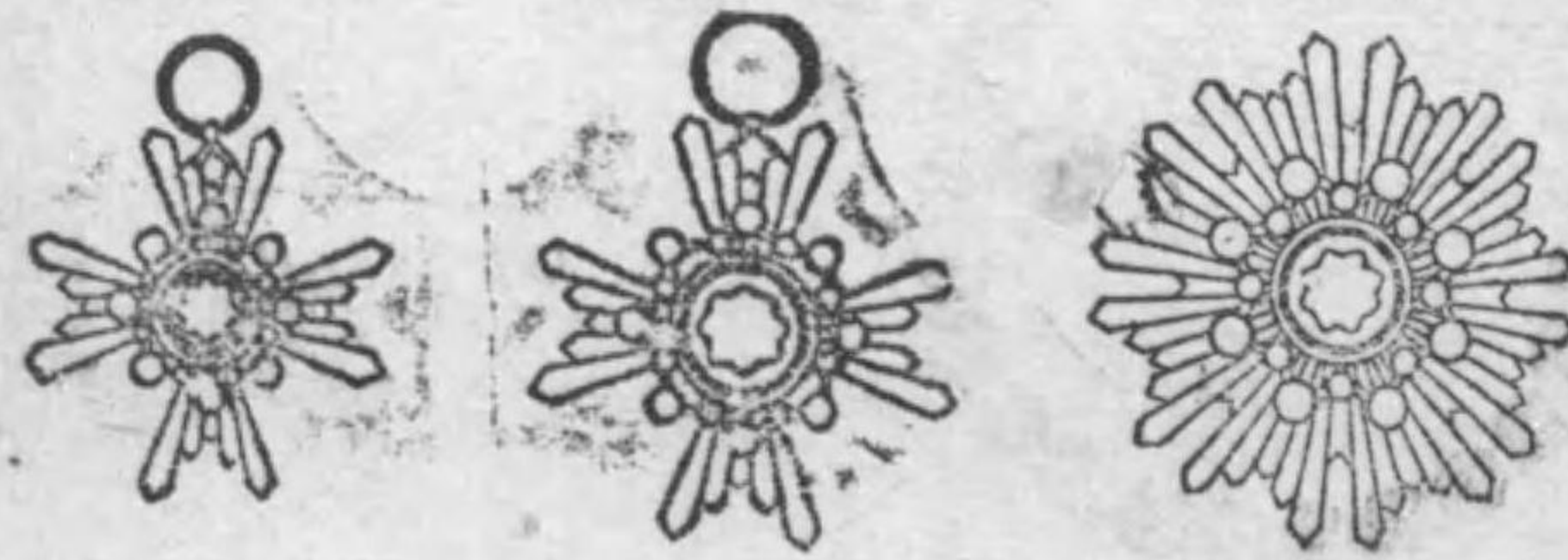


章寶瑞等三勳 章寶瑞等一勳 綬大花菊章日旭等一勳



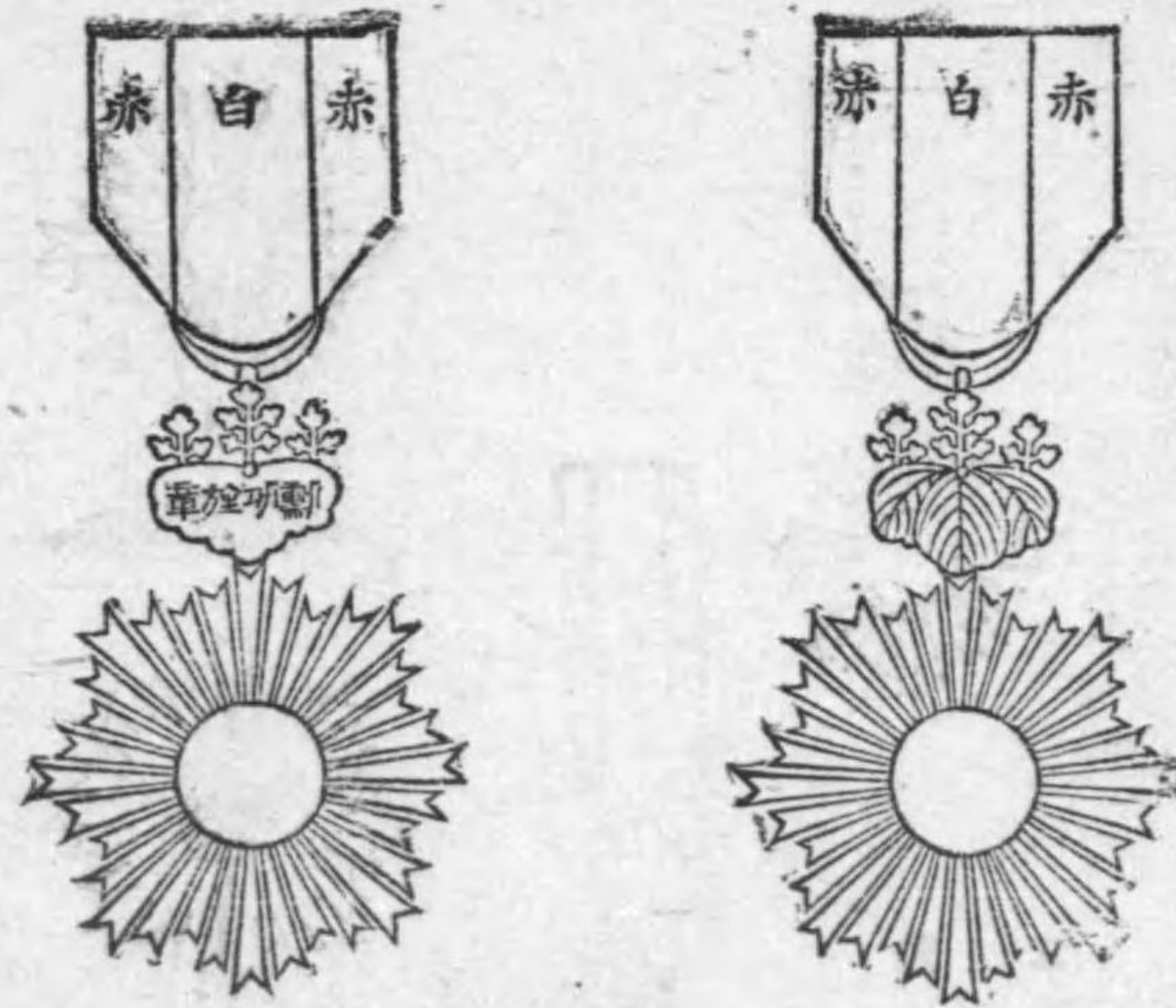
章寶瑞等五勳 章寶瑞等四勳 章副寶瑞等一勳 綬章寶瑞等二

104

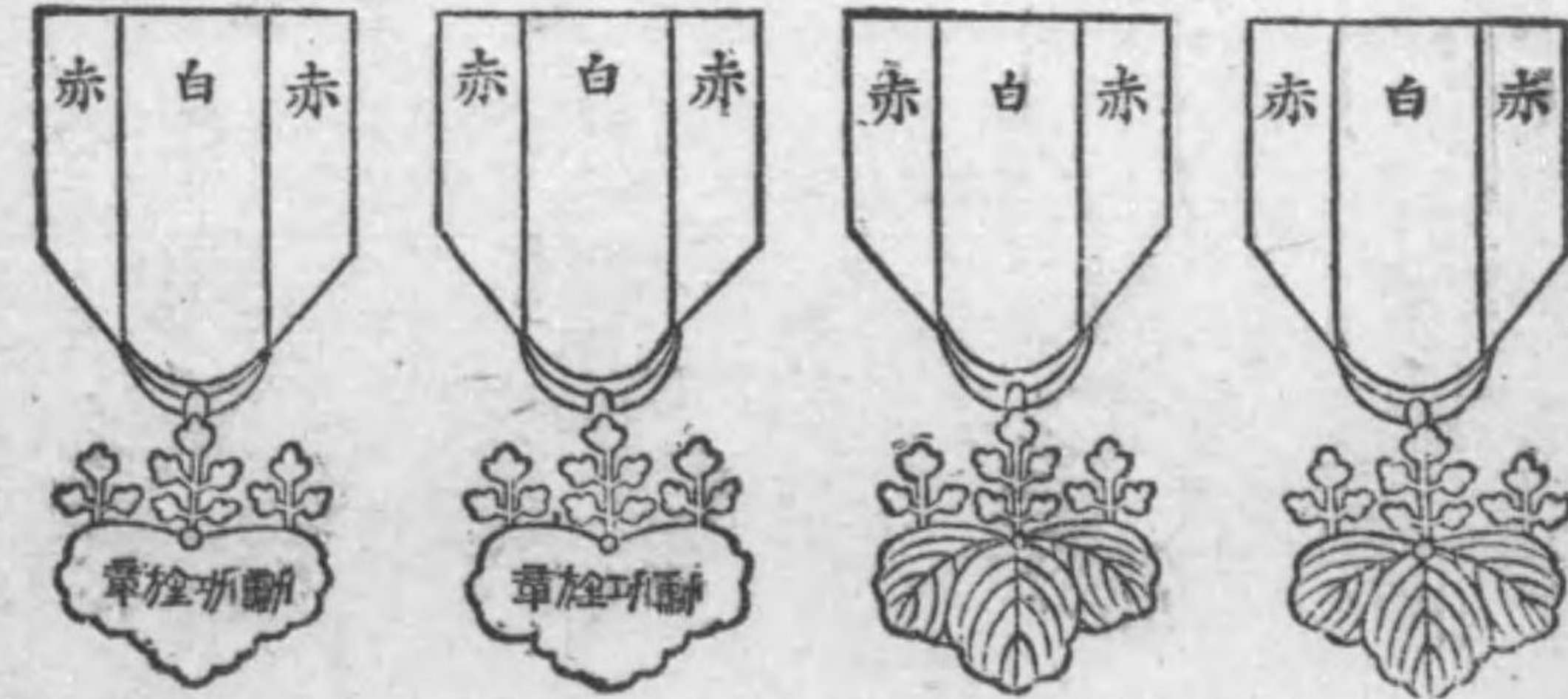


知 須 兵 砲

裏等六勳 等六勳



裏等八勳 裏等七勳 等八勳 等七勳



105

知 須 兵 砲

章副瑞金級一功
章瑞金級二功



章瑞金級一功



章瑞金級五功



章瑞金級四功



章副瑞金級二功
章瑞金級三功



104



功七級金瑞章



功六級金瑞章

知 須 兵 砲

章瑞等八勳



章寶瑞等七勳



章寶瑞等六勳

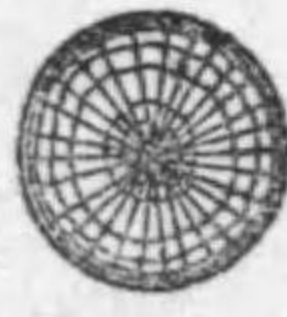


綬略章寶瑞

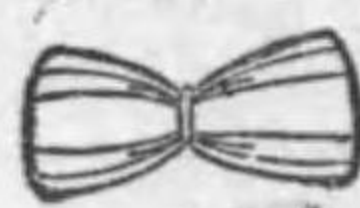
四三
等



二一
等



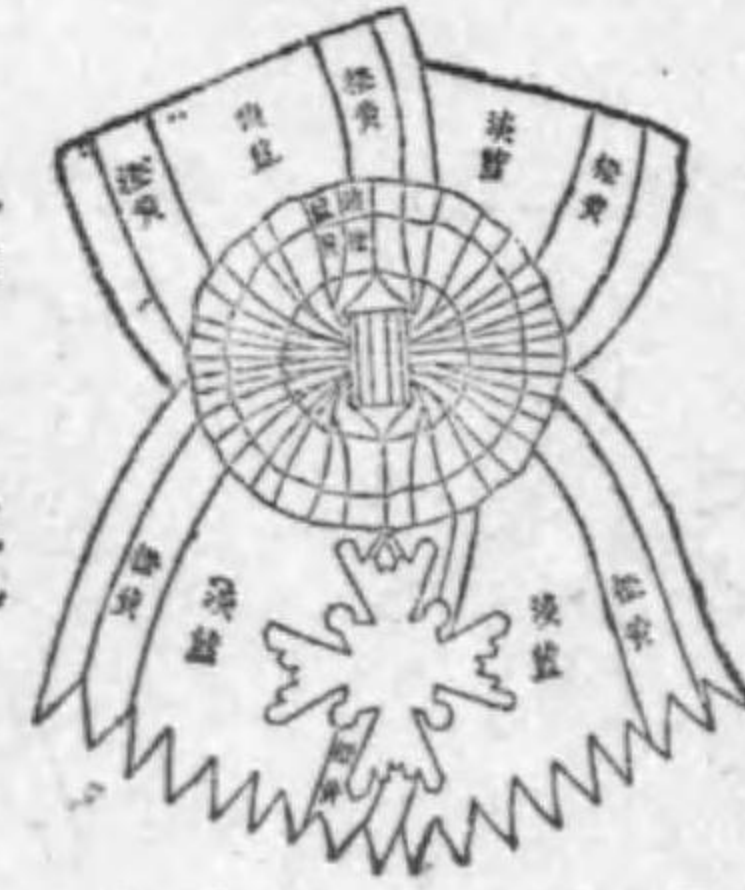
八七
等



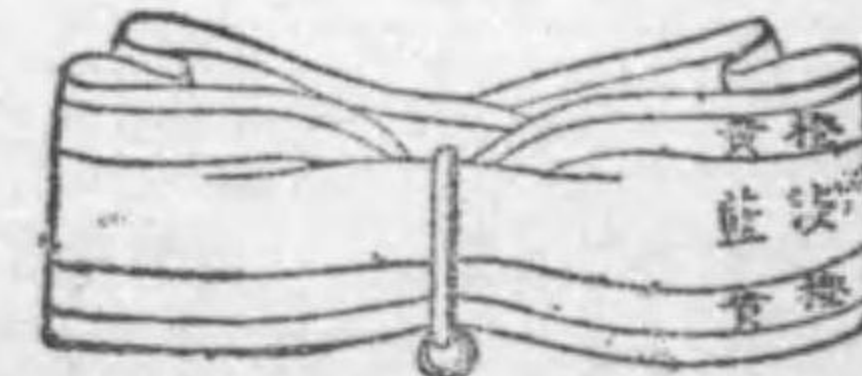
六五
等



勳一等瑞寶章大綬



綬章寶瑞二三



大勳位菊花章以飾

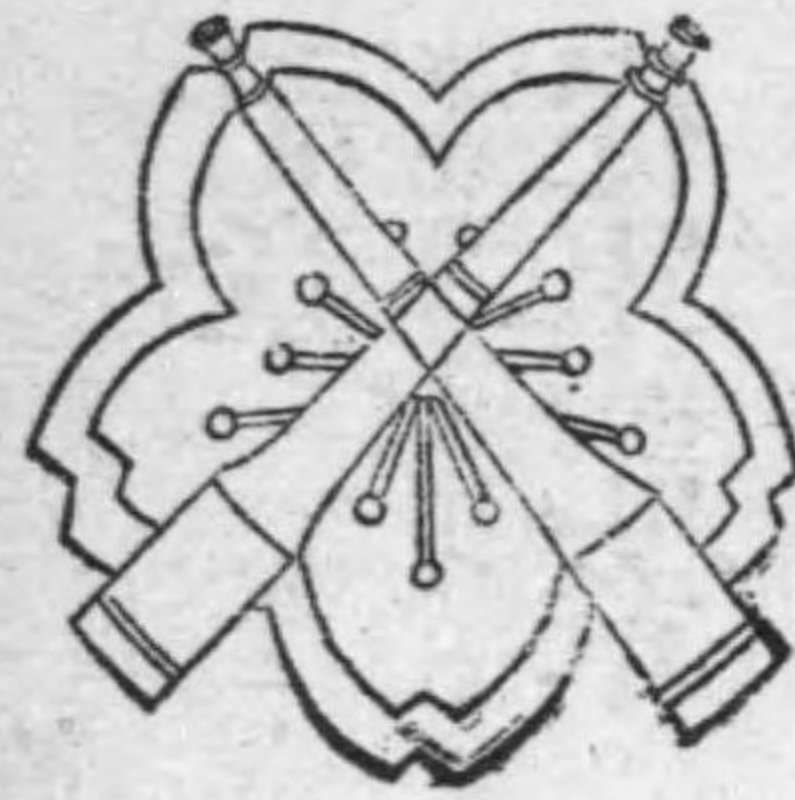


105

勳四等以下
瑞寶章綬



知 須 兵 砲



重砲兵觀測身管徽章



重砲兵照準身管徽章



騎兵馬術褒賞徽章

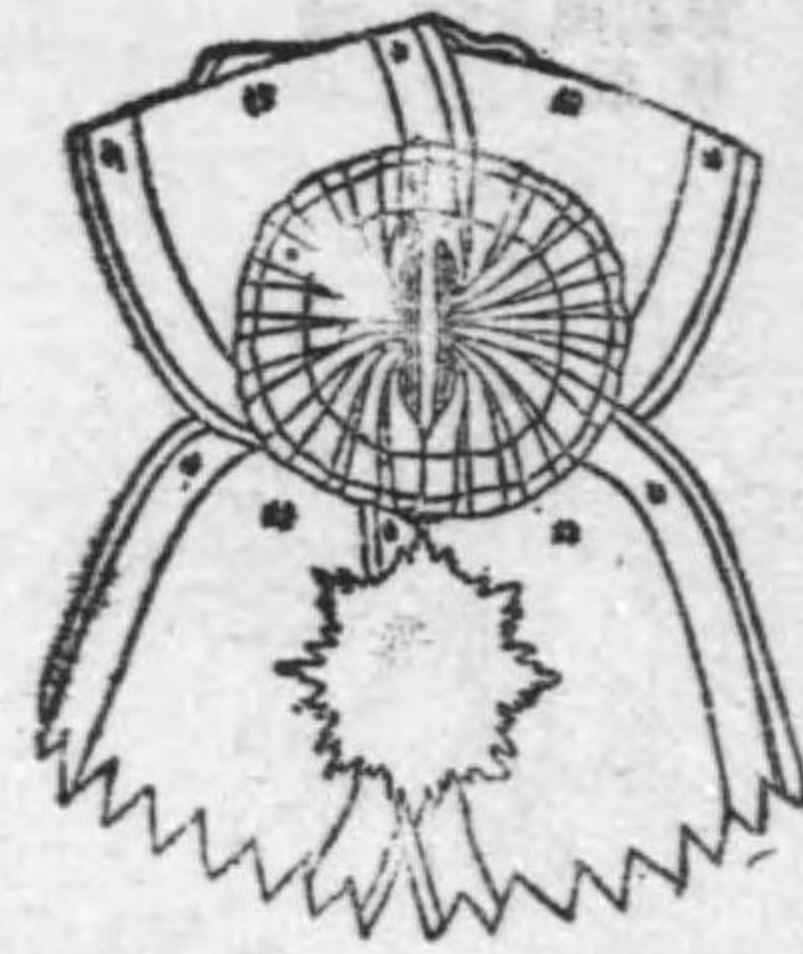


步兵及工兵年度射擊褒賞章



重砲兵通信褒賞徽章

知 須 兵 砲



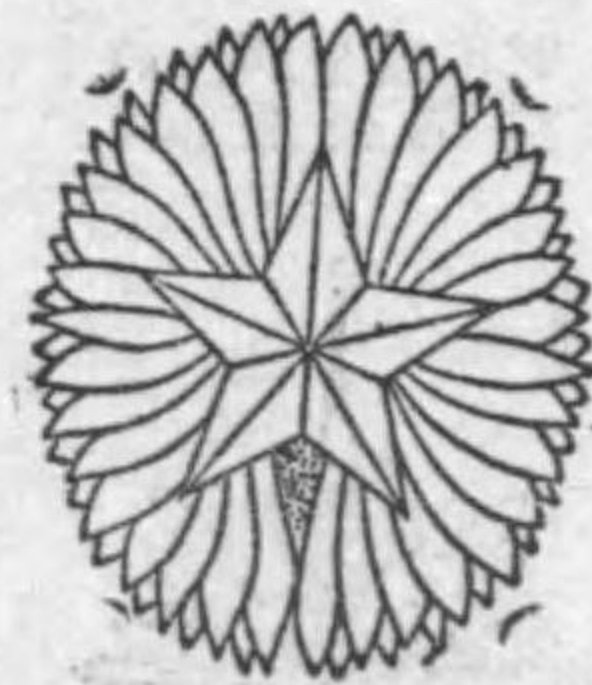
功一級金鷄章大綬



功二級金鷄章綬

功三級金鷄章綬

功四級以下金鷄章綬



陸軍大學 卒業徽章

野戰砲兵照準褒賞徽章

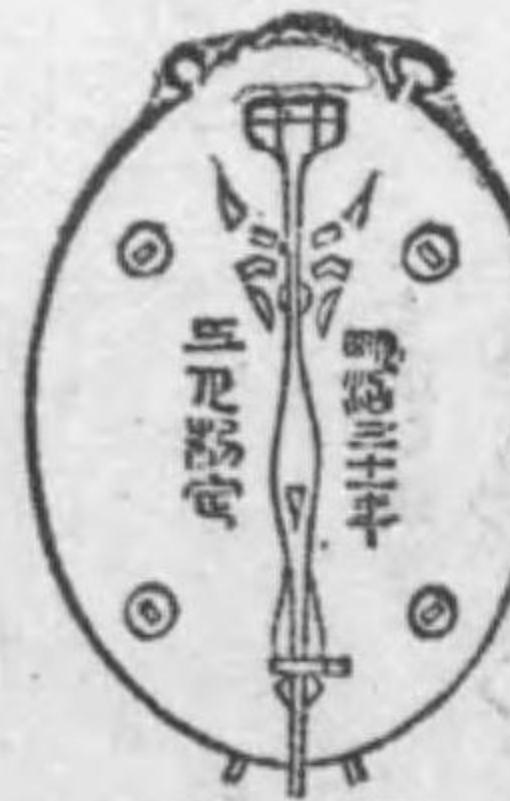


表 裏 面



表 裏 面

侍從武官徽章



裏 面



裏 面

元帥徽章

第二章 記章

記章ニハ左ノ六種アリ憲法發布紀念章、大婚二十五年祝典ノ章、從軍紀念章、赤十字社々員紀念章、東宮韓國行啓紀念章大禮紀念章、從軍紀念章ハ外征一從軍シタル者ニ賜フ左ノ四種アリ



第三章 徽章及褒賞

侍從武官元帥及大學卒業射擊優等勳功章等ヲ云フ

一 感狀

感狀トハ戰時ニ於テ敵前ニ拔群ノ勳功ヲ顯シ其行爲軍人ノ模範トナルモノ即チ前述ノ殊勳ニ當ル者ニ師團長軍司令官ヨリ下サルモノナリ感狀ヲ受ケタルモノハ後日殊勳ニ叙セラルモノトス

二 下士適任證書

下士適任證書ハ上等兵中下士タルノ技能ヲ有スルモノニ附與セラル現



役滿期又ハ歸休ヲ命ゼラルトキ附與セララル

三 善行證書

善行證書ハ現役下士卒滿期ニ際シ在營間其品行方正勤務勉勵學術技藝ニ熟達ナルトキ附與セララル、モノナリ

四 外泊休暇

品行方正勤務勉勵ナルモノハ休日二日以上續ク時ハ外泊休暇ヲ許可セララル

五 下士勤功章

品行方正學術ニ勉勵シ勤務熟達ノ下士ニ附與セララル金十圓一年ニ二回ニ分チ下賜セララル

六 精勤章

品行方正勤務勉勵學術科優秀ノ兵卒ニ聯隊長下附セララルモノナリ

戰傷徵章



公傷徵章



下士勤功章



飛行機卒業章



精勤章



第十課 陸軍禮式摘要

第一章 通則

一 陸軍禮式トハ陸軍軍人、軍隊ノ敬禮及陸軍ノ儀式ヲ云フ

- 二 敬禮ハ服從ノ心ヲ表ハス爲メニ行フモノナレバ誠心ヨリ嚴格ニ行ヒ苟ニモ不遜ノ振舞アルヘカラズ
- 三 敬禮ハ其人ニ對シテ行フモノニアラズ其官職ニ對シテ行フモノナリ
- 四 服裝或ハ距離遠隔等ノ爲メ又ハ夜間ニ在リテ上下ノ識別困難ノ場合若クハ同級者ニ在リテハ先後ヲ論ゼズ互ニ相競フテ敬禮ヲ行ヒ人ニ後ル、ヲ以テ耻辱トスヘシ
- 五 廉アル場合ニ於テ「君ガ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ直ニ其間姿勢ヲ正スヘシ
- 六 階級ノ異ナル二名以上ノ上官ニ對シテハ其内ノ最高級ノ人ニ對シテ

- 之ニ相當スル敬禮ヲ行フモノトス
 - 七 上官ノ答禮ハ時ニヨリ舉手注目又ハ刀禮ヲ單ニ注目ニカヘラル、コトアリ
 - 八 海軍軍人、軍隊又ハ和親諸國ノ陸海軍々人、軍隊ニ對シテモ同ジ様ニ敬禮ヲ行フベシ
 - 九 准士官、見習士官ニハ士官ニ對スルト同敬禮ヲ行フモノトス
 - 一〇 下士勤務上等兵ニハ下士ニ對スルト同ジ敬禮ヲ行フモノトス
- 第二章 室内ノ敬禮**
- 一 室内トハ如何
 - 居室、寢室、事務室、面會所等ヲ云フ廊下、炊事場等ノ如キハ室外トス
 - 二 上官室内ニ入ルトキハ如何ニスルヤ

武器ヲ手ニ持ツトキノ外先ヅ戶外ニ於テ帽ヲ脱シ又外套ヲ着シ居ルト
キハ之ヲ脱スベシ

三 參拜拜神ノ禮如何

賢所參拜其他拜神ノ禮ハ室内ノ敬禮ヲ行フモノトス

四 室内ノ敬禮法如何

敬スベキ人ニ對シテ正面ニ姿勢ヲ正シ體ノ上部ヲ約十五度ニ傾ケ其人
ノ眼ニ自分ノ眼ヲ注ギテ敬禮スベシ但シ室内ニ入ラントスルトキハ室
外ニテ脱帽ス

但シ執銃シアルトキハ室外ノ敬禮ニ同シ

五 上官ヨリ辭令書等ヲ受クルトキ又ハ呈スルトキ如何

前ノ通り敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇下ニ挾ミ右手ヲ以テ
拜授シ又ハ之ヲ呈シ舊ノ所ニ復リ再ビ敬禮ヲ行ヒ其場ヲ退クベシ

披見ヲ要スルトキハ左手ヲ副ヘテ披見ス

六 上官ヨリ命令、諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ陳述スルトキ如何

前ノ通り敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ之ヲ承リ或ハ陳述シ其場ヲ
退クトキハモトノトコロニ復リ再ビ敬禮ヲ行ヒ其場ヲ退クベシ但シ陳
述スルニハ簡單明瞭ナルベシ

七 上官下士卒ノ居室ニ來ルトキハ如何ニスルヤ

將校下士卒ノ室内ニ來ルトキハ最初之ガ認メタル者「敬禮」ト呼ビ其室
ニ現在スル者皆其場ニ立チ姿勢ヲ正スベシ
將校ノ許可アリタル後各々其ノ業務ニ服スベシ

第三章 室外ノ敬禮

一 室外ノ敬禮法如何

舉手注目トス其法姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ゲ指ヲ接シテ伸シ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ノ方面ニテ略其高サト同ジ様ニシ敬禮ヲ受ル頭ヲ敬禮ヲ受クル人ニ向ケ其人ノ眼ニ自分ノ眼ヲ注グベシ

二

上官 ヨリ書類其他ノ物ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルトキハ如何

上官ヲ距ルコト凡ソ五六歩ノ所ニ於テ停止シ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ右手ヲ以テ之ヲ受取リ或ハ呈スベシ銃ヲ携フルトキハ左手ニテ受取リ或ハ呈スヘシ若シ受クル所ノ物其場ニ於テ披見スルヲ要スルトキハ銃ハ立テ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ右手ヲ副ヘテ披見スベシ又返事若クハ受取證ヲ受ルトキハモトノ所ニ復リテ待ソハシ

三

上官 ヨリ命令諭告等ヲ承リ或ハ陳述スルトキハ如何

前ノ通り敬禮ヲ行ヒタル儘適宜ニ前進シ其儘ノ姿勢ヲ以テ是ヲ承リ

四

或ハ陳述ス但シ許可アルトキハ舉手ヲ下スモノトス

四

停止シアルトキ上官其傍ヲ通過スルトキハ如何

上官ノ方ヲ向キ敬禮ヲ行フヘシ執銃セルトキハ將校ニハ捧銃ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ下士卒ニ對シテハ姿勢ヲ正シ立銃ノ儘頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

五

停止セル上官ノ許ニ至ルトキハ如何

上官ヲ距ルコト凡ソ七八歩ノ所ニ於テ停止シ上官ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

六

途上ニテ行幸行啓ニ遇フトキハ如何

前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止、正面(乗車セルトキハ下車スヘシ)御車駕八歩前ニ近ヅクトキ敬禮ヲ行ヒ八歩過ギ去ルマデ此姿勢ヲ保ツヘシ

- 七 上官ノ引卒スル軍隊ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ如何
其隊長ニノミ敬禮ヲ行フヘシ然レドモ儀仗隊ノ現ニ儀仗服務中ノモノ
並ニ會葬ノ儀仗隊ニ對シテハ其隊長ニモ亦敬禮ヲ行フモノトス
- 八 途上ニテ軍人ノ葬式ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ如何
官職ノ如何ヲ問ハズ其柩ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ
- 九 乗車ニテ上官ニ行遇フトキハ如何
乗車ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘシ然レドモ其後方ヨリ來リテ先ニ行
ントスルトキハ何々ノ用アル故御先ニ行カシテ下サイト許可ヲ請ヒ然
ル後通過スヘシ又上官ニ行遇シトキ自轉車ニ乗ルトキハ舉手注目ヲ
單ニ注目ニ換ルコトヲ得
- 一〇 上官ト共ニ途上ヲ行進スルトキハ如何
其左側又ハ後方又ハ兩側ヲ行クヲ禮トス但シ案内等ヲ爲ス時ハ此限ニ

- アラズ
- 一 途上ニテ軍旗又ハ上官ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ如何
軍旗及所屬團隊長即チ自己ノ屬スル師團長、旅團長、聯隊長、大隊長
中隊長等ニ面シ停止シ敬禮ヲ行フヘシ但シ軍旗ニ上覆ヲ附シタルトキ
ハ敬禮ヲ行ハザルモ妨ケナシ
以上ノ外ノ上官ニ對シテハ停止スルコトナク頭ヲ上官ノ方ニ向ケ
敬禮ヲ行フヘシ
- 二 執銃シアル場合如何
兩陛下ニ對シ奉ツリテハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正面(乗車
シアルトキハ下車スベシ)御車駕八歩前ニ近ヅクトキ著劍捧銃ヲ爲
シ目迎目送ヲナシ八歩過ギ去リテ後此姿勢ヲ保ツベシ
軍隊及凡テノ上官ニ對シテハ行進間ナレバ歩調ヲ取り頭ヲ受禮者ニ

向ケ敬禮シ停止間ナレバ將校ニ捧銃ノ敬禮ヲ行ヒ下士卒ニハ立銃ノ姿勢ヲ正シテ敬禮ス

軍旗及直屬上官ニハ行進間ニテモ停止シ捧銃ノ敬禮ヲ行フ軍旗ニハ著銃ヲ爲ス

二三 物件ヲ携ヘ右手ヲ舉グル能ハザルトキハ如何

頭ヲ敬禮ヲ受ル人ノ方ニ向ケ之ニ注目シテ敬禮ノ意ヲ表スベシ但シ行進中ナルトキハ

一四 窓ヨリ外ヲ望ミアルトキ上官其前ヲ通過スルトキ及之ニ反スルトキハ如何
自分ノ居リ場所ニ從テ室内又ハ室外ノ敬禮ヲ行フベシ

一五 集團シ有ル時ノ敬禮法如何

下士卒集團シアルトキ又ハ多クノ者ト打連レ行進中上官ニ遇ヘバ最初認メタルモノ「敬禮」ト呼ブベシ

第四章 步哨ノ敬禮

一 步哨ノ敬禮法如何

其定位ニ立チ(若シ哨舎内ニ在ルトキハ必ズ之ヲ出ツベシ)敬禮ヲ受ル人凡ソ八歩前ニ來ルトキ敬禮ノ姿勢ヲ取り頭ヲ其方ニ向ケ之ニ注目シ八歩過ギ去ルマデ其姿勢ヲ保ツベシ但シ復哨ナレバ相互ニ注視シ勉テ同時ニ行フベシ

步哨ハ夜間ト雖モ受禮者タルコトヲ識別スレバ勉メテ敬禮ヲ行フベシ

二 步哨敬禮ノ區別如何

天皇陛下、皇族、軍旗及將校ニハ著銃シ、捧銃、目迎、目送ノ敬禮ヲ行フベシ但シ著銃シアラザルトキハ將校ニ對シテハ其ノ儘之ヲ行フ
下士卒上等兵ハ執銃ノ儘姿勢ヲ正シ注目シ體ノ上部ヲ少ク傾ケテ敬禮

ス
 帶動者ト雖モ婦人ニ對シテハ敬禮ヲ行ハザルモノトス
 勳章ニ對スル敬禮ト官等ニ對スル敬禮ト等シカラザルトキ例ヘバ將校
 ニシテ勳七等ヲ佩用スルトキハ其重キニ從ヒ將校ニ對スル敬禮ヲ行フ
 モノトス

三 歩哨軍隊ニ對スルトキハ如何

姿勢ヲ正シ其隊長ニノミ階級相等ノ敬禮ヲ行フベシ

四 歩哨兵卒ヨリ敬禮ヲ受ルトキハ如何

執銃ノ儘姿勢ヲ正シテ注目スベシ

五 歩哨ハ職務執行ノ爲已ムヲ得ザル場合ニ在リテハ敬禮ヲ行ハザルモ
 妨ケナシ

第十一課 刑罰ニ關スル事項

第一章 懲罰令之摘要

- 一 陸軍軍人ニシテ其本部ニ背キ軍事ノ定則ニ違ヒ其他軍紀ヲ害シ風紀
 ヲ紊リ陸軍刑法ノ罪ニ該ラサルモノハ懲罰スルモノナリ
- 二 兵卒ノ罰ヲ分テ降等、重營倉、輕營倉ノ三トス
- 三 重營倉ハ營倉ニ入禁シ寢具ヲ與ヘラレズ食物ハ唯飯及湯ト鹽ヲ給セ
 ラル、モノナリ三日以上三十日以下ニシテ七十二時間ノ中二十四時間
 ハ輕營倉ニ移ル
- 四 輕營倉ハ營倉ニ入り寢具ヲ與ヘラレ食物ハ普通ニ與ラル
- 五 重營倉輕營倉トモ勤務ヲ停メ演習ニハ出場ス
- 六 營倉ハ苦役ニ換ユルコトアリ

七 苦役ハ勤務演習ノ外舍外ニ出ルヲ禁セラレ諸雜役ヲ爲スモノナリ
八 重營倉ハ俸給ノ十分ノ八ヲ減シ輕營倉ハ俸給ノ十分ノ五ヲ減セラル

第二章 陸軍刑法及同施行法ノ摘要

一 陸軍刑法ハ陸軍々人ニシテ罪ヲ犯シタルモノヲ罰スルモノナリ
二 罪トハ左ノ各種アリ

- 1 叛亂ノ罪
- 2 擅權ノ罪
- 3 辱職ノ罪
- 4 抗命ノ罪
- 5 暴行脅迫ノ罪
- 6 侮辱ノ罪
- 7 逃亡ノ罪
- 8 軍用物損壞ノ罪
- 9 掠奪ノ罪
- 10 俘虜ニ關スル罪
- 11 違令ノ罪

(一) 叛亂ノ罪 トハ黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シ又ハ敵國ヲ利スル爲メ諸種ノ事ヲ爲スモノヲ云フ

(二) 擅權ノ罪 トハ自分ノ權力外ノ事ヲ亂ニ行ヒタル事ヲ云フ

(三) 辱職ノ罪 歩哨等故ナク守地ヲ離レタリ睡眠シタル等其職務ヲ盡ササル者ヲ云フ

(四) 抗命ノ罪 上官ノ命令ニ抗スルモノヲ云フ

(五) 暴行脅迫ノ罪 上官ニ暴行シ又ハ脅迫シ又ハ哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫シタル者ヲ云フ

(六) 侮辱ノ罪 上官又ハ哨兵ヲ面前ニテ侮辱シ又ハ文書等ヲ以テ上官ヲ侮辱シタルモノヲ云フ

(七) 逃亡ノ罪 故ナク職務ヲ離レ又ハ職ニ就カス或ハ敵ニ走リタル者ヲ云フ

(八) 軍用物損壞ノ罪 軍用ニ供スル物品ヲ燒棄又ハ破燬又ハ破壞シタルモノヲ云フ

(九) 掠奪ノ罪 戰場ニテ住民ノ財物又ハ戰死者ノ財物ヲ擄奪シタルモノ

ノヲ云フ

(十) 俘虜ニ關スル罪 俘虜護送中故意ニ逃亡セシメタル者又ハ俘虜ノ逃亡ヲ補助シタル者ヲ云フ

(十一) 違令ノ罪 哨兵ノ制止ニ背キタル者

召集ノ期ニ後レタルモノ。兵役ヲ免ル目的ヲ以テ疾病ヲ作為シタル

モノ

政治ニ關係シ或ハ銃砲ノ空砲ヲ用ユル際瓦石ヲ裝填シ射撃シタルモノ等

三 陸軍刑法ニテ罰スル罪目左ノ如シ

死刑。無期懲役。無期禁錮。有期懲役。有期禁錮

四 窃盜詐欺賭博等ハ軍人ニテモ普通刑法ニ依リ所罰セラル

五 軍人ノ裁判ハ軍法會議ニ依リ裁判セラル

六 軍人刑法ニ係ル時ハ衛戍監獄ニ依リ罰ヲ施行セラル

七 漸々所罰セラルル者尙改心セサルトキハ懲治隊(兵庫縣姫路ニアリ)ニ編入セラレ懲治卒トナリ不名譽ノ極端ナリ

第十二課 被服ノ名稱手入及裝著法

第一章 被服ノ名稱

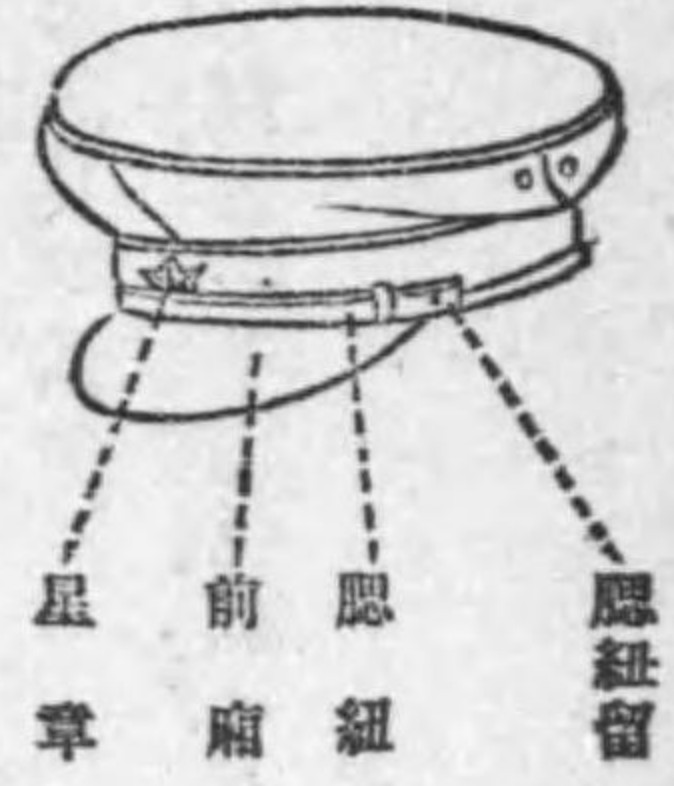
被服トハ次ノ品ヲ云フ

軍帽 軍衣袴 夏衣袴 纏絆袴下 脚絆 靴下 襟布 軍靴 外套 寢具 被服手入具ヲ云フ

一 軍帽 制式ハ茶褐色絨ニシテ緋絨ノ鉢巻ヲナシ當分代用トシ紺絨製ヲ用ユ

二 軍衣袴

制式ハ茶褐色ニシテ襟ニ兵科ノ定色ヲ附シ左右ニ物入二個ヲ附シ袖ニ袖章ヲ有ス黒色地質ノ服ヲ紺色絨制式衣袴ト稱シテ勤務及外出用ニ用ユ肩章襟章等ナク平常ノ練兵ニ用ユルヲ作業衣袴ト云フ



夏衣袴ニハ袖章側章ナシ

三 襦袢袴下ニハ夏冬二様アリ夏ハ白木綿ニテ冬ハ縮木綿ナリ

四 脚絆制式ハ巻脚絆ナレトモ麻製ニテ釦アルヲ麻脚絆ト稱ス

五 軍靴 短靴及編上靴ノ二種アリ

六 外套

雨天ノ時又ハ防寒用ニ用ユ

七 襟布

ハ三角ノ布ニシテ約三珊知米ニ疊ミテ細長クシテ用ユ其疊ミ方下ノ如シ

八 被服手入具

トハ麻袋内容品ヲ云フ

絨刷、洗濯刷、靴刷、燕口袋ニハ(小刀)

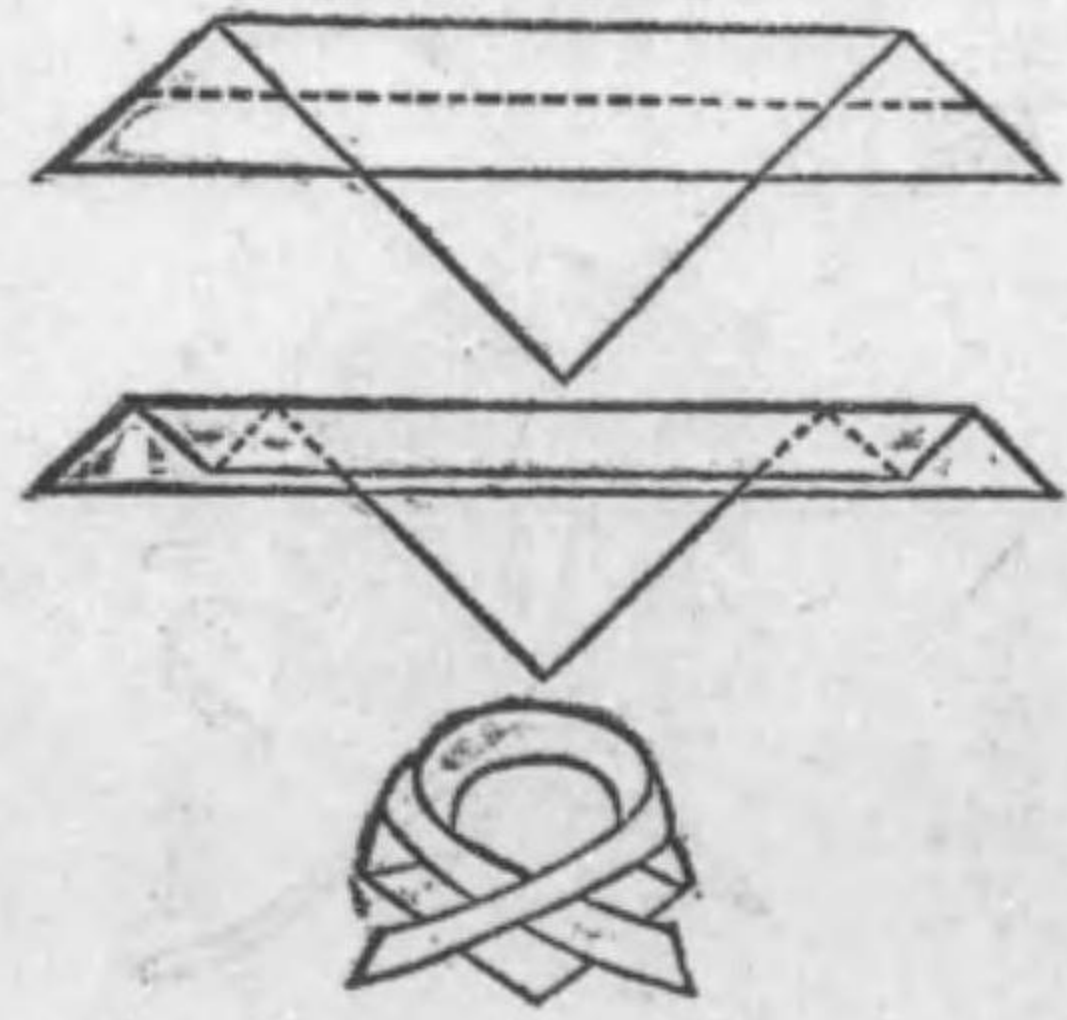
鍬、糸巻アリ) 油壺

九 寝具トハ臥床ノ爲メ用ユルモノニシテ左ノ諸品ヲ云フ

厚毛布 ハ茶褐又ハ赤色ニシテ最新品二枚ヲ包布ニ内容ス

敷布 ハ毛布ノ上敷下敷二枚アリテ敷布ト敷布ノ間ニ入り臥床ス

包布 ハ毛布ヲ内容スルニ用ユ



蒲團 ハ藁ヲ内容シテ臥床ニ用ユ
枕 ハ藁又ハそばからヲ入レテ用ユ而シテ枕覆ヲ附ス

第二章 装具之名稱

装具トハ飯盒水筒雜囊背囊等ニシテ武装ヲ爲スニ必要ナルモノナリ

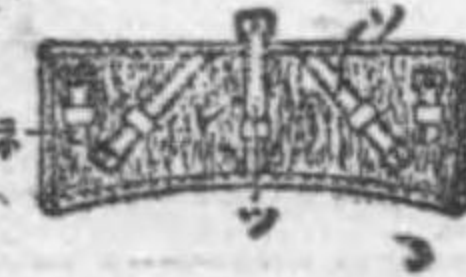
一 背囊ノ名稱



イ蓋毛皮



ロ側毛皮



ハ耳革



ニ上部紐革

ホ飯盒紐革

ヘ同受革

ト脇革

チ前紐革

リ吊革

又負革

ル背當毛革

ヲ工具紐革

ワ側紐革

カ握抱革

ヨ山形革

タ取付革

レ底毛皮

ソ腋紐尾錠革

ツ飯盒紐尾錠革

ネ蓋締尾錠革

ナ飯盒紐錠革

二 飯盒ノ名稱

飯盒ハ「アルミニウム」ニテ作り重量約百十七匁アリ食器及炊具ヲ

兼ヌ

蓋(湯汁入)。掛子(菜入)。身。ヨリ成リ、掛子ハ精米二合

ヲ量リ、又身ノ側面ニ二線ヲ刻ス其下方ノ線ハ精米二合(一食分)ヲ

炊クトキノ水量ヲ示シ其上方ハ精米四合(二食分)ヲ炊クトキノ水量

ヲ示ス

三 水筒

「アルミニウム」ニテ茶褐色ニ塗りタルモノニテ行軍等ニ湯ヲ容レ
ル爲メニ用ユ

四 雑囊

厚織麻布ニテ作り行軍等ニ諸携帶品ヲ容ル、ニ用ユ

五 背囊入組品左ノ如シ

襦袢一著、靴下二組、被服手入具一組、洗管一本、携帶豫備品携帶
口糧二日分、日用品若干、實包三十發

第三章 被服装具ノ手入法

一 絨類ハ上方ヨリ下方ニ向ヒ刷毛ニテ塵ヲ拂フヘシ

二 夏衣袴襦袢袴下襟布敷布包布枕覆等ハ時々之ヲ洗濯スヘシ

三 毛布ハ少クモ一週ニ一度晴天ノ日ヲ選ミ日光ニ乾燥シ塵ヲ拂フヘシ

四 以上ノ諸物品ハ大破ニ至ラサル内自己ニテ綴縫ル所ハ自分ニテ裁縫
シ出來サルモノハ修理ニ申立ヘシ

五 外套雨天ニ著用シタル時又帽ノ裏ハ日光ニ乾燥シテ整頓スヘシ

六 飯盒水筒ハ使用後必ず洗ヒテ後水ノ殘ラザルヲ注意セヨ又水筒ノ
紐ハ時々油ヲ塗り革具ノ手入ヲ爲ス

七 背囊ハ毛ノ部分及内側ハ刷毛ニテ常ニ塵ヲ拂ヒ革ノ部分ハ皸裂ノセ
サル用馬油ヲ塗布スヘシ

八 其法先ツ革具ヲ分解シ板ニ置キ馬油ヲ濕シタル布ヲ以テ革具ヲ拭ヒ刷
毛ニテ能ク磨擦ス而シテ約一日若クハ半日其ママトナシ後結合ス

金具類ハ錆ノ生セサル如ク注意ス

九 保革油ヲ以テスル革具手入法

第一 使用法

- ニ之ヲ記入シ置クヘシ
- 一 保革油ハ標準量ヲ取り清潔ナル布片ニテ之ヲ皮革面ニ平等ニ摺リ込ミ若干時間ヲ經タル後乾布ヲ以テ其表面ヲ摩擦スヘシ
- 二 軍靴ハ靴刷ヲ以テ塵埃ヲ清刷シタル後清潔ナル布片ヲ水ニ浸シ靴ノ表面ヲ潤シ然ル後前號ニ依リ塗布スヘシ但シ硬化ノ状態ナキモノハ表面ヲ潤ササルモ妨ケナシ
- 泥土ノ附着セル軍靴ハ靴刷ヲ用キ其表面ヲ水ニテ洗ヒ之ヲ陰乾ト爲シ(雨雪等ニテ潤ヒタル軍靴ハ其儘陰乾ト爲ス)稍々乾燥セシトキ前號ニ依リ塗布スヘシ
- 三 皮革及革具ニハ右ニ準シ塗布スヘシ
- 雨雪等ニテ潤ヒ泥土ニ汚レタルトキハ前號ノ回数ニ拘ハラズ其都度

必ス塗布スヘシ

軍靴中毛生面ヲ外方ニシテ製作シタルモノハ塗布量ヲ少シク増加スルヲ要ス

四 日常使用品ハ常ニ乾布ヲ以テ清拭スルヲ要ス是革質ノ硬化ヲ豫防シ保革油ノ効力ヲ充分ニ發揮セシメンガ爲ナリ

一〇 手入油ヲ以テスル革具手入法

○保革手入 手入油ヲ指頭ニテ少量ツツ七ヒ取り甲革ノ纖維ニ十分摺リ込ミ然ル後刷手ニテ能ク摩擦ス可シ然ルトキハ光澤ヲ生シ皮革ヲ柔軟ナラシム此手入ヲ爲スニハ豫テ乾キタル刷毛ニテ靴ノ塵埃ヲ拂ヒ置クヘシ

○普通手入 乾キタル刷毛ニテ塵埃ヲ拂フヲ以テ足レリトス但シ少量ノ水石鹼ヲ用ニルハ妨ゲナシ

○保革手入　ハ平常ニ在テハ一ヶ月一回若クハ二回普通手入ハ日々怠ラス爲スヘキモノトス

○雨天等ニ際シ甚シク泥濘ニ汚レタルトキ或ハ其他汚染甚シキ場合ニ在テハ水石鹼ニテ洗ヒ落シ日光ニ曝ラシ若クハ室内ニ置キ其水分ノ去リタル時分ニ保革手入ヲ爲スヘシ

○注意　手入油ハ軟性ナレトモ寒氣等ノ爲メ凝結スルコトアリ斯ル場合ニハ指頭ノ温度ヲ以テ漸次溶解セシムルヲ可トス甚シク凝結シタルトキハ火熱ヲ以テ溶解セシムルモ妨ケナシト雖モ直接火ニ掛ク可カラス之レ其性分ヲ失フベケレハナリ

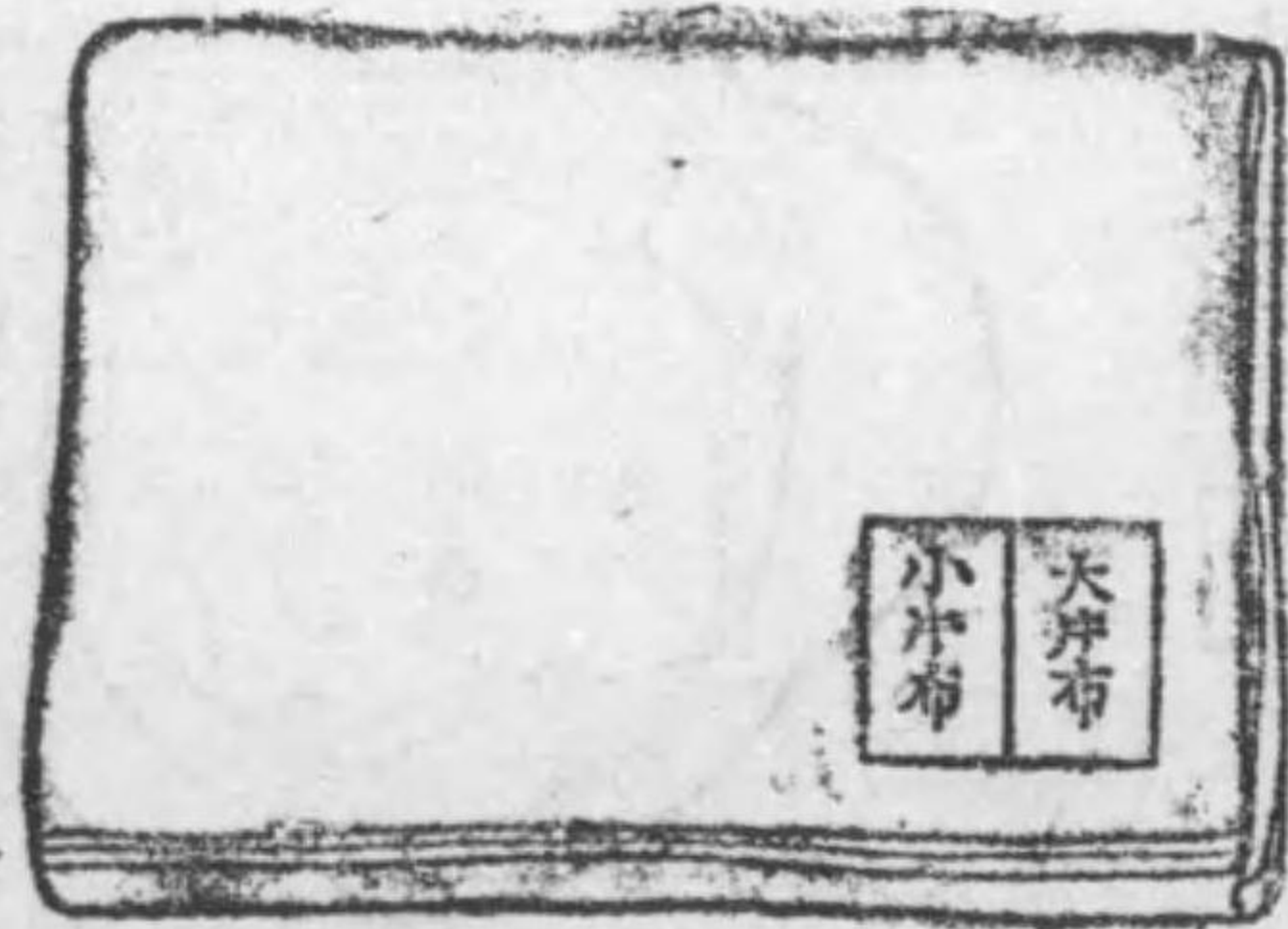
保革手入ノ際可成少量ノ手入油ヲ用ユヘキト皮革ノ纖維ニ十分摺リ込ムコトトハ特ニ注意スヘシ嚴寒ノ候ニ在テハ少シク靴革ヲ温メ然ル後手入油ヲ與フヘシ

手入油ハ皮革ヲ柔軟ナラシムルノミナラズ兼テ防濕ノ効アリ故ニ雨雪天ノ際穿用前保革手入ヲ爲ストキハ水ノ浸入ヲ防グモノトス
手入油ハ獨リ靴ノミナラス總テ皮革ニ用ヒテ保革ノ効アリ

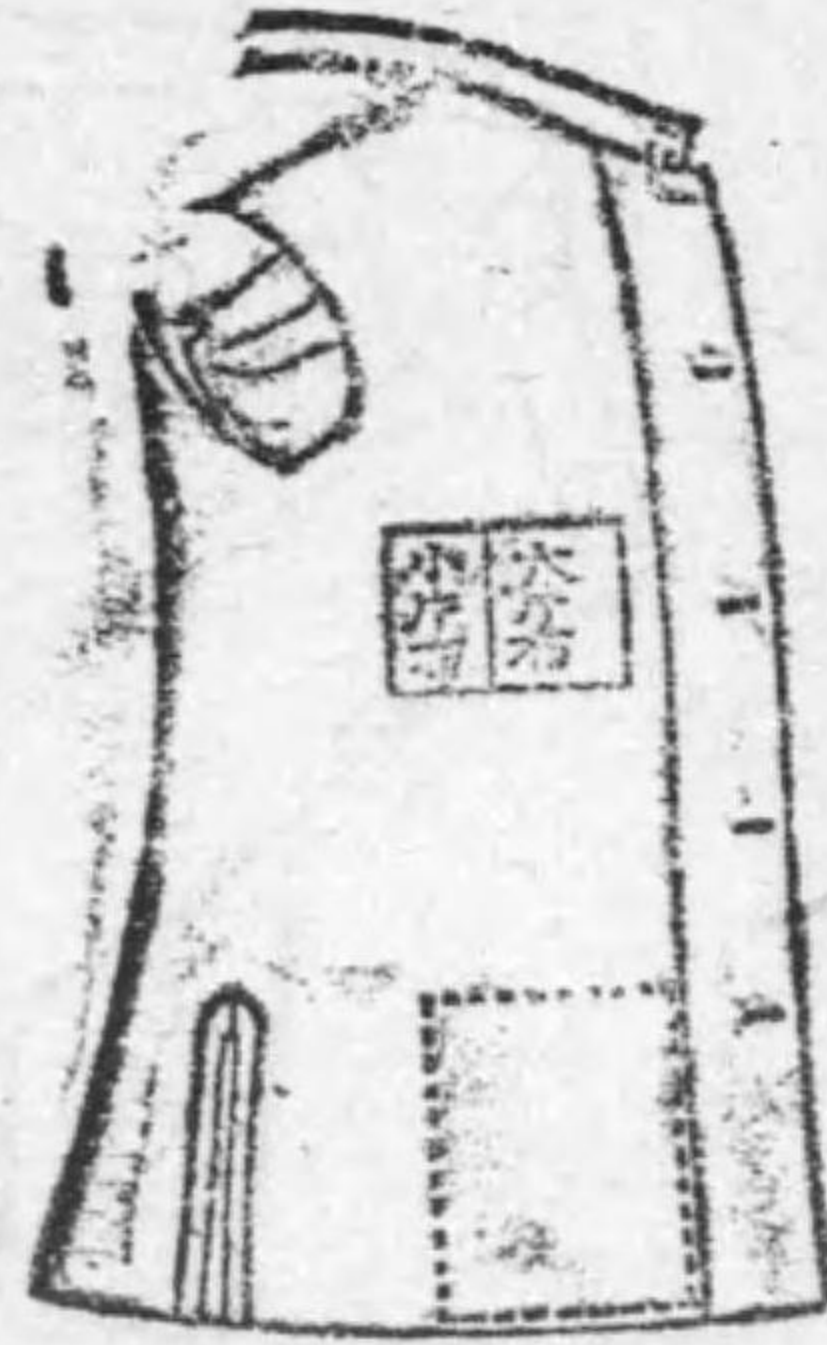
絨(夏)袴ノ片布ノ位置及標記



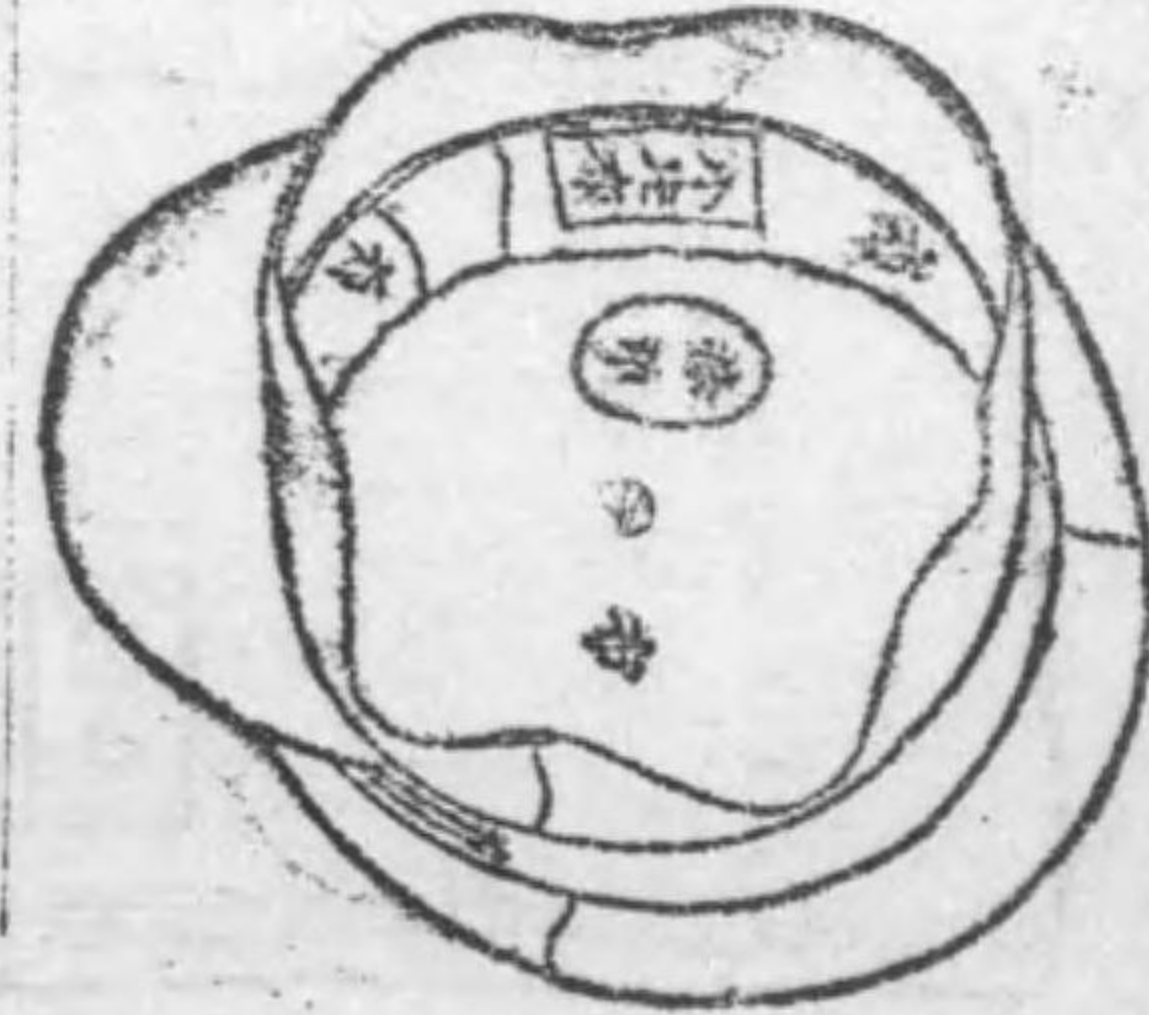
記標及置位ノ布片布毛厚



絨(夏)衣ノ片ノ位置及標記布



記標及置位ノ布片ノ帽

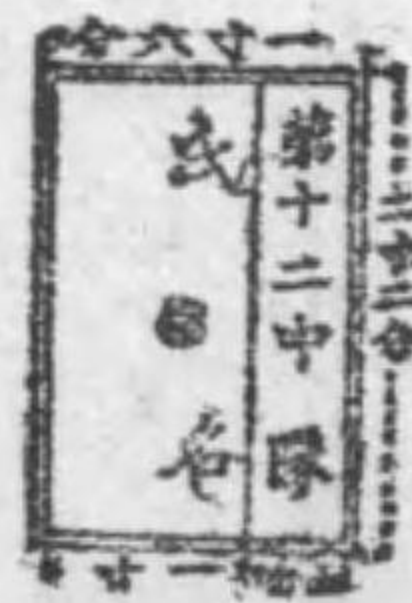


一四二



着履片布ノ位置及標記

布片名姓



第四章 服装法及其著装上ノ注意

一 陸軍々人ノ服装ハ左ノ四種トス

正装 禮装 通常禮装
將校及准士官ノミ着用ス

軍略装 將校以下一般ニ着用ス

二 軍装ニハ隊伍ニ列スル時ト單獨ノ時ト著装ニ差アリ

三 兵卒ノ軍装ヲ爲ス場合
一、三大節 二、新年 三、賢所參拜 四、陸軍始 五、靖國神社
大祭日 六、觀兵式
以上ノ外命令アル時用ユ

一四三

又自家及親族ノ賀儀及葬祭ノ時モ許可ヲ受ケ着用スルヲコト得

四 隊伍ニ列スル時ノ軍裝

軍帽、軍衣袴ヲ著シ勳章記章徽章ヲ附ケ脚絆ヲ著シ水筒雜囊ヲ携帶シ背囊(外套器具飯盒ヲ附著シ)(携帶天幕毛布ハ別命ニ依ル)彈藥盒ヲ佩ヒ銃ヲ携フ

五 單獨ノ場合ニ於ケル軍裝

背囊(附屬品共)ヲ除キ雜囊水筒ヲ帶ズ彈藥盒ヲ除キ帶劍トシ銃ハ携帶セス其外隊伍ニ列セシ時ノ軍裝ニ同シ

六 略裝ハ平常着用スル服裝トス

七 著裝ノ注意

一、毎日演習ニ整列スル時ハ服裝ヲ戰友互ニ見合テ出場スヘシ 二、背囊ハ高カラス低カラス彈藥盒ト背囊ノ間ニ間隔ヲ置クヘシ 三、背

八 著裝順序

一、襦袢袴下 二、靴下 三、衣袴(袴ヨリ衣ニ及フ) 四、襟布(衣ノ「ホック」及釦ヲ掛ケサル前ニ頸圍ヲ纏フ) 五、帽子 六、靴 七、脚絆

九 襦袢袴下

一、下著類ハ諸種ノ運動ヲ牽制スルコトナク且、着用ノ心地好キ如ク

スヘシ 二、襦袢ハ釦ノ線ヲ體ノ中央ニ置キ裾部ヲ餘裕ヲ平等ニ配布シテ臂圍ヲ能ク包容スヘシ 三、袴下ハ右(左)手ヲ以テ前明ノ下端ヲ持チ左(右)手ヲ以テ外側縫目ノ上端ヲ持チテ著シ臂縫目ヲ脊推骨ノ下方ニ副ハシメ又前明ノ打合せモ中庸ヲ保タシメテ著裝シ其ノ紐ハ大ナル結節ヲ作ラサル如クシ適度ニ緊ムヘシ

靴下

一、靴下ハ靴傷ノ豫防竝ニ寒時足ノ保温上必要ナリ且ツ又靴内部ノ清潔ヲ保持スルニ有利ナルヲ以テ常ニ着用スルヲ可トス着用ニ際シテ皺襞ナキ如クスヘシ 二、洗濯ヲナセシモノハ乾燥後揉軟ナラシメテ用フヘシ

上衣及袴

一、衣袴ヲ着用スルニ當リテハ常ニ惡癖ヲ生セシメサル如ク注意スヘシ

シ就中新調ノ衣服ハ着用中體温ノ作用ニ因リ自然ノ容姿ヲ形成スルモノナレハ特ニ注意ヲ加フヘシ 二、袴ハ自然下方ニ垂下シ爲一襦口ヲ毀損スルモノナレハ其ノ袴下ハ自己ノ尺寸ニ適合セシメ殊ニ泥濘ノ道路ヲ通行スル際ノ如キハ風紀ヲ害セサル範圍ニ於テ其ノ汚損ヲ豫防スヘシ 三、總テ物入口ハ物品ヲ出入スルカ故ニ其ノ形狀ヲ損シ易キモノナレハ常ニ是等ニ對スル注意ヲ怠ルヘカラス特ニ袴ノ物入口ニ手ヲ入レタル儘無遠慮ニ垂下シテ口切ヲ弛緩ナラシメ遂ニ開口ノ状態ニ終ラシムルカ如キ惡習ヲ排除スヘシ 四、袴ノ前明釦ヲ脱出セサル如クシ前明ノ打合ヲ體ノ中央ニシ適度ニ帶ヲ締メ皺襞、臂部ニ纏ウヘシ 五、上衣ヲ著スルニハ兩臂ヲ後方ニシ之ヲ袖ニ通シ上方ニ擧ケツ、着裝ス 六、襟ノ「ホツク」ハ下方ヨリ釦ハ上方ヨリ順次ニ掛クヘシ 七、上衣ノ釦ノ線ヲ正シキ體ノ中央ニアラシムヘシ 八、帶釦ノ際ニ生ス

ル胸圍ノ皺ハ左右腋下ノ稍後方ニ於テ襞皺トナシ其ノ折目ヲ後方ニ向ケテ姿勢ヲ正スヘシ

二三 帽子

一、著帽ハ其ノ格好ニヨリテ自己ノ品正ヲ表章スルモノナレバ前後左右ニ偏セサル如ク正シク着装スヘシ

二、著脱ノ際ニハ前庇ヲ持チ常ニ原形ヲ變セサル如ク注意スヘシ

三、頤紐ヲ以テ徽章ヲ蔽ハサル如クシ徽章ヲ正シク鼻ノ線ニ一致セシムヘシ

四、頤紐ヲ用フル時ハ適度(指約二本ヲ挿入シ得ルヲ度トス)エ之ヲ緊縮スヘシ

二四 靴

一、凡テ靴ヲ穿ツニハ摘革或ハ指頭ニ由リ正シク足ヲ挿入セサルハ

カラス然ルニ踵ノ部分ヲ内方ニ踏込ムカ如キハ上方則ヲ守ラサルニ起因シ畢竟靴ヲ粗略ニ取扱フノ結果ニ外ナラサルナリ

二、元來靴ハ新品ノ時代ニ於テ穿用ニ注意シ其ノ形状ヲ補全セサレハ初メニ生セシ所ノ曲癖ハ殆ント回復セシムルニ困難ニシテ又是カ原因トナリ靴傷ヲ生シ不慮ノ害ヲ醸スハ往々其ノ實例ニ乏シカラサルニヨリ其ノ穿用ニ注意スルヲ要ス

三、靴紐ノ通方ハ其ノ一端ヲ以テ鳩目ノ全部ニ貫通(鳩目最下端ノ内部ヨリ始ム)シ他端ヲ其ノ内部ヨリ上端鳩目ノ一二通シテ引締ム恣ノ如クセハ其ノ締リ工合確實ニシテ之ヲ開放スルニモ便ナリトス

二五 脚絆

一、脚絆ヲ着スル時ハ袴ノ裾部ヲ裸骨上ニ引上ゲ膝ノ屈伸ニ自由ヲ與ヘ且、其ノ周圍ノ餘裕ハ外側縫目ニ當ル所ニ集收シテ襞袴トナシ其

- ノ折目ハ之ヲ後方ニ向クヘシ
- 二、脚絆上下端末ハ双方共同高ナラシムルコトニ注意スヘシ
- 三、卷脚絆ハ常ニ同一ノ方法ヲ以テ着用スル時ハ自然ニ脚ニ適合スルニ至ルモノナレハ兩脚共常ニ同一方向ニ纒用シ其ノ端末ハ外觀上袴ノ外側縫目ノ附近ニ在ラシムルヲ可トス
- 四、麻脚絆ヲ着用スル時ハ其ノ下端ハ靴ノ月型革ノ三分ノ二以上ヲ掩フ如クスヘシ

第十三課 馬事ニ關スル學科

第一章 馬體ノ名稱馬匹ノ毛色

一 毛色ハ馬ノ血統、產地等ニ因リ種々相異ナリト雖モ敢テ馬ノ能力ニ

欠

欠

關係ナシ鹿毛、栗毛、青毛、河原毛、糟毛、蘆毛、月毛、駁毛アリ

二 鹿毛 被毛濃褐色 或ハ淡褐色ヲ呈シ 鬣及四肢ノ下半部ハ黑色又ハ帶黑色ニシテ其ノ被毛帶白色ナルヲ白鹿毛帶紅色ナルヲ紅鹿毛帶金色ナルヲ金鹿毛帶黑色ナルヲ黒鹿毛ト稱シ普通黒鹿毛ノ外ハ總テ鹿毛ト稱ス

三 栗毛 全體濃赤色又ハ淡赤色ニシテ其ノ帶白色ナルヲ白栗毛帶紅色ナルヲ紅栗毛帶黑色ナルヲ柄栗毛鬣、尾ノ白色ナルヲ尾花栗毛ト稱シ普通柄栗毛、屋花栗毛ノ外ハ總テ栗毛ト稱ス

四 青毛 全體純黒ナルモノアリ夏季ハ黑色ニシテ冬季ハ帶赤色又ハ帶褐色ナルモノアリ其ノ青色ヲ帶フルモノヲ水青毛ト稱シ普通總テ青毛ト稱ス

五 河原毛 被毛灰白色或ハ帶黃褐色ヲ呈シ鬣、尾及四肢ノ下半部

ハ黒色又ハ帯黒色ナリ

六 糟毛 全身ノ地毛ニ白毛ヲ散生スルモノニシテ鬣、尾及四肢ノ下半部等ハ概ネ黒色或ハ帯黒色ナリ地毛鹿毛ナルトキハ糟鹿毛栗毛ナルトキハ糟栗毛ト稱ス

七 蘆毛 白色ト黒色或ハ濃色毛赤、黄、トノ全身混生ニシテ皮膚及ヒ蹄ハ色素ヲ有シ老齡ニ至ルニ從ヒ漸次白毛ニ變ス

八 月毛 全體ノ被毛赤黄色ヲ帶ヘル白色ニシテ尙純白色ノ馬モ亦此ノ中ニ含有セシム

九 駁毛 全體各部ニ大小不同ノ白毛斑ヲ散在セルモノヲ云フ著シク馬品ヲ損シ且目ニ映シ易シ

一〇 別徴ハ馬ノ識別上必要ナルモノニシテ其ノ記載例左ノ如シ

○額刺毛 額ニ生シタル少數ノ白毛ヲ云フ

○星 額ニ在ル白斑ニシテ其ノ著シク小ナルモノヲ小星ト云フ

○流星 星ノ長ク下方ニ延ヒタルモノヲ云フ

○鼻白 鼻端ニ存スル白斑ヲ云フ

○白 肢ノ下端ニ在ル白斑ニシテ其ノ稱呼左ノ如シ但シ白ノ完カラサルモノヲ半白ト云フ

左前二白、前二白、左二白、左前右後二白、左後一白、後二白、前右後三白、後左前二白、四白

○異毛 先天的又ハ創傷ニ依リ局部ニ生シタル異色毛ヲ云フ

○岩陷 筋肉ノ一部窪ミテ皮上ニ陷凹ヲ呈スルモノヲ云フ

○烙印 頸、軀、肢等ノ一部ニ烙印アルモノハ部位ト烙印ノ原形ヲ併稱スルモノトス

第二章 飼養品

- 一 馬量ノ良否ハ馬ニ影響スルコト最大ナルヲ以テ之カ選擇ニハ特ニ注意スルヲ要ス
- 二 馬糧ヲ分チテ常用、代用ノ二種トシ常用ハ大麥、燕麥、秣、藁ニシテ代用ハ其ノ他ノ穀類、藪、生草、稗類等ナリ
- 三 軍馬ニ給スル馬糧ノ一日分ヲ稱シテ日量ト云フ日量ハ馬ノ作業、馬種、年齢、體格、消化力其ノ他季節、天候等ニ依リ一定ナラス
- 四 平時ノ規定左ノ如シ

種馬區分	馬		糧		増額飼
	大	一頭	一日ノ	大麥	
	麥	秣	藁	大麥	

第三章 飼與

第一節 馬糧及藁

第一種馬	一貫四百匁	一貫匁	一貫匁	三百五十匁以内
第二種馬	一貫三百匁			
第三種馬	一貫百匁			
第四種馬	一貫匁			

- 一 馬ノ胃ハ體軀ニ比較シテ甚小ナルカ故ニ一時ニ多量ノ飼料ヲ容ルルニ堪エス其ノ日量ハ之ヲ數回ニ分配シテ飼付ヲ爲シ緩徐ニ食セシムルヲ必要トス然レトモ作業上ト關係ヲ顧慮シ確實ニ實施シ得ラルル程度ニ於テ飼付ノ回數ヲ定ムルヲ要ス
- 二 穀類ノ飼付回數ハ一日三回若ハ四回ヲ適當トシ比較的夕飼ヲ多ク

一五六
 スルヲ可トス一日二回以下若ハ五回以上ノ飼付ハ共ニ避クヘキモノト
 ス然レトモ單ニ榮養改善等ノ目的ヲ有スレハ回数ヲ多クスルコトアリ
 三 秣ハ通常穀類飼付ノ中間ニ於テ一日三回以上ニ分與スルヲ可トス藪
 架上ニ秣ノ存スルハ馬ノ徒然ヨリ起ル齧癖、熊癖等ヲ豫防スルノ效ア
 ルヲ以テ決シテ之ヲ捨ツルコトナキニ注意スルヲ要ス
 四 増飼ハ行軍演習等連續劇働ヲ爲サシムル場合ニ給スルモノナリ然レ
 トモ其ノ前後ニ於テモ若干日間適當ニ増飼ヲ爲スコト亦必要ナリ
 五 飼付ニ關シ特ニ注意スヘキ件左ノ如シ
 ○飼付ハ各馬同時ニ之ヲ行ヒ馬ノ騷擾ヲ豫防スルコト
 ○馬量ノ取扱ヘ丁寧ニシ水濕、不潔及減耗等ナカラシムルコト
 ○飼槽ハ飼付前綿密ニ掃除スルコト練飼ヲ給スル場合ニ在リテハ殊ニ
 然リ

○馬ノ採食中ハ成ルヘク靜肅ニシテ咀嚼ヲ全カラシムルヲ要ス故ニ採
 食中手入ヲ行フカ如キハ止ムヲ得サル場合ノ外ハ之ヲ避クルコト
 ○穀類採食中飼料ヲ飼槽外ニ散亂スル癖アル馬ニ對シテハ適當ノ設備
 フ爲シテ之ヲ防クコト
 ○大麥其ノ他消化困難ナル穀類ニハ略同容積ノ切藁ヲ混スルコト
 六 寢藁トシテ最適當ナルハ藁ナリ保温良ク蹄ノ爲ニ粉碎セラレ且尿
 ノ吸呼力ニ富ム然レトモ結塊シ易キノ害アルヲ以テ敷方ニ注意スヘシ
 七 寢藁ハ夕ニ於テ一回ニ分配シ逐次新陳交換ヲ行フヲ常トス元來寢藁
 ハ馬ヲ安息セシメ其ノ體力ヲ快復セシムルノミナラス馬體ノ保温並ニ
 擦傷及ビ汚染ノ豫防等保育上其ノ效大ナルモノナレハ常ニ多量ナルヲ
 可トス即チ糞尿等ノ爲汚レタルモノモ直ニ棄ツルコトナク能ク乾燥シ
 テ使用スルヲ要ス

八 敷詰藁ハ最モ保温ニ適シ且馬ノ作業後直ニ休臥スルニ便ナルヲ以テ新馬竝ニ冬季殊ニ寒地ニ於ケル馬ノ保育上最モ有利ナリ然レトモ注意シテ整理セサレハ藁ノ腐敗ノ爲厩内ノ空氣ヲ變敗セシムルノ害アリ

九 寢藁ノ敷方ハ能ク振ヒ馬房ノ全面ニ平等ニ敷キ前搔ヲ爲ス馬ニ對シテハ前方ニ多クスルヲ可トス

第一節 飲 水

一 動物體ノ約十分ノ七八水分ニテ各組織一トシテ水ヲ含有セサルハナシ故ニ若一定ノ飲水量ヲ缺クトキハ諸種ノ危害ヲ醸シ重病ヲ發スルニ至ル

二 水ノ性質 水ノ温度ハ攝氏ノ十三度乃至十五度内外ヲ可トス、水ハ透明ニシテ濁ラサルヲ要ス歸置ノ後沈渣ヲ生スルハ他物ヲ混スルノ徴

ナリ而シテ水ハ無臭ナルヘシ臭氣ヲ檢スルニハ水ヲ壘内ニ封容シ約五十度ノ温度ヲ以テ之ヲ温メ然ル後嗅ケハ直ニ判別シ得ラル

三 水飼ハ通常飼付前ニ於テ之レヲ行ヒ夏季及ビ行軍演習等馬ノ發汗多キトキハ屢、給スルヲ可トス、飲水量ハ各馬ノ欲スルニ任セ決シテ制限スヘカラス日常ノ所要量ハ季節、天候、作業、飼料等ニ依リ差異アリト雖モ内國種ハ約八升乃至一斗六升ヲ普通トシ洋種ハ比較的多量ヲ要ス

四 劇働ノ直後ニ於テ飽飲セシムヘカラス又過冷ナル水ヲ給スヘカラス是消化器病、蹄病等ヲ發スルノ虞アルニ依ル故ニ若干分時ノ後呼吸ノ鎮靜スルヲ俟チテ水飼スヘシ若渴甚シキトキハ先ツ口ヲ洗ヒ水中ニ乾草及藪等ヲ浮ヘテ放飲ヲ防クヘシ

第四章 馬ノ取扱

第一節 一般ノ取扱

馬ハ温順伶俐ニシテ人ニ馴レ易ク能ク使役ニ服スト雖モ恐怖心強クシテ音響及物體ニ驚キ易ク且粗暴ノ取扱ニ對シテハ反抗心ヲ起シ易キヲ以テ其ノ取扱ハ親切温和ナルヲ要ス

一 馬ニ接近スル法 新馬ニ接近スルニハ通常前方ヨリ穩カナル音聲ヲ發シツツ遲疑セス其ノ肩ニ近ツキ掌ニテ輕ク頸及背ヲ撫テ之ヲ慰ムヘシ馬若疑懼セハ之ヲ沈靜セシメ其ノ嫌ハケル部分ヨリ撫ツヘシ此ノ際若人ヲ避ケ或ハ蹴リ或ハ咬マントスルトキハ馬ノ眼ヲ嚴格ニ凝視シ音聲ニテ威シ其ノ沈靜スルヲ俟チテ再ヒ之ヲ撫テ馬若安心セハ其ノ賞トシテ少許ノ食物ヲ與フヘシ續テ背ヨリ尻ヲ撫テ終ニ至リ頸ヨリ頭

ニ及ホシ毛並ニ從ヒテ額、鼻梁、耳及鬣ヲ撫テ絶エス穩カナル音聲ニテ馬ヲ慰メ以テ其ノ親和ヲ求ムヘシ手入、銜換、鞍置等ノ場合ハ必ス此ノ方法ニ依リテ接近スルヲ要ス古馬ニ在リテモ馬ノ狀況ニ應シ概ネ之ニ準スルモノトス

總テ馬ニ接近スルトキハ馬ノ耳、眼及姿勢ニ注意スヘシ又咬蹴等ノ虞アル位置ニ立ツヘカラス。如何ナル場合ニ於テモ不意ニ接近スル事ナク音聲ヲ以テ豫告スヘシ然レトモ躊躇シツツ接近スルハ亦宜シカラス

二 肢ヲ舉クル法 新馬若肢ニ觸ルルコトヲ嫌ハサルニ至レハ之ヲ舉クルコトヲ教フヘシ其ノ方法ハ馬ノ後方ニ向キ舉ケントスル足ヲ毛並ニ從ヒテ撫テツツ之ヲ握リ此ノ肢ニ托スル體量ヲ他肢ニ移サシムル爲己ノ肩若ハ他手ヲ以テ少シク馬體ヲ推シ徐々ニ之ヲ舉ケ再ヒ地ニ下スヘシ而シテ從順トナルニ從ヒ漸次肢ヲ舉クル時間ヲ長クシ終ニ蹄ヲ鐵籠

ニテ敲キ装蹄ノ作業ニ馴ラスヘシ
 總テ肢ヲ舉クルニハ不時ノ危険ヲ豫防スル爲馬ノ側ニ在リテ後方ニ向
 キ例ヘハ左肢ヲ舉ケントスルトキハ右足ヲ稍、後ニ開キ之ニ自己ノ體
 重ヲ支ヘ左手ニテ馬ノ肢ヲ舉クヘシ此ノ際馬若蹴リ或ハ打タムトスル
 トキハ速ニ右足ヲ軸トシテ外方ニ旋轉スルモノトス
 肢ヲ舉クル際馬若之ヲ嫌フトキハ温聲ヲ以テ百方慰撫ニ勉メ尙從ハサ
 ルトキハ食物ヲ與ヘテ專ラ之カ沈靜ヲ圖ルヘシ
 肢ヲ卸ストキハ俄ニ放ツコトナク靜ニ地ニ著ケシムヘシ
 三 厩内ニ於テ側方ニ寄ラシムル法 先ツ肩ノ傍ニ立チ片手ヲ以テ馬ヲ
 撫テ他手ヲ以テ輕ク馬ノ腹ヲ壓シ後軀ヲ側方ニ寄ラシメ然ル後再ヒ肩
 ヲ壓シテ前軀ヲ寄ラシメ終ニ單簡ナル指示ニテ寄り得ルマテニ之ヲ馴
 ラスヲ要ス

四 水勒ヲ装スル法 左手ヲ以テ項革ヲ取り其ノ韁ヲ左腕ニ掛ケ馬頭ノ
 左側後ニ位置シ右手ヲ以テ馬ノ頭ヲ後方ヨリ抱擁シ其ノ食指ト中指ヲ
 馬ノ右銜受ニ入レテ口ヲ開キ靜ニ銜ヲ含マセ項革ヲ項ニ装シ然ル後右
 手ヲ抜キテ頭絡ノ長短ヲ整フヘシ
 勒ヲ装シ或ハ脱スルニハ總テ温和ニ之ヲ行ヒ耳其ノ他頭部ノ強壓ヲ戒
 メ鬃、鬣等ノ纏フヲ防クヘシ
 銜換ヲ容易ナラシムル爲口ヲ取ルコト頭及耳ニ觸ルルコトヲ十分馴
 ラスヘシ又銜ヲ嫌フ馬ハ水勒銜ヲ装シタル儘飼付ヲ行フトキハ容易ニ
 馴ルルコトアリ

第二節 手入

一 手入ハ馬體ノ垢ヲ去リ疲勞ヲ醫シ榮養ヲ助クルモノナルヲ以テ日々

十分ニ之ヲ行フヲ要ス

二 手入ハ浴ク全身ニ及ホシ些少ノ部分モ遺漏ナキヲ要ス

三 手入適當ナルトキハ鬣及尾毛ノ根ニ垢ヲ留メス指ヲ毛並ニ逆ヒ擦過スルモ汚染セス且被毛ハ垢塵ノ跡ヲ殘サスシテ光澤ヲ帶ヒ馬體ニ密著シアルモノトス

四 馬體中項、鬃甲、腋間、帶徑、陰部、繫等ノ局部ノ手入ハ往々粗漏ニ陥リ易キヲ以テ特ニ注意セサルヘカラス馬體濕潤シ且泥土ニ汚染シタルトキハ藁ヲ以テ濕氣ヲ去リ泥土ヲ除去シタル後手入ヲ行フヘシ

五 手入前馬體ヲ検査シ若負傷部ヲ發見セハ其ノ部ニハ鐵櫛等ヲ使用スヘカラス

六 手入具ハ成ルヘク各馬ニ一組ヲ定メ他馬ト混用セサルヲ可トス

○手入袋ハ根櫛、鐵櫛、毛櫛、木櫛及雜巾ヲ收容スルモノナリ

○鐵櫛ハ毛ノ纏ヲ解キ皮膚ノ垢ヲ搔キ起スモノナリ

○根櫛ハ鐵櫛ヲ用ウヘカラサル部分及鬃、鬣、尾等ノ垢ヲ擦リ去ルニ用ウ

○毛櫛ハ全體ヲ擦リ鐵櫛、根櫛ニテ搔キ起シタル垢ヲ掃キ去ルニ用ウ

○木櫛ハ鬃、鬣、尾ヲ梳ルニ用ウ

○鐵篋ハ蹄裏ノ汚物ヲ除クニ用ウ

○雜巾ハ眼、鼻、口、肛門、陰部、四肢等ヲ拭フニ用ユ

○蹄洗桶ハ雜巾ヲ濯キ又ハ蹄ヲ洗フニ用ウ

○揉藁又藁束ハ毛櫛、根櫛又ハ鐵櫛ニ代用スルモノニシテ屢々之ヲ使用シ殊ニ汗又ハ濕氣ヲ乾カスニ便ナリ

七 手入法ヲ分チテ普通ノ手入、演習後ノ手入トス

普通ノ手入ハ概ネ左ノ順序方法ニ依リ朝夕二回行フヲ例トシ而シテ